

貸主又ハ借主ノ一方ニテ其貸貸ノ契約ヲ爲シタルコトナシト述フル
時ハ其貸銀ノ如何ニ少キヲ問ハス又一方ヨリ他ノ一方ニ既ニ手附
金ヲ與ヘタリト言フヲ問ハス證人ヲ以テ其契約ノ證ヲ立ツ可カラ
ス

此場合ニ於テハ一方ノ者ヨリ其契約ヲ爲シタルコトナシト述フル者
ニ對シ誓ヲ爲ス可キコトヲ求ムルヲ得可シ

第一千七百十六條 口上ヲ以テ爲シタル貸貸ヲ其契約ノ如ク既ニ執行
ヒ始メタル後貸銀ニ付キ争ノ生シタル時其貸銀ノ受取書アラサル
ニ於テハ貸主ノ誓ヲ以テ信據ト爲ス可ク若シ借主評價人ヲシテ評
價ヲ爲サシメント欲スル時ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得可シ但シ其評
價シタル價借主ノ述ヘタル價ニ過クル時ハ借主其評價ノ費用ヲ擔
當ス可シ

第一千七百十七條 借主ハ己ノノ賃借シタル物件ヲ更ニ他人ニ貸與ヘ

又ハ其賃借ノ契約ヲ人ニ讓リ渡スコトヲ得可シ但シ貸主此等ノ事ヲ

特ニ禁シタル時ハ格別ナリトス

貸主ハ貸渡シタル物件ノ全部ニ付キ全上ノ事ヲ禁シ又ハ其一部ノ

ミニ付キ之ヲ禁スルコトヲ得可シ

同上ノ事ヲ禁スル契約ハ決シテ之ニ背クコトヲ得ス

第一千七百十八條 婚姻ヲ結ビタル婦ノ財産賃貸ノ契約ニ付キ此篇第

五卷 婚姻ノニ記シタル規則ハ幼者ノ財産賃貸ノ契約ニモ亦通用

フ可シ 第一千四百二

第一千七百十九條 貸主ハ別段ノ約定ナキ時ト雖モ賃貸ノ契約ノ本義

ニ因テ左ノ三件ヲ爲ス可キノ義務アリ

第一 賃貸ス可キ物件ヲ借主ニ引渡ス事

第二 貸貸シタル物件ヲ其貸與ヘタル目的ニ用ヒ得可キ爲メ之ヲ修繕スル事

第三 物件ヲ貸貸シタル時間借主ノ之ヲ用フルニ阻害ナカラシムル事

第一千七百二十條 貸主ハ總テ其貸與フ可キ物件ノ修理ヲ整ヘテ之ヲ引渡ス可シ

貸主ハ其物件ヲ貸貸シタル時間總テ必要ナル修理ヲ爲ス可シ但シ借主ノ爲ス可キ小補理ハ格別ナリトス 第一千七百五十四條見合

第一千七百二十一條 貸主ハ物件貸貸ノ契約ノ時其物件ニ不良ノ事アルヲ知ルト知ラサルトテ問ハス其不良ノ事ニ因リ借主ノ之ヲ用フルニ阻害アルニ於テハ借主ニ對シテ其責ニ任ス可シ 若シ其不良ノ事アルニ因リ借主ノ爲メ損失アル時ハ貸主之ヲ償フ

可シ

第一千七百二十二條 物件ヲ貸貸シタル時間ニ意外ノ事ニ因リ其物件ノ全ク滅盡シタル時ハ別段訴ヘ出スニ及ハスシテ貸貸ノ契約ヲ取消ス可シ

若シ又其物件ノ一部ノミ滅盡シタル時ハ借主其時ノ景狀ニ從フテ其貸銀ヲ減シ又ハ貸貸ノ契約ヲ取消サントスル訴ヲ爲スヲ自由ナリトス○此二箇ノ場合ニ於テハ一方ヨリ他ノ一方ニ償ヲ爲スニ及ハス

第一千七百二十三條 貸主ハ物件ヲ貸貸シタル時間其物ノ形狀ヲ變更スルヲ得ス

五五七 第一千七百二十四條 物件ヲ貸貸シタル時間急ニ其物件ヲ修理スルノ必要トナルニ至リ貸貸ノ期限ノ終ル迄其修理ヲ遅延スルヲ得サ

ル時ハ借主ノ爲メ如何ニ不便ヲ生シ且其修理ノ時間借主ヲシテ其物件ノ一部ヲ用フルコト能ハサラシムルト雖モ借主之ヲ耐忍セサルヲ得ス

然レ其修理ヲ爲ス時間四十日以上ナル時ハ其時間ノ長短ト借主ノ賃借シタル物件中共用フルコトヲ得サル部分ノ多少トニ准シテ其代銀ヲ減ス可シ

家屋ノ修理ニ因リ借主及ヒ其家族ノ住居ニ必要ナル部分ヲ全ク住居ス可カラサルニ至ラシムル時ハ借主賃借ノ契約ヲ取消スコトヲ得可シ

第一千七百二十五條 借主其賃借シタル物件ヲ用フルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルト雖モ其妨害ヲ爲ス者其物件ヲ己レニ所有ス可キ權アリト述サル時ハ貸主其事ニ付キ借主ニ對シテ其責ニ任スルニ及

ハス但シ此場合ニ於テハ借主自己ノ名目ヲ以テ其妨害者ニ對シテ訴訟ヲ爲スノ權アリ

第一千七百二十六條 若シ又賃借シタル土地又ハ家屋ノ所有ノ權ニ付キ訴訟起リ借主ノ之ヲ用フルコト妨害ノ生シタル時借主其事ヲ貸主ニ報知シタルニ於テハ其妨害ニ准シテ賃銀ヲ減スルノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千七百二十七條 若シ妨害ヲ爲シタル者借主ノ借受ケタル物件ヲ己レニ所有ス可キノ權アリト述フル時又ハ借主他人ヨリ其物件ノ全部又ハ一部ヲ抛棄ス可キノ訴ヲ受ケ又ハ或ル義務ヲ行フ可キノ訴ヲ受ケ自カラ裁判所ニ呼出サレタル時ハ借主其保證人トシテ貸主ノ姓名ヲ申述ヘ之ヲ裁判所ニ呼出ス可シ但シ借主其訴訟ヲ免カレント欲スル時ハ之ヲ免カレコトヲ得可シ

八五七

第七百二十八條 借主ノ爲メニ至重ノ義務ニ箇アリ

第一 其借受ケタル物件ヲ毀壞損敗セサルニ著意シテ之ヲ用ヒ且賃借ノ契約ヲ以テ定メタル用法又其契約アラサルニ於テハ其時ノ模様ニ從ヒ思料ス可キ用法ニ從フテ之ヲ用フ可キ事

第二 預定ノ期限ニ賃銀ヲ拂フ可キ事

第七百二十九條 借主其借受ケタル物件ヲ預定シタルニ非サル用法ニ用ヒ又ハ貸主ノ爲メ損害ヲ生スルコトアル可キ用法ニ用フル時ハ貸主其時ノ景狀ニ從ヒ賃借ノ契約ヲ取消スコトヲ得可シ

第七百三十條 貸主ト借主トニテ賃借ヲ爲シタル家屋又ハ土地ノ模様書ヲ記シタル時ハ借主其家屋又ハ土地ヲ其模様書ノ如ク爲シテ還ス可シ但シ朽廢又ハ防拒ス可カラサル力ニ因リ滅盡毀壞シタル部分ハ格別ナリトス

第七百三十一條 又其模様書ノアラサル時ハ借主其修理ノ整フタル模様ヲ以テ受取タリト看做シ後ニ其修理ヲ整ヘテ之ヲ還ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリトス

第七百三十二條 借主ハ其借受ケタル時間物件ヲ滅盡毀壞シタルノ償ヲ擔當ス可シ但シ自己ノ過失ニ非スシテ滅盡毀壞シタルノ證アル時ハ格別ナリトス

第七百三十三條 借主ハ火災ノ責ニ任ス可シ但シ意外ノ事又ハ防拒ス可カラサル力ニ因リ又ハ造營ノ不良ナルニ因リ火災ノ生シタルコトヲ證シ又ハ近隣ノ家屋ヨリ其火ノ傳ハリシコトヲ證スル時ハ格別ナリトス

九五七

第七百三十四條 借主數人アル時ハ皆連帶シテ火災ノ責ニ任ス可シ

然其借主中一人ノ住所ヨリ火災ノ生シタル證アル時ハ其一人ノ
ニ其責ニ任ヌ可シ

又其借主中ニテ自己ノ住所ヨリ火災ノ生セサル證ヲ立ル者アル時
ハ其者其責ニ任ヌルコトナカル可シ

第一千七百三十五條 借主ハ自己ノ家内ノ者又ハ自己ヨリ更ニ賃借シ
タル者ノ所爲ニ因リ生シタル所ノ滅盡毀壞ヲ己レニ擔當ス可シ

第一千七百三十六條 家屋及ヒ土地ノ賃貸ニ付キ其證書ノアラサル時
ハ其地ノ習慣ニ因リ定マリタル猶豫ノ期限ニ從ヒ貸主又ハ借主ノ
一方ヨリ他ノ一方ニ退去ノコトヲ告知ス可シ

第一千七百三十七條 賃貸ノ證書アル時ハ其證書ニ定メタル期限ノ終
ル時ニ至リ其契約モ亦自カラ終ル可シ但シ此場合ニ於テハ一方ヨ
リ他ノ一方ニ別段退去ノ告知ヲ爲スニ及ハス

第一千七百三十八條 證書アル賃貸ノ契約ノ期限終リシ後ニ借主猶退

去スルコトナク且貸主ヨリ借主ニ退去ス可キコトヲ求メサル時ハ更ニ
自カラ賃貸ノ契約ヲ生シタリトス可シ但シ其更ニ生シタル契約ノ
効ハ證書ナキ賃貸ノ契約ニ管シタル條中ニ之ヲ定ム 第一千七百三
十六條見合

第一千七百三十九條 貸主ヨリ借主ニ退去ス可キノ求メテ爲シタル時
ハ借主猶退去セスト雖モ更ニ自カラ賃貸ノ契約ヲ生シタルモノト
爲ス可カラス

第一千七百四十條 前二條ニ記シタル場合ニ於テ更ニ自カラ賃貸ノ契
約ヲ生シタルト雖モ以前ノ賃貸ニ付テノ保證人ハ其義務ヲ免ル可
シ

第一千七百四十一條 賃貸ノ契約ハ其賃貸ヲ爲シタル物件ノ滅盡シタ
ルニ因リ又ハ借主或ハ貸主其契約ノ義務ヲ行ハサルニ因リ之ヲ取

二六七

消ス可シ

第一千七百四十二條 貸貸ノ契約ハ貸主又ハ借主ノ死去ニ因リ之ヲ取

消ス可カラス

第一千七百四十三條 貸主其貸貸シタル物件ヲ他人ニ賣タル時其買主

ハ公正ノ證書ヲ有スル借主又ハ貸借ヲ爲シタル日ノ分明ナル證書

ヲ有スル借主ヲシテ強テ退去セシムルヲ得ス但シ貸貸ノ證書ニ

其物件ヲ賣拂フコトアル時買主其借主ヲシテ退去セシムルヲ得可キ

コトヲ別段定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第一千七百四十四條 貸貸ノ證書中ニ貸主後ニ其物件ヲ賣ルコトアル時

ハ其買主借主ヲシテ退去セシムルヲ得可キ旨ヲ記シ置キ貸主其借

主ニ對シ爲ス可キ損失ノ償ニ付キ別段ノ契約ナキ時ハ貸主ヨリ次

ノ方法ヲ以テ借主ニ其償ヲ爲ス可シ

第一千七百四十五條 家屋房室舖店ヲ貸貸シタル時ハ貸主ヨリ退去ヲ

爲サシメタル借主ニ其土地ノ習慣ニ從ヒ退去ノ求メヲ爲シタルヨ

リ退去ヲ爲スニ至ル迄ノ時間ノ賃銀ニ當レル金高ヲ其償トシテ拂

フ可シ

第一千七百四十六條 又土地ヲ貸貸シタル時ハ貸主ヨリ借主ニ其貸貸

ヲ約定シタル期限ノ殘期ノ賃銀ノ三分一ニ當レル金高ヲ其償トシ

テ拂フ可シ

第一千七百四十七條 又盛大ナル製造所及ヒ其他許多ノ元金ヲ費スコ

ト要スル建造物ニ管シタル時ハ評價人ヲシテ同上ノ償額ヲ定メシ

ム可シ

第一千七百四十八條 貸主其貸與ヘタル家屋又ハ土地ヲ賣拂フコトアル

時ハ買主其借主ヲシテ退去セシムルヲ得可キコトヲ貸貸ノ契約ニ預

三六七

四六七

メ定メ置キタルニ因リ其買主借主ヲ退去セシメントスル時ハ家屋
ノ借主ヲ退去セシムル前其退去ノ求メヲ爲スニ付キ其地ノ習慣ニ
テ定リタル期限ニ其借主ニ其退去ヲ求ム可シ
又土地ノ借主ニハ其退去ヲ爲サシムルヨリ少クトモ一年前ニ其退
去ノ求メヲ爲ス可シ

第一千七百四十九條 借主ハ貸主ヨリ前數條ニ記シタル償ヲ受ケ又其
貸主ノ償ヲ出サ、ルニ於テハ買主ヨリ其償ヲ爲シタル上ニ非サレ
ハ退去スルニ及ハス

第一千七百五十條 賃貸ノ公正ノ證書アレサル時又ハ其賃貸ノ契約ヲ
爲シタル日ノ分明ナラサル時ハ買主借主ニ對シテ其償ヲ出スニ及
ハス

第一千七百五十一條 賣主ノ買戻ヲ爲シ得可キ契約ヲ以テ賣買ヲ爲シ

タル時ハ買主其賣主ノ買戻ヲ爲シ得可キ期限ノ終リシニ因リ其確
定ノ所有者トナルニ至ル迄ハ借主ヲ退去セシムルノ權ヲ行フヲ得
ス

○第二款 家屋ノ賃貸ニ付キ別段ノ規則

第一千七百五十二條 家屋ノ借主其借受ケタル家屋内ニ相當ノ「ミユウ
ル」ヲ備ヘサル時ハ貸主ヨリ之ヲ退去セシムルヲ得可シ但シ借主
其賃銀ヲ拂フ可キ保證人ヲ立ル時ハ格別ナリトス

五六七

第一千七百五十三條 家屋ノ借主其賃銀ヲ拂ハサルニ因リ其所有者ノ
爲メ己ノ「ミユウブル」ヲ差押ラル、時ハ其借主ヨリ更ニ其家屋ヲ借
受ケタル者其時ニ負フタル自己ノ借受賃銀ノ高ニ至ル迄其所有者
ニ對シテ義務ヲ擔當ス可シ但シ此場合ニ於テ借主ヨリ更ニ借受ケ
タル者ハ自己ノ貸主ニ前拂シタル金高アルヲ述ヘ其所有者ニ對

シテ負フタル義務ヲ免カル、トテ得ス

借主ヨリ更ニ借受ケタル者其地ノ習慣ニ從ヒ又ハ其借受ノ契約ニ

從フテ拂フタル賃銀ハ前拂シタルモノト看做ス可カラス

第一千七百五十四條 借主ノ擔當ス可キ小補理ハ別段ノ契約アル時ノ

外其地ノ習慣ニ從ヒ定マリタルモノトス可シ但シ左ノ物件ニ付キ

爲ス可キ補理ヲ以テ最モ重立タルモノトス

隙竈ノ火室、隙竈ノ背面ノ鐵板、隙竈ノ周圍ノ裝具及ヒ其裝具上

ニアル板

房室及ヒ其他家屋ノ部分ノ牆壁ノ下端ヨリ二メートルノ高サ

ニ至ル迄ノ塗飾

房室ノ敷磚、敷石但シ其毀損シタル部分ノ少ナキ時ノミニ限ル

可シ

窓ノ玻璃板但シ霞又ハ其他意外ノ事又ハ防拒ス可ラサル力ニ

因リ其玻璃板ノ毀損シタル時ハ借主其補理ヲ擔當スルニ及ハ

ス

入口ノ戸扉、亮窓ノ戸扉、アクリド舖店ノ外部ヲ閉ツル板、ツツカヒ蝶鉸、門錠

第一千七百五十五條 借受タル家屋ノ朽廢シタルニ因リ又ハ防止ス可

カラサル力ニ因リ補理ヲ爲ス可キニ至リシ時ハ借主之ヲ擔當スル

ニ及ハス

第一千七百五十六條 井ヲ浚ヒ及ヒ^{コモン}廁ヲ淨ムルコトハ別段契約アル時

ノ外貸主之ヲ擔當ス可シ

第一千七百五十七條 家屋ノ全部又ハ一部又ハ舖店及ヒ房室等ニ具フ

ル「ミニユブル」ヲ賃貸シタル時ハ其地ノ習慣ニ從ヒ其家屋ノ全部又ハ

一部又ハ舖店及ヒ房室等ノ賃貸ニ付キ定マリタル通常ノ期限間其

「ミューブル」ヲモ亦貸與ヘタルモノト看做ス可シ

第一千七百五十八條 「ミューブル」ノ備ハリタル房室ノ賃貸ニ付キ其賃銀
ヲ一年幾許ト定ムル時ハ一年毎ノ期限ヲ以テ其契約ヲ爲シタルモ
ノト看做ス可シ

又其賃銀ヲ一月幾許ト定メタル時ハ一月毎ノ期限ヲ以テ契約ヲ爲
シタルモノト看做ス可シ

又其賃銀ヲ一日幾許ト定メタル時ハ一日毎ノ期限ヲ以テ其契約ヲ
爲シタルモノト看做ス可シ

若シ其賃銀一年又ハ一月又ハ一日幾許ナル可キヤヲ定メサル時ハ
其地ノ習慣ニ從テ其契約ノ期限ヲ定メタルト看做ス可シ

第一千七百五十九條 家屋又ハ房室ノ借主賃借ノ證書ニ記シタル期限
ノ終リシ後猶退去セズシテ貸主之ヲ拒ムコトナキ時ハ其借主其地ノ

習慣ヲ以テ定メタル期限以前ト同一ノ約束ニテ之ヲ借受ケシモ
ノト看做ス可シ但シ貸主ハ借主ニ對シ其地ノ習慣ヲ以テ定メタル
期限ニ其退去ノ求メテ爲シタル上ニ非サレハ其借主ヲ退去セシム
ルコトヲ得ス又借主ハ同上ノ期限ニ貸主ニ對シ退去ノ告知ヲ爲シタ
ル上ニ非サレハ自カラ退去スルコトヲ得ス

第一千七百六十條 借主ノ過失ニ因リ其賃貸ノ契約ヲ取消シタル時ハ
借主其貸主ノ更ニ他人ニ貸與フルコトヲ得ルニ必要ナル時間ノ借賃
ヲ拂フ可シ但シ借主其借受ケタル家屋又ハ房室ニ害ヲ加ヘタル時
ハ亦其償ヲ出ス可シ

第一千七百六十一條 貸主ハ其貸與ヘタル家屋ニ自カラ住セント欲ス
ルコトヲ述フルト雖モ賃貸ノ契約ヲ取消スコトヲ得ス但シ之ニ反シタ
ル契約アル時ハ格別ナリトス

第七百六十二條 貸貸ノ契約ニ貸主其貸與ヘタル家屋ニ自カラ住
セント欲スル時ハ借主ヲシテ退去セシムルヲ得可キヲ定メタル
ニ於テハ其借主ヲシテ退去セシムル前其地ノ習慣ニテ定マリタル
期限ニ其退去ノ求メヲ爲ス可シ

〇第三款 土地ノ貸貸ニ付キ別段ノ規則

第七百六十三條 土地ノ利益ヲ貸主ト共ニ分ツ可キノ契約ニテ耕
作ヲ爲ス者ハ其土地ヲ更ニ他人ニ貸與フルヲ得ス又其借受ノ契
約ヲ他人ニ譲リ渡スヲ得ス但シ此等ノ事ヲ爲シ得可キノ權ヲ貸
貸ノ契約ヲ以テ特ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第七百六十四條 借主前條ノ契約ニ背ク時ハ貸主其土地ヲ取還シ
且借主其契約ニ背キタルニ因リ貸主ノ爲メ生シタル損失ノ償ヲ爲
ス可シ

第七百六十五條 土地ノ貸貸ノ契約ニ定メタル其方積具ノ方積ニ
リ更ニ少ク又ハ更ニ多キ時ハ此篇第六卷買賣ニ記シタル場合ト規則
トニ循テ其貸貸ヲ増減ス可シ第七百六十七條以下見合

第七百六十六條 土地ノ借主其土地ヲ耕作スルニ必要ナル獸類ト
器具トヲ備フルヲキ時又ハ其耕作ヲ廢止シタル時又ハ其地ヲ耕
作スル方法ノ粗畧ナル時又ハ其土地ヲ契約ニ定メタル以外ノ方法
ニ用ヒタル時又ハ其他總テ借主賃借ノ契約ニ背キタルニ因リ貸主
ノ爲メ損害ヲ生シタル時ハ貸主其時ノ景狀ニ從ヒ其契約ヲ取消ス
ヲ得可シ

借主ノ所行不長ナルニ因リ同上ノ契約ヲ取消シタル時ハ借主第千
七百六十四條ニ記シタル如ク貸主ノ受ケタル損害ヲ償フ可シ

第七百六十七條 土地ノ借主ハ賃借ノ契約ニ定メタル場所ニ其收

二七七

納物ヲ時へ置ク可シ

第一千七百六十八條 土地ノ借主ハ其地ヲ侵奪スル者アル時貸主ニ之ヲ告知ス可シ若シ之ヲ告知セズシテ貸主ノ爲メ損失アル時ハ借主之ヲ償フ可シ

其告知ハ其土地ト貸主ノ住所トノ間ノ距離ニ從ヒ訴訟ノ相手方ヲ裁判所ニ呼出ス爲メ定メタル期限 訴訟法第七十二條 第七十三條見合セト同一ノ期限内ニ之ヲ爲ス可シ

第一千七百六十九條 數年間土地ノ貸借ノ契約ヲ結ビ其期限内中ノ一年其土地ヨリ收納スル穀物ノ全部又ハ半以上ヲ意外ノ事ニ因リ失フアル時ハ借主其借賃ヲ減ス可キノ求メヲ爲スヲ得可シ但シ借主其前年ノ收納ニ因リ既ニ其損失ヲ償フニ足ル可キ利益ヲ得タル時ハ格別ナリトス

前年ノ收納ニ因リ其損失ヲ償フニ足ル可キ利益ヲ得タルヲナキ時ハ同上ノ契約ノ期限ノ終リニ至リ嘗テ其期限内中數年間ノ利益ト損失ト相殺シタル上其減ス可キ賃銀ノ高ヲ算計ス可シ
同上ノ場合ニ於テ裁判役ハ借主ノ受ケタル損失ノ割合ヲ以テ借賃ノ一部ヲ拂フヲ假リニ免ルヌヲ得可シ

第一千七百七十條 土地ノ貸借ノ契約ノ期限唯一年ナル時其收納ス可キ物ノ全部又ハ半以上ヲ失フアルニ於テハ借主其損失ノ割合ニ從ヒ其借賃ノ一部ヲ拂フヲ免カル可シ
其損失收納ス可キ物ノ半以下ナル時ハ借主其借賃ヲ減スルヲ得ス

三七七

第一千七百七十一條 賃借シタル土地ヨリ生スル收納物ヲ其土地ヨリ取去リタル後失フタル時ハ借主其借賃ヲ減スルヲ得ス

然に貸借ノ契約ニ其土地ヨリ生ス可キ收納物ノ一部ヲ貸主ノ所得ト爲ス可キヲ定メ置キタル時ハ貸主其收納物ノ損失ノ一部ヲ己レニ擔當ス可シ但シ借主其貸主ノ所得トス可キ部分ヲ引渡ス可キ催促ヲ受ケ猶之ヲ渡サ、ル時ハ借主一人ニテ其收納物ノ損失ヲ擔當ス可シ

又土地ノ貸借ノ契約ヲ爲シタル時借主自己ノ爲メ損失ヲ生ス可キ原由アルヲ既ニ知リ其後ニ至リ其損失ヲ受ケタル時ハ其借賃ヲ減セント求ムルヲ得ス

第一千七百七十二條 借主ハ別段ノ契約ニ因リ意外ノ事ニ付テノ損失モ亦一身ニ擔當スル事アリ

第一千七百七十三條 前條ノ契約ハ霰雷火凍沍不熟等ノ如ク通常ノ意外ノ事ノミニ限ル可シ

其契約ハ兵亂洪水等ノ如ク至希ニシテ非常ナル意外ノ事ニ及ホスヲナシ但シ借主通常ト非常ト之間ハス總テ意外ノ事ニ付テノ損失ヲ自己ニ擔當ス可キ契約ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第一千七百七十四條 總テ證書ナキ土地貸借ノ契約ハ借主其借受ケタル土地ノ收納物ノ全部ヲ所得ト爲スニ必要ナル期限閉之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

故ニ獸類ニ喂ス可キ草ヲ生セシムル地又ハ葡萄園及ヒ其他一年内ニ其收納物ヲ全ク收ムルヲ得可キ土地ノ貸借ノ契約ハ一年毎ノ期限ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ又耕作ヲ爲ス可キ土地ヲ其地力ヲ休スル期限ニ從ヒ區分シタル時ハ其期限ニ准シタル年數ノ間其貸借ノ契約ヲ爲シタルト看做ス可シ

第一千七百七十五條 土地ノ貸借ノ契約ハ其證書ナシト雖モ前條ニ記

ナル所ニ循ヒ其契約ヲ爲シタルト看做ス可キ期限ノ終リニ至リ自
カラ終リタルモノト爲ス可シ 第一千七百三
十六條見合

第一千七百七十六條 證書アル土地貸借ノ契約ニ付キ期限ノ終リニ至
リ借主猶其地ヲ退去スルコトナク貸主モ亦之ヲ退去セシムルコトナキ
時ハ更ニ貸借ノ契約ヲ生シタルモノト爲ス可シ但シ其更ニ生シタ
ル契約ノ効ハ第一千七百七十四條ニ定メタル所ト同一ナリトス 第七千
三十八
條見合

第一千七百七十七條 土地ヲ退去スル借主ハ己ノ代テ之ヲ借受ル者
ニ翌年ノ作業ヲ爲スニ入用ナル房舎及ヒ其他便利トナル可キ物ヲ
遣シ置ク可シ又後ニ借受クル者ハ獸類ニ喂ス可キ草類ヲ收ムル爲
メ及ヒ遣シ置キタル收納物ヲ收ムル爲メ入用ナル房舎及ヒ其他便
利トナル可キ物ヲ退去スル借主ノ用ニ供セシム可シ

但シ此等ノ場合ニ於テハ其地ノ習慣ニ從フ可シ

第一千七百七十八條 退去スル土地ノ借主嘗テ其土地ヲ借受ケタル時
藥及ヒ肥料ヲ得タルニ於テハ亦其退去ノ時其一年間ノ藥及ヒ肥料
ヲ遣シ置ク可シ又借主嘗テ此等ノ物件ヲ得サリシ時ト雖モ貸主其
評價ヲ爲サシメタル上之ヲ遣シ置カシムルコトヲ得可シ

○第三章 人力ノ賃貸

第一千七百七十九條 人力ノ賃貸ノ種類中重ナルモノ三箇アリ

- 第一 使用ヲ受クル者ヲ雇フ事
- 第二 人ノ身體及ヒ商品ノ水陸運送ヲ爲ス者ヲ雇フ事
- 第三 請負ノ契約ニ因リ造營工作ヲ爲ス者ヲ雇フ事

○第一款 奴婢及ヒ工丁ヲ雇フ事

第一千七百八十條 定マリシ期限ノ間又ハ定マリシ工業ヲ爲スタメノ

八七七

外人ニ雇ハル、事ヲ得ス

第一千七百八十一條 (千八百四十年八月二日廢ス)雇主ノ誓ニ從ヒ左ノ
三件ヲ確的トス可シ

雇賃ノ分量

既ニ經過シタル一年間ノ雇賃ヲ拂フタル事
本年分ノ雇賃中ニテ其一部ヲ算計シタル事

○第二款 水陸ノ運送ヲ爲ス者ヲ雇フ事

第一千七百八十二條 水陸ノ運送ヲ爲ス者ハ其附託ヲ受ケシ物ヲ管守
シテ之ヲ保全スルニ付キ此篇第十一卷附託ノ事及ヒ雙方相爭フニ
記スル旅店ノ主人ニ等シキ義務ヲ負フ可シ

第一千七百八十三條 水陸ノ運送ヲ爲ス者ハ其舟又ハ車ノ内ニ既ニ積
入レタル物ヲ己レニ擔當ス可キノミニ非ス其舟又ハ車ノ内ニ積入

ル、爲メ港口又ハ庫中ニテ附託ヲ受ケタル物モ亦己レニ擔當ス可
シ

第一千七百八十四條 水陸ノ運送ヲ爲ス者ハ其附託ヲ受ケタル物ヲ失
ヒ又ハ毀損シタル責ニ任ス可シ但シ意外ノ事又ハ防拒ス可カラサ
ルカニ因リ之ヲ失ヒ又ハ毀損シタル旨ヲ證スル時ハ格別ナリトス
第一千七百八十五條 水陸ノ運送ヲ爲ス者ハ己レノ附託ヲ受ケタル金
高荷物包袋ヲ記ス可キ簿冊ヲ設ケ置ク可シ

第一千七百八十六條 又水陸ノ運送ヲ爲ス者及ヒ之ヲ指揮スル者又ハ
舟長ハ其者ト他人トノ間ニ於テ法律ト爲ス可キ格別ノ規則ヲ遵守
ス可シ

○第三款 請負ノ契約

九七七

第一千七百八十七條 造營工作ヲ爲ス可キ人ニ任スル時ハ其任ヲ

受ケタル者其勞力ノミヲ賃貸シ又ハ其造營工作ニ用フル材料モ亦
備辦ス可キノ契約ヲ爲スヲ得可シ

第一千七百八十八條 造營工作ヲ爲ス可キ者之ニ用フ可キ材料ヲモ亦
備辦シタル時其材料ヲ雇主ニ引渡ス前何レノ方法ヲ論セス其材料
ノ滅盡破壞シタルニ於テハ其雇工者其損失ヲ擔當ス可シ但シ雇主
其雇工者ヨリ其材料ヲ受取ル可キノ求メテ受ケ猶之ヲ受取ラザリ
シ時ハ格別ナリトス

第一千七百八十九條 造營工作ヲ爲ス者其勞力ノミヲ賃貸シタル場合
ニ於テ其造營工作ヲ爲ス材料ノ滅盡破壞シタル時ハ其雇工者其損
失ヲ擔當スルニ及ハス但シ雇工者己レノ過失ニ因リ其材料ヲ滅盡
破壞セシメタル時ハ格別ナリトス

第一千七百九十條 前條ノ場合ニ於テ雇主未ダ造營工作シタル物ヲ檢

視ス可キノ求メテ受クルヲナク且之ヲ受取ラサル内ニ其物ノ滅盡
破壞シタル時ハ縱令雇工者ノ過失ニ非スト雖モ雇工者其雇賃ヲ得
ルヲ能ハス但シ其造營工作ニ用ヒタル材料ノ不良ナルニ因リ其物
ノ滅盡破壞シタル時ハ格別ナリトス

第一千七百九十一條 造營工作ヲ區分シテ請負ヒ又ハ尺度ニ從テ請負
フタル時ハ其成就シタル部分毎ニ雇主其檢視ヲ爲スヲ得可シ但
シ雇主ヨリ雇工者ニ既ニ成就シタル造營工作ノ割合ヲ以テ其賃銀
ヲ拂フタル時ハ其拂フタル部分ニ付キ既ニ檢視ヲ爲シタルモノト
看做ス可シ

第一千七百九十二條 請負ニテ造リタル建造物其造法ノ不良ナルニ因
リ其全部又ハ一部ノ滅盡破壞シタル時ハ其請負人十年ノ時間其責
ニ任ス可シ但シ土地ノ不良ナルニ因リ其建造物ノ滅盡破壞シタル

二八七

時モ亦同一ナリトス

第一千七百九十三條 建造者土地ノ所有者ト協議シタル積書ニ從ヒ請負ニテ建造ヲ爲ス可キヲ任シタル時ハ其建造者工丁ノ勞力又ハ材料ヲ増シタルヲ口實ト爲シ又ハ積書ニ記シタル所ヲ變易シ或ハ増加シタルヲ口實ト爲シテ其價ヲ増サント求ム可カラス但シ土地ノ所有者書面ヲ以テ其變易及ヒ増加ヲ許可シタル上ニテ雙方其價ヲ協議シタル時ハ格別ナリトス

第一千七百九十四條 雇主ハ造營工作ノ既ニ始リシ後ト雖モ請負人ニ其費用並ニ其勞力及ヒ其利得トナル可キ諸件ヲ償フ時ハ其請負ノ契約ヲ取消スヲ自由ナリトス

第一千七百九十五條 請負ノ契約ハ請負ヲ爲ス工丁又ハ建造者ノ死去ニ因リ之ヲ解除ス可シ

第一千七百九十六條 然レ請負人ノ死去ノ時既ニ成就シタル造營工作及ヒ備辦シタル材料雇主ノ利益トナルニ於テハ請負ノ契約ニ定メタル價ノ割合ヲ以テ雇主ヨリ其請負人ノ遺物相續人ニ相當ノ償ヲ爲ス可シ

第一千七百九十七條 請負人ハ其使用スル者ノ所爲ヲ皆己ニ擔當ス可シ

第一千七百九十八條 坊丁匠丁又ハ總テ請負ニテ造リタル家屋及ヒ其他ノ造營工作ヲ爲スニ使用ヲ受クル工丁ハ其造營工作ヲ爲サシムル者ヨリ請負人ニ拂フ可キ殘額ニ至ル迄ノ外其造營工作ヲ爲サシムル者ニ對シテ訴ヲ爲スヲ得ス

三八七

第一千七百九十九條 坊丁匠丁鎖工等自カラ請負ヲ爲シタル時ハ此一款ニ定メタル規則ニ循フ可シ但シ此等ノ者ハ各其職業ニ付キ請負

人ナリト看做ス可シ

○第四章 獸類ノ貸借

○第一款 總規則

第千八百條 獸類貸借ノ契約トハ貸主ト借主ト互ニ協議シタル所ニ從ヒ一方ヨリ他ノ一方ニ獸類ヲ貸與ヘ他ノ一方ニテ之ヲ管守シ且畜養スルノ契約ヲ云フ

第千八百一條 獸類ノ貸借ニ數種アリ

獸類ノ通常ノ貸借

雙方互ニ獸類ノ數ノ半ヲ出合スル貸借

土地ノ所有者其地ヲ借受クル者ト爲シタル獸類ノ貸借又ハ土地ノ所有者自己ト土地ノ利益ヲ分ツ可キノ約束ニテ其地ヲ借受クル者ト爲シタル獸類ノ貸借

又其外通常不當ニ獸類ノ貸借ノ契約ト稱スルモノアリ

第千八百二條 農業商業ノ爲メ利益トナリ又ハ増殖ス可キ獸類ハ如

何ナル種類タルヲ問ハス之ヲ貸與フルコトヲ得可シ

第千八百三條 別段ノ契約ナキ時ハ次ノ規則ヲ以テ獸類ノ貸借ヲ定

ム可シ

○第二款 獸類ノ通常ノ貸借

第千八百四條 獸類ノ通常ノ貸借トハ増殖シタル獸類ノ半ヲ借主ノ利益ト爲シ又其損失ノ半ヲ借主ノ損失ト爲ス可キ約束ニテ一方ヨリ他ノ一方ニ獸類ヲ貸與ヘ其借主之ヲ管守シ且畜養スル契約ヲ云フ

第千八百五條 獸類ノ貸借ノ契約書ニ其獸類ノ評價ヲ記スルト雖モ

其所有ノ權ヲ借主ニ移スコトヲ唯其契約ノ終ニ至リ利益又ハ損失

六八七

ノ幾許ナルヤヲ定ムル爲メナリトス

第千八百六條 借主ハ其獸類ヲ保全スルニ付キ懇切ニ着意ス可シ

第千八百七條 借主ハ己ノ過失ニ因リ其獸類ヲ傷害シタル時ノ外

意外ノ事ヲ擔當スルニ及ハス

第千八百八條 借主ト貸主トノ間ニ争ノ生スル時ハ借主ハ意外ノ事

アリシ旨ヲ證シ貸主ハ借主ノ過失アリシ旨ヲ證ス可シ

第千八百九條 意外ノ事ニ付キ獸類ノ死シタルニ因リ借主自己ノ義

務ヲ免レタル時ハ必ス貸主ニ其獸皮ヲ返ス可シ

第千八百十條 借主ノ過失ニ非スシテ獸類ノ全數死シタル時ハ貸主

其損失ヲ一身ニ擔當ス可シ

又其獸類ノ一部ノ死シタル時ハ嘗テ評價シタル時ノ價ト其貸借ノ

契約期限ノ終ル時評價シタル價トニ從ヒ其損失ヲ借主ト貸主トノ

雙方ニテ共ニ擔當ス可シ

第千八百十一條 左ノ條件ハ之ヲ契約ス可カラス

借主ノ過失ニ非ラス意外ノ事ニ因リ獸類ノ全數死スルト雖モ

借主其損失ヲ一身ニ擔當ス可キ事

若シ獸類ニ損失アル時ハ借主其利益ヨリ更ニ大ナル損失ノ部

分ヲ擔當ス可キ事

貸主貸借ノ契約期限ノ終リニ至リ其嘗テ貸與ヘタル獸類ノ數

ヨリ更ニ多數ヲ得可キ事

總テ此等ノ契約ハ之ヲ結ヒタルト雖モ其効ナカル可シ

借主ハ其獸類ノ乳汁糞料及ヒ其獸力ヲ己ノ利益ト爲ス可シ

又獸毛及ヒ獸仔ハ貸主ト借主トニ之ヲ分ツ可シ

七八七

第千八百十二條 借主ハ其借受ケタル獸類又ハ獸仔ヲ貸主ノ承諾ヲ

得スシテ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與スルコトヲ得ス貸主モ亦借主ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與スルコトヲ得ス

第千八百十三條 他人ノ土地ヲ借受クル者ニ獸類ヲ貸與ヘタル時ハ其土地ノ所有者ニ其旨ヲ告知ス可シ若シ其告知ヲ爲サ、ル時ハ其土地ノ所有者其地ヲ借受クル者ノ借賃ノ償トシテ其獸類ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フコトヲ得可シ

第千八百十四條 借主ハ貸主ニ告知セヌシテ獸毛ヲ剪取スルコトヲ得ス

第千八百十五條 獸類ノ貸借期限ヲ定ムル契約アラサル時ハ三年ノ時閉其貸借ヲ爲シタルト看做ス可シ

第千八百十六條 借主其義務ヲ行ハサル時ハ三年ノ期限ニ至ラスト雖モ貸主其貸借ヲ廢スルノ求メヲ爲スコトヲ得可シ

第千八百十七條 獸類ノ貸借ノ終リシ時又ハ其契約ヲ解除シタル時

更ニ其獸類ヲ評價ス可シ

貸主ハ嘗テ評價シタル價高ニ充ル迄獸類ヲ己レニ取戻シ其餘ヲ借主ト貸主トニ分ツ可シ

又獸類ノ數嘗テ評價シタル價額ニ充ツルニ足ラサル時ハ貸主其現存スル數ヲ己レニ得タル上其損失ヲ貸主ト借主トニ分ツ可シ

○第三款 雙方互ニ獸類ノ數ノ半ヲ出合スル貸借

第千八百十八條 雙方互ニ獸類ノ數ノ半ヲ出合スル貸借トハ雙方ノ者ヨリ獸類ノ數ノ半ヲ出合セ其全數ヲ一方ニ借受ケ其利益ト損失トヲ雙方ニ分ツ會社ノ契約ヲ云フ

第千八百十九條 借主ハ獸類ノ通常ノ貸借ノ時ノ如ク獸類ノ乳汁糞料及ヒ其獸力ヲ自己ノ利益ト爲ス可シ

貸主ハ獸毛ノ半ト獸仔ノ半トヲ得可シ
總テ之ニ反シタル契約ハ其効ナカル可シ但シ其獸類ノ貸主土地ノ
所有者ニシテ借主其地ヲ借受ケタル者タル時又ハ其所有者ト其地ノ
利益ヲ分ツ可キ約束ヲ以テ其地ヲ借受ケタル者タル時ハ格別ナリト
ス

第千八百二十條 其他獸類ノ通常ノ貸借契約ノ規則ハ雙方互ニ獸類
ノ半ニ出合セタル貸借ニモ亦通シ之ヲ用フ可シ

〇第四款 土地ノ所有者ヨリ其土地ヲ借受ケル者ニ獸類ヲ
貸與フル契約又ハ其所有者ト其土地ノ利益ヲ分ツ可キ
約束ニテ其地ヲ借受ケル者ニ獸類ヲ貸與フル契約

〇第一節 土地ノ所有者其土地ヲ借受ケル者ニ獸類ヲ貸
與フル契約

第千八百二十一條 此契約又之ヲ「シニエテルドフェール」ト云フハ土地ノ
所有者其土地ト獸類トヲ貸與ヘ其契約ノ期限ノ終リニ至リ借主其
嘗テ借受ケタル時評價セシ價ニ均シキ獸類ヲ遣シ置ク可キ契約ヲ
云フ

第千八百二十二條 土地ノ所有者土地ヲ借受ケル者ニ貸與フル獸類
ヲ評價シタルト雖モ其獸類所有ノ權ヲ借主ニ移スコトナシ借主ハ其
獸類ヲ借受ケル時ノ損失ヲ己レニ擔當ス可キ義務アリトス

第千八百二十三條 借主土地ヲ借受ケル時其獸類ヨリ得ル所ノ利
益ハ皆自己ノ所得ト爲ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別
ナリトス

第千八百二十四條 土地ヲ借受ケル者ニ獸類ヲ貸與ヘタル時ハ借主
其糞料ヲ自己ノ利益ト爲ス可カラズ之ヲ其土地ニ屬シタルモノト

シテ其耕作ノ爲メノミニ用フ可シ

第一千八百二十五條 意外ノ事ニ因リ其獸類ノ全數ヲ失フタル時ト雖モ借主其損失ヲ己ニ擔當ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格

別ナリトス

第一千八百二十六條 土地ノ貸借ノ契約期限ノ終リニ至リ借主ハ其當テ評價シタル獸類ノ價高ヲ借主ニ拂ヒ其獸類ヲ己レニ有シ置クヲ得ス當テ其借受ケシ獸類ニ均シキ價ノ獸類ヲ遺シ置ク可シ若シ其獸類ノ數不足ナル時ハ借主其不足ノ部分ヲ價ヲ以テ補フ可ク若シ又餘分アル時ハ其餘分ヲ己レノ所得ト爲スヲ得可シ

○第二節 土地ノ所有者ト其地ノ利益ヲ分ツ可キ約束ニ

テ土地ヲ借受クル者ニ其所有者ヨリ獸類ヲ貸與フル

契約

第一千八百二十七條 土地ノ利益ヲ其所有者ト共ニ分ツ可キ約束ニテ之ヲ借受ケシ者ノ過失ニ非ラスシテ其借受ケシ獸類ノ全數死スル時ハ貸主其損失ヲ己レニ擔當ス可シ

第一千八百二十八條 土地ノ利益ヲ其所有者ト共ニ分ツ可キ約束ニテ之ヲ借受ケシ者其借受ケタル羊毛ノ己レニ屬ス可キ部分ヲ通常ノ價ヨリ更ニ低價ニテ貸主ニ讓ル可キ事又ハ獸類ヨリ得可キ利益中ニテ貸主其借主ノ得ル所ヨリ更ニ多分ノ利益ヲ得可キ事又ハ貸主獸類ノ乳汁ノ半ヲ得可キ事ノ契約ヲ爲スヲ得可シ然レ同上ノ借主獸類ノ損失ヲ全ク己レニ擔當ス可キノ契約ハ之ヲ爲スヲ許サス

第一千八百二十九條 此類ノ獸類貸借ノ契約ノ期限ハ其土地ノ貸借ノ契約ノ期限ト同時ニ終ル可シ

九七 第千八百三十條 其他此類ノ獸類貸借ノ契約ハ獸類ノ通常ノ貸借契約ノ規則ニ循フ可シ

○第五款 通常不當ニ獸類ノ貸借ノ契約ト稱スル契約

第千八百三十一條 一頭又ハ數頭ノ牛ヲ畜養セシムル爲メ及ヒ其小屋ヲ設ケシムル爲メ人ニ其牛ヲ貸與ヘタル時ハ其貸主其所有ノ權ヲ有ツ可シ但シ其貸主ハ其貸與ノ時閉生レタル牛仔ノミチ己レノ利益ト爲スヲ得可シ

○第九卷 會社ノ契約千八百四年三月八日決定同月十八日布告

○第一章 總規則

第千八百三十二條 會社ノ契約トハ二人以上ニテ互ニ物ヲ共通シ其

利益ヲ分クントスル契約ヲ云フ

第千八百三十三條 會社ノ契約ハ法ニ適シタル事ヲ目的ト爲ス可シ且會社中各人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲ス可シ

會社中ノ各人ハ金高又ハ物品又ハ勞力ヲ其會社ニ供ス可シ

第千八百三十四條 會社ノ契約ノ目的ト爲ス所百五十フランク以上ノ價ナル時ハ其契約ノ證書ヲ記ス可シ

又其目的ト爲ス所百五十フランク以下ノ價ナル時ト雖モ其契約書ニ記シタル所ヨリ更ニ餘分ノ事又ハ其契約書ニ記シタル所ト異ナリタル事ハ證人ヲ以テ證スルヲ得ス又其契約書ヲ記シタル前又ハ其時又ハ其後ニ言說シタルト云フ所ノ事モ亦證人ヲ以テ證スルヲ得ス 第千三百四十條見合セ

五九七

○第二章 會社ノ種類

第一千八百三十五條 會社ハ之ヲ分ツテ二種トス一ハ諸般ノ財産ニ付テノ會社又一ハ別段定メタル財産ニ付テノ會社ナリ

○第一款 諸般ノ財産ニ付テノ會社

第一千八百三十六條 諸般ノ財産ニ付テノ會社ニ二種アリ一ハ現ニ所有スル諸般ノ財産ニ付テノ會社又一ハ諸般ノ利益ニ付テノ會社ナリ

第一千八百三十七條 現ニ所有スル諸般ノ財産ニ付テノ會社トハ社中ノ者其現ニ所有スル動産及ヒ不動産ノ全部ト其動産及ヒ不動産ヨリ得可キ利益トヲ共通スル會社ヲ云フ

又此種類ノ會社ニハ同上ノ動産及ヒ不動産ヨリ得可キ以外ノ利益モ亦共通ト爲ヌヲ得可シト雖モ社中ノ者遺物相續又ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ名義ニテ後ニ人ヨリ得ル所ノ財産ハ唯其入額

所得ノ權ノミヲ共通ト爲ヌヲ得可シ但シ其遺物相續又ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ名義ニテ後ニ人ヨリ得ル所ノ財産所有ノ權ハ夫婦ノ間ノ契約ニ付キ前ニ第一千五百二十六條見合 記シタル所ヲ除クノ外總テ之ヲ共通ト爲ヌヲ契約スルヲ得ス

第一千八百三十八條 諸般ノ利益ニ付テノ會社トハ其會社ヲ結フ時間ニ如何ナル名義タルヲ問ハス總テ勞力ニ因リ得ル所ノ諸件ヲ共通スル會社ヲ云フ但シ其會社ニ加ハリシ各人其契約ヲ結ヒシ時所有スル動産ハ亦之ヲ共通ス可シト雖モ其不動産ニ付テハ其入額所得ノ權ノミヲ共通ス可シ

第一千八百三十九條 諸般ノ財産ニ付テノ會社ノ契約ニ其會社ノ種類ヲ別段定メタルヲナキ時ハ諸般ノ利益ニ付テノ會社ノ契約ヲ結ヒタリト看做ス可シ

第一千八百四十條 互ニ財産ヲ授受スルコトヲ得可カラサル者又ハ互ニ利益ヲ爲シテ他人ノ害ヲ爲ス可カラサルノ禁ヲ別段受ケタル者ハ諸般ノ財産ニ付テハ會社ノ契約ヲ結フコトヲ得ス

○第二款 別段定メタル財産ニ付テハ會社

第一千八百四十一條 別段定メタル財産ニ付テハ會社トハ財産中ノ別段定マリシ物ヲ所有スルノ權又ハ之ヲ用フルノ權又ハ其物ヨリ生ス可キ利益ヲ得ルノ權ヲ共通スル會社ヲ云フ

第一千八百四十二條 別段指定メタル^{モラヒ}地作ノ爲メ又ハ職業ヲ行フ爲メ數人相連合スル契約ハ亦之ヲ別段定メタル財産ニ付テハ會社ナリト看做ス可シ

○第三章 社中各人ノ間ニ互ニ行フ可キ義務及ヒ會社外ノ人ニ對シ行フ可キ義務

○第一款 社中各人ノ間ニ互ニ行フ可キ義務

第一千八百四十三條 會社ハ其契約ヲ爲シタル時ヲ以テ其初ト爲ス可シ但シ其他ノ日時ヲ以テ其初ト爲ス可キコトヲ契約書ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第一千八百四十四條 會社ヲ結フ契約書ニ其會社ノ繼續ス可キ時閉チ別段定メタルコトナキ時ハ第一千八百六十九條ニ記スル所ノ外總テ社中ノ者ノ畢生間繼續ス可キモノト看做ス可シ又成就ス可キ期限ノ定マリシ事務ニ管シタル會社ハ其事務ノ成就スルニ至ル迄ノ時間繼續ス可キモノト看做ス可シ

第一千八百四十五條 社中ノ各人ハ會社ノ共通ト爲サント約シタル諸件ヲ其會社ニ引渡ス可キノ義務アリ

社中ノ一人ヨリ會社ノ共通ト爲シタル物件別段定マリシ物タル時

其會社正當ノ所有者ヨリ訴訟ヲ受ケ之ヲ奪ハル、ニ於テハ其物ヲ
 會社ノ共通ト爲シタル者其會社ニ對シ償ヲ爲ス可キノ義務アリ但
 シ此事ハ賣主ノ買主ニ對スル義務ニ等シキモノトス 第千六百二十
 第千八百四十六條 社中ノ者金高ヲ其會社ノ共通ト爲ス可キノ約ヲ
 結ヒ之ヲ爲サ、ル時ハ其者別段訴ヲ受クルコトナクシテ其金高ヲ渡
 ス可キ日ヨリ以來其息銀ヲ拂フ可キノ義務ヲ負フ可シ
 又社中ノ者其會社ノ資本中ヨリ取用ヒタル金高ニ付テハ之ヲ己ノ
 ノ利益ノ爲メ引取リタル日ヨリ以來其息銀ヲ拂フ可キノ義務ヲ負
 フ可シ

又別段ノ道理アル時ハ社中ノ者ヨリ會社ニ對シ前項ニ記スル所ヨ
 リモ更ニ多量ノ償ヲ爲ス可シ

第千八百四十七條 會社中ニテ其勞力ヲ會社ニ供スルコトヲ約シタル

者ハ會社ノ目的タル勞力ニ因リ得タル利益ヲ會社ニ對シテ算計ス
 可シ

第千八百四十八條 會社中ノ者自己ノ算計ニ付キ人ヨリ金高ヲ得可
 キノ權ヲ有シ會社ニ於テモ亦其人ヨリ金高ヲ得可キノ權ヲ有スル
 時ハ縱令會社中自己ノ算計ニ付キ其權ヲ有スル者其負債者ヨリ金
 高ヲ受取リ其受取書ニ其金高ノ全部ヲ自己ノ得可キ義務ヲ盡クス
 ニ充テ用フ可キ旨ヲ記シタルト雖モ自己ノ得可キ義務ノ高ト會社
 ノ得可キ義務ノ高トノ割合ヲ以テ其受取リシ金高ヲ二個ノ義務ヲ
 盡クスニ充テ用フ可シ

又其社中ノ者ノ受取書ニ其受取リタル金高ノ全部ヲ會社ノ得可キ
 義務ヲ盡クス爲メ充テ用フ可キ旨ヲ記シタル時ハ其記シタル所ノ
 如ク執行ヲ可シ

二〇八

第一千八百四十九條 會社中ノ一人會社ノ全員ノ共通シテ得可キ義務中ニテ己ノ得可キ部分ヲ受取リタル後其負債者其他ノ部分ヲ盡クスト能ハサルニ至リシ時ハ既ニ其義務ヲ得タル者其得タル所ハ特ニ己ノ部分ナリト云ヘル語ヲ其受取書ニ記シタルト雖モ其受取リシ諸件ヲ會社財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第一千八百五十條 會社中ノ者ハ己ノ過失ニ因リ會社ノ爲メ生シタル損失ヲ償フ可シ但シ他ノ事ニ付キ其者ノ勞力ニテ會社ノ爲メ生シタル利益ヲ其損失ト相殺スルヲ得ス

第一千八百五十一條 別段定マリシ物件ノ入額所得ノ權ノミチ會社ノ共通ト爲シ其物件使用スルニ因リ耗損セサルモノタル時ハ其物件ノ所有者其損失ヲ全ク己ニ擔當ス可シ

若シ其物件使用スルニ因リ耗損ス可キモノタル時又ハ之ヲ保テ置

クニ因リ其質ノ卑惡ニ至ル可キモノタル時又ハ其所有者之ヲ會社ノ爲メニ賣拂ハント定メタル時又ハ目錄ニ其評價シタル價ヲ記シテ之ヲ會社ノ共通ト爲シタル時ハ會社ニテ其物件ノ損失ヲ擔當ス可シ

其物件ヲ評價シタル時後ニ其滅盡シタルニ於テハ其所有者其評價シタル價ノミチ取戻スヲ得可シ

第一千八百五十二條 會社中ノ者ハ其會社ノ爲メ用ヒタル自己ノ金高ニ付キ會社ヨリ其償ヲ得可キノ求メテ爲シ得可キノミチ非ス其會社ノ事務ニ付キ正實ニ負フタル義務及ヒ其會社ノ事務ヲ取扱フニ付キ己ノ得スルテ受ケタル損失モ亦會社ヨリ其償ヲ得可キノ求メテ爲スヲ得可シ

三〇八

第一千八百五十三條 會社ヲ結フ證書ニ社中各人ノ得可キ利益ト其擔

當ス可キ損失トニ付キ別段其割合ヲ定メタルコトナキ時ハ其各人會社ノ資本中ニ加入シタル高ニ准シテ其割合ヲ定ム可シ

勞力ノミチ會社ニ供シタル者ノ得可キ利益及ヒ損失ノ割合ハ會社ノ資本中ニ最モ少量ノ高ヲ加入シタル者ノ割合ニ均シトス

第千八百五十四條 會社中ノ各人其得可キ利益及ヒ擔當ス可キ損失ノ割合ヲ定ムルコトニ付キ其社中ノ一人又ハ會社外ノ者ノ判斷ニ任カス可キコトヲ協議シタル時ハ其判斷ノ不正ナルコト分明ナルニ非サレハ其事ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得ス

又會社中ノ者其判斷ヲ知リタル時ヨリ既ニ三月以上ノ時間ヲ過ゴシタル後其判斷ノ不正ナルヲ述ヘタル時又ハ既ニ自カラ其判斷ノ如ク執行ヒ始メシ時ハ其判斷ニ因リ損害ヲ蒙リタルコトヲ訴フルト雖モ裁判所ニ於テ之ヲ取上ク可カラス

第千八百五十五條 會社中ノ一人ニ利益ノ全部ヲ與フ可キ契約ハ其効ナカル可シ

又會社中ノ一人又ハ數人ノ會社ノ資本中ニ加入シタル金高及ヒ財産ヲ以テ會社ノ損失ヲ償フニ充テ用フルコトナカラシムル契約ハ亦其効ナカル可シ

第千八百五十六條 會社中ノ一人會社ノ契約書ニ因リ特ニ其會社ノ事務ヲ支配ス可キノ任ヲ受ケタル時ハ其會社中ノ他人ヨリ故障ヲ述フルニ管セズ其支配ノ事ニ付キ諸般ノ所爲ヲ行フコトヲ得可シ但シ其支配人ニ詐僞アル時ハ格別ナリトス

其支配人ノ權ハ其會社ノ繼續スル時間至當ノ原由ナクシテ之ヲ廢スルコトヲ得ス然レ會社ノ契約書ヲ記シタルヨリ後ニ記シタル證書ヲ以テ其權ヲ授ケタル時ハ名代人ヲ任スル契約 此篇第十三ニ等シ

ク其權ヲ廢スルヲ得可シ

第千八百五十七條 會社中ノ數人其會社ノ事務ヲ支配ス可キノ任ヲ受ケ各其職務ヲ定メタルヲナキ時又ハ其數人互ニ協議シタル上ニ非サレハ事ヲ處置ス可カラサル旨ヲ別段定メタルヲナキ時ハ會社ノ支配ニ管スル諸般ノ事務ヲ各自ニ執行フヲ得可シ

第千八百五十八條 會社ノ事務ヲ支配スル數人互ニ協議シタル上ニ非サレハ事ヲ處置ス可カラサルノ契約アル時ハ其支配人中ノ一人更ニ改メテ契約ヲ爲シタル後ニ非サレハ他ノ支配人ノ立合ナクシテ事ヲ處置スルヲ得ス但シ他ノ支配人當時其支配ノ所爲ヲ行フヲ能ハサル時ト雖モ亦同一ナリトス

第千八百五十九條 會社ノ事務ヲ支配スル方法ニ付キ別段契約シタル事ナキ時ハ左ノ規則ニ循テ之ヲ爲ス可シ

第一 會社中ノ各人ハ其會社ノ事務ヲ支配スルノ權ヲ互ニ與ヘ

タルモノト看做ス可シ○其一人ノ所爲ハ別段他人ノ承諾ヲ得スト雖モ他人ニ對シテ其効アルモノトス可シ但シ他人ハ其一人ノ執行ヲ事ヲ成就スル前ニ故障ヲ述フルノ權ヲ有ス可シ

第二 會社中ノ一人ハ其會社ニ屬シタル物件ヲ其預定セシ方法ニ用ヒ且之ヲ會社ノ利益ヲ阻害セサル方法ニ用フル時又ハ會社中ノ他人各其權利ニ因リ之ヲ用フ可キノ阻害トナラサル方法ニ用フル時ハ其物件ヲ自己ノ爲メニ用フルヲ得可シ

第三 其一人ハ其會社ニ屬スル物件ヲ保全スル爲メ必要ナル費用ヲ他人ヨリ出合サシムルノ權アリ

第四 會社中ノ一人ハ他人ノ承諾ヲ得タル上ニ非サレハ其會社ニ屬スル不動産ノ模様ヲ變更スルヲ得ス但シ其一人其不動

産ノ模様ヲ更改スルコト會社ノ爲メ利益アリト述フル時ト雖モ亦同一ナリトス

第千八百六十條 會社中ノ支配人ニ非サル者ハ其會社ニ屬スル動産ト雖モ之ヲ賣拂ヒ又ハ質ト爲スコトヲ得ス

第千八百六十一條 會社中ノ一人自己ノ株數ニ付テハ其會社中ノ者ノ承諾ヲ得ルコトナシテ他人ヲ己レノ組合人ト爲スコトヲ得可シ然レ其一人縱令會社ノ支配人タリト雖モ會社中ノ者ノ承諾ヲ得スシテ他人ヲ其會社中ニ加入セシムルコトヲ得ス

○第二款 會社中ノ者會社外ノ人ニ對シテ行フ可キ義務

第千八百六十二條 商業ノ爲メニ非サル會社ニ於テハ其會社中ノ者連帶シテ會社ノ義務ヲ負フコトナク會社中ノ一人其會社中ノ他ノ者ヲシテ己レノ義務ヲ擔當セシムルコトヲ得ス但シ會社中ノ他ノ者其

一人ノ義務ヲ連帶シテ擔當ス可キコトヲ特ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第千八百六十三條 會社中ノ各人ハ其會社ノ株數ノ高ニ付キ互ニ差異アリト雖モ其債主ニ對シテ皆同量ノ金高ヲ償フ可シ但シ其負債ノ證書ニ其會社中ニテ株數ノ高ノ少キ者ハ債主ニ償フ可キ金高モ亦少カル可キコトヲ別段記シタル時ハ格別ナリトス

第千八百六十四條 會社中ノ者其會社ノ算計ノ爲メ義務ヲ負フタル旨ヲ其義務ノ契約書ニ記シタルト雖モ其義務ヲ契約シタル者ノミ之ヲ擔當ス可シ會社中ノ他ノ者ハ之ヲ擔當スルコトナカル可シ但シ會社中ノ他ノ者ヨリ其中一人ニ會社ノ爲メニ其義務ヲ契約ス可キ權ヲ授ケタル時又ハ其一人ノ負フタル義務會社ノ利益トナリタル時ハ格別ナリトス

〇第四章 會社ノ終ル可キ方法

第千八百六十五條 會社ハ左ノ方法ニ因テ終ル可シ

第一 會社ヲ結フ契約書ニ定メタル期限ニ至ル事

第二 會社ノ財産全ク滅盡スル事又ハ會社ノ目的タル事業ノ終

成スル事

第三 會社中ノ者ノ死去

第四 會社中ノ者ノ准死又ハ治産ノ禁ヲ受クル事又ハ産業ヲ破

リタル事

第五 會社中ノ一人又ハ數人其會社ヲ退去セント欲スル事 第千

六十九
條見合

第千八百六十六條 期限ノ定マリシ會社ヲ其期限ニ至リシ後更ニ繼

續セントスルニハ初メ會社ヲ結ヒタル契約書ト同一ノ體裁ノ證書

ヲ記シテ其證ヲ立ツ可シ

第千八百六十七條 會社中ノ一人物件所有ノ權ヲ會社ノ共通ト爲サ

ント約シタル時現ニ其物件ヲ共通スル前ニ之ヲ失フコトアルニ於テ

ハ其各人ニ付キ其會社ヲ解キタルモノト爲ス可シ

又物件ノ入額所得ノ權ノミテ會社ノ共通ト爲シ其所有ノ權會社中

ノ一人ニ屬シタル時其物件ヲ失フニ於テモ亦其會社ヲ解ク可シ然

レ物件所有ノ權ヲ既ニ會社ノ共通ト爲シタル後ハ縱令其物件ヲ失

フト雖モ其會社ヲ解クコトナカル可シ

第千八百六十八條 會社中ノ一人死去スル時ハ生存スル者其遺物相

續人ト其會社ヲ繼續シ又ハ其會社中ノ生存スル者ノミニテ其會社

ヲ繼續ス可キコトヲ預定シタルニ於テハ其約定ニ從フ可シ但シ會社

中ノ生存スル者ノミニテ其會社ヲ繼續ス可キ時ハ死者ノ遺物相續

八其死者死去ノ時ノ會社ノ模樣ニ准シテ其會社中ヨリ分派ヲ得ル
ノ權ヲ有ス可シ然レ其相續人ハ死者ノ死前ニ爲シタル事ヨリ連續
シテ生シタル會社ノ利益ノ外其死後ノ利益ニ參加スルヲ得ス

第千八百六十九條 會社中一人ノ意ニ因リ其會社ヲ解キ得可キハ無
期ノ會社ノミニ限ル可キヲニシテ其一人ヨリ會社中ノ各人ニ其會
社ヲ退去セントスルヲ告知シテ之ヲ爲ス可シ但シ其會社ヲ退去
セントスルヲ正實ノ意ニ出テス又ハ時宜ニ適セサル時ハ其退去ヲ
爲スヲ許サス

第千八百七十條 會社中ノ數人互ニ共通シテ得ントスル利益ヲ其中
ノ一人自己ノ一身ノミノ所得ト爲ス可キ爲メ其會社ヲ退去セント
欲スル時ハ正實ノ意ニ出テサルモノトス可シ
會社ノ事業未ダ完成セズシテ會社ノ爲メ猶之ヲ繼續スルヲ必要

ナル時其一人其會社ヲ退去セントスルニ於テハ時宜ニ適セサルモ
ノトス可シ

第千八百七十一條 期限ノ定マリシ會社ヲ解クハ正當ノ原由アル
ニ非サレハ其期限ノ終ラサル前ニ其中ノ一人ヨリ之ヲ訴フルヲ得
ス但シ其原由トハ會社中ノ他ノ者其義務ヲ行ハサル事又ハ其一人
常ニ病ニ罹リ會社ノ事務ヲ爲シ能ハサル事又ハ其他此類ノ事故ヲ
ル事ニシテ其原由ノ是非輕重ハ裁判役ノ審判ニ任カヌ可シ

第千八百七十二條 遺物財産ヲ分派スルニ付テノ規則及ヒ其分派ニ
付キ相續人等ノ間ニ生ヌ可キ義務ハ會社ヲ結ヒタル數人ノ間ニ分
派ヲ爲ス事ニモ亦通シ用フ可シ

○貿易會社ノ規則

第千八百七十三條 此卷ノ規則中ニテ商法及ヒ商業ノ習慣ニ反セサ

ル條件ニ非サレハ之ヲ商業會社ニ通シ用フ可カラズ

○第十卷 貸借 第八卷ノ貸借ト(千八百四年三月九日決定同月十九日布告)

第千八百七十四條 貸借ニ二種アリ

- 一ハ使用シテ耗盡セサル物ノ貸借
- 一ハ使用スルニ因リ耗盡ス可キ物ノ貸借

耗盡セサル物ノ貸借ヲ名ケテ「プレード、ユザイジニ」又ハ「コムモダ」ト云フ

耗盡ス可キ物ノ貸借ヲ名ケテ「プレード、コンソムマシヤン」ト云ヒ又略ニ「プレード」ト云フ

○第一章 耗盡セサル物ノ貸借

○第一款 耗盡セサル物ノ貸借ノ本義

第千八百七十五條 耗盡セサル物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ノ使用ノ爲メ物件ヲ引渡シ借主之ヲ用ヒタル後貸主ニ還ス可キ契約ヲ云フ

第千八百七十六條 此貸借ハ質銀ナキモノトス

第千八百七十七條 貸主ハ其貸與ヘタル物ノ所有ノ權ヲ保有ス可シ

第千八百七十八條 賣買ヲ爲シ得可ク且使用スルニ因リ耗盡セサル

諸般ノ物件ハ此類ノ貸借ノ契約ノ目的ト爲スヲ得可シ

第千八百七十九條 此類ノ貸借契約ノ義務ハ貸主ノ遺物相續人及ヒ借主ノ遺物相續人ニ之ヲ傳フ可シ

然レ貸主借主ノ一身ノ爲メノニ物ヲ貸與ヘタル時ハ借主ノ遺物相續人其物ヲ用フルヲ得ス

○第二款 借主ノ義務

第一千八百八十條 借主ハ其借受ケタル物ヲ管守シ且保全スルニ付キ
懇切ニ着意ス可シ

借主ハ其借受ケタル物ノ種類ニ因リ又ハ契約ニ因リ定マリタル以
外ノ方法ニ其物ヲ用フルヲ得ス若シ借主此規則ニ背キタルニ因
リ貸主ノ爲メ損失ヲ生シタル時ハ其損失ヲ償フ可シ

第一千八百八十一條 借主其借受ケタル物ヲ其當然ノ用法ニ非サル方
法ニ使用シ又ハ其契約ニ定メタルヨリ更ニ永キ時間用ヒタル時其
物ノ滅盡シタルニ於テハ縱令意外ノ事ニ因ルト雖モ借主其責メニ
任セサルヲ得ス

第一千八百八十二條 借主自己ノ物件ヲ用フルニ於テハ借受ケタル物
件ノ滅盡セサルヲ得可キニ之ヲ用ヒサルニ因リ其借受ケタル物件

意外ノ事ニ因リ滅盡シタル時又ハ自己ノ物件ト借受ケタル物件ト
ノ中其一箇ノミヲ保全シ得可キ場合ニ於テ自己ノ物件ヲ保全シ借
受ケタル物件ヲ失ヒタル時ハ借主其借受ケタル物件ヲ失フタル責
ニ任ス可シ

第一千八百八十三條 物件ヲ貸與ヘシ時其評價ヲ爲シ後ニ借主其借受
ケタル物件ヲ失フアルニ於テハ縱令意外ノ事ニ因ルト雖モ借主
其責ニ任ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第一千八百八十四條 借主其借受ケタル物件ヲ當然ノ用法ニ使用シ別
段己レノ過失ニ非スシテ其物件ノ卑悪ニ至リシ時ハ借主其責ニ任
スルニ及ハス

第一千八百八十五條 借主ハ貸主ヨリ別ニ己レニ得可キ他物ノ償トシ
テ其借受ケタル物件ヲ保有スルヲ得ス

八一八

第一千八百八十六條 借主其借受ケタル物件ヲ使用スルニ付キ費用ヲ
出シタルト雖モ貸主ニ對シ其償ヲ得ント求ムルヲ得ス
第一千八百八十七條 數人連帶シテ一箇ノ物品ヲ借受ケタル時ハ其數
人貸主ニ對シ連帶シテ義務ヲ負フ可シ

○第三款 貸主ノ義務

第一千八百八十八條 貸主ハ預メ契約シテ定メタル期限ノ後ニ非サレ
ハ其貸與ヘタル物ヲ取戻スヲ得ス又其期限ヲ定メタルヲナキ時
ハ其貸與ヘタル目的ノ用法ニ借主ノ之ヲ用ヒタル後ニ非サレハ其
物ヲ取戻スヲ得ス

第一千八百八十九條 然レ其預定セシ期限又ハ借主其物ヲ使用スル
ヲ猶必要ナル時間ニ意外ノ事ニ因リ貸主ノ爲メ急ニ其物ヲ用フル
ヲ要スル事ノ起リシ時ハ裁判役其時ノ景狀ニ從ヒ借主ヲシテ其物

ヲ貸主ニ還サシムルヲ言渡スヲ得可シ

第一千八百九十條 借主物件ヲ借受クル時間其物件ヲ保全スルニ付キ
貸主ニ告知スルノ暇ナク急迫ニシテ且已ムヲ得サル事ニ因リ意外
ノ費用ヲ出シタル時ハ貸主ヨリ借主ニ其費用ヲ償フ可シ

第一千八百九十一條 貸主其貸與ヘタル物件ニ不良ノ事アルヲ知リ借
主ニ其旨ヲ告知セスシテ借主ノ爲メ損害ヲ生シタル時ハ貸主其損
害ヲ償フ可シ

○第二章 耗盡ス可キ物ノ貸借

○第一款 耗盡ス可キ物ノ貸借ノ本義

第一千八百九十二條 耗盡ス可キ物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ使用シ
テ耗盡ス可キ定量ノ物ヲ渡シ借主ヨリ其同種同質同量ノ物ヲ貸主
ニ還ス可キ契約ヲ云フ

九一八

第一千八百九十三條 此貸主ニ因リ借主其借受ケタル物ノ所有者トナ
リ若シ其物ヲ失フタル時ハ之ヲ失ヒシ方法ノ如何ナルヲ問ハス總
テ借主ノ損失タル可シ

第一千八百九十四條 獸類ノ如ク同種類ナリト雖モ各自相異ナル物ハ
耗盡ス可キ物ノ貸借ノ名義ヲ以テ其貸借ヲ爲ス可カラス其貸借ハ
耗盡セサル物ノ貸借ナリトス

第一千八百九十五條 金高ヲ借受ケタル者ノ義務ハ其借受ノ證書ニ記
シタル所ノ高ヲ還スニアリトス

金高ヲ還ス前ニ貨幣ノ價低昂アリト雖モ借主ハ其時通用スル貨幣
ニテ其借受ケタル高ヲ還ス可シ

第一千八百九十六條 貨幣ヲ造ル財料ノ貸借ニ付テハ前條ニ記シタル
規則ヲ通シ用フ可カラス

第一千八百九十七條 貨幣ノ財料及ヒ商品ヲ借受ケタル時ハ其價ノ低
昂ヲ問ハス借主ヨリ常ニ其借受ケタル物ト同質同量ノ物ヲ還ス可
ク其他ノ物ヲ還ス可カラス

〇第二款 貸主ノ義務

第一千八百九十八條 耗盡ス可キ物ノ貸主ハ耗盡セサル物ノ貸借ニ付
キ第一千八百九十一條ニ記シタル所ノ責ニ任ス可シ

第一千八百九十九條 貸主ハ借主ト協議シテ定メタル期限ニ至ラサル
内ニ其貸與ヘタル物ト同質同量ノ物ヲ取戻スヲ得ス

第一千九百條 貸與ヘタル物ト同質同量ノ物ヲ取戻ス可キ期限ヲ定メ
タルトナキ時ハ裁判役其時ノ景狀ニ從ヒ借主ノ爲メ猶豫ノ期限ヲ

許ルストヲ得可シ

第一千九百一條 借主其借受ケタル物ト同質同量ノ物ヲ還スヲ得可キ

時又ハ之ヲ還ス可キノ力アル時之ヲ貸主ニ還ス可キノ契約アルニ於テハ裁判役其時ノ景狀ニ從ヒ其返還ノ期限ヲ定ム可シ

○第三款 借主ノ義務

第一千九百二條 借主ハ貸主ト協議シテ定メタル期限ニ至リ當テ借受ケシ物ト同質同量ノ物ヲ還ス可シ

第一千九百三條 若シ借主前條ニ記シタル如ク執行フコ能ハサル時ハ契約ニ循ヒ其物ヲ還ス可キ時日ト場所トニ於テノ其代金ヲ還ス可シ

其時日ト場所トヲ定メタルコトナキ時ハ當テ借受ケシ時日ト場所トニ於テ其代金ヲ還ス可シ

第一千九百四條 借主預定ノ期限ニ至リ當テ其借受ケタル物ト同質同量ノ物又ハ其代金ヲ還ササル時ハ貸主其事ヲ裁判所ニ訴出シタル

日ヨリ以來借主其息銀ヲ拂フ可キノ義務ヲ負フ可シ

○第三章 息銀アル貸借

第一千九百五條 金高商品又ハ其他動産使用スルニ因リ耗ノ貸借ニ付キ息銀ヲ出ス可キ契約ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千九百六條 借主別ニ契約ヲ爲サシテ息銀ヲ拂フタル時ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヌ又之ヲ元資ノ拂方ニ充テ用フルコトヲ得ヌ

第一千九百七條 息銀ハ法律上ニテ定メタルモノアリ又ハ契約ヲ以テ定メタルモノアリ

法律上ニテ定メタル息銀トハ法律ヲ以テ之ヲ定メタルモノヲ云フ
○契約ヲ以テ定メタル息銀ハ別段法律上ノ禁制ナキ時法律上ニ定メタル息銀ノ割合ニ過シルコトヲ得可シ

契約ヲ以テ定メタル息銀ノ割合ハ證書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

四二八

第千九百八條 息銀ノ事ヲ別段附記セサル元資ノ受取書アル時ハ借主既ニ息銀ヲモ拂フタルト思料ス可クシテ其息銀ヲ拂フ可キ義務ノ釋放ヲ受ク可シ

第千九百九條 一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ元資ヲ貸渡シ之ヲ取戻スコトナク唯其息銀ノミヲ得可キノ契約ヲ爲スコトヲ得可シ此類ノ貸借ヲ名ケテ年金ヲ設ケ定ムル事ト云フ

第千九百十條 年金ニ二種アリ一ハ無期ノ年金又一ハ畢生閉ノ年金ナリ

第千九百十一條 無期ノ年金ハ借主其元資ヲ還シ得可キノ本義アルモノトス

又雙方ノ者別段定メタル期限ニ至ラサル前ニ借主ヨリ其元資ヲ還スコトナキ旨ヲ契約スルコトヲ得可シ但シ其期限ハ十年ニ過ク可カラ

又借主後ニ其元資ヲ還サントスルニ於テ其時ヨリ幾日前ニ之ヲ告知ス可キヤヲ貸主ト協議シタル時ハ其日ニ至リ其告知ヲ爲シタル上ニ非サレハ其元資ヲ還スコトヲ得ス

第千九百十二條

第一 無期ノ年金ヲ拂フ可キ者二年ノ間之ヲ拂ハサル時

第二 無期ノ年金ヲ拂フ可キ者之ヲ得可キ者ニ對シ契約ヲ以テ定メタル如ク保證人ヲ立テサル時

此二箇ノ場合ニ於テハ無期ノ年金ヲ得可キ者之ヲ拂フ可キ者ナシテ其元資ヲ還サシムルコトヲ得可シ

第千九百十三條 無期ノ年金ヲ拂フ可キ者家資分散ヲ爲シ又ハ其產業衰敗シタル時ハ年金ヲ得可キ者亦其元資ヲ還サシムルコトヲ得可

五二八

シ

第一千九百十四條 畢生間ノ年金ノ規則ハ此篇第十二卷偶生ノ事ニ管スル契約ノ卷

○第十一卷 附託ノ事及ヒ雙方相爭フ物ヲ人ニ附託スル事(千八百四年三月十四日決定同月二十四日布告)

○第一章 總テ附託ノ事及ヒ附託ノ種類

第一千九百十五條 附託トハ總テ一方ノ者他ノ一方ノ者ニ物件ヲ預ケ他ノ一方ノ者之ヲ管守シ後ニ之ヲ其儘ニテ還ス可キ契約ヲ云フ
第一千九百十六條 附託ニ二種アリ一ハ通常ノ附託又一ハ雙方相爭フ物ヲ人ニ附託スル事ナリ

○第二章 通常ノ附託

○第一款 附託ノ契約ノ本義

第一千九百十七條 通常ノ附託ハ別段償ヲ用ヒサル契約ナリトス

第一千九百十八條 附託ハ動産ノミニ限ル可シ

第一千九百十九條 附託ハ物件ヲ現ニ引渡ス事又ハ引渡シタリト看做

ス可キ事アルコト非サレハ之ヲ成就シタリトセス

附託ヲ受クル者當テ物件ヲ附託ニ非サル名義ヲ以テ其所有者ヨリ既ニ己レノ方ニ受取リ其所有者其儘之ヲ預ケ置カントスル時ハ其物件ヲ引渡シタリト看做ス可キ事アリトス

第一千九百二十條 附託ハ隨意ノモノアリ又已ムヲ得サルモノナリ

○第二款 隨意ノ附託

第一千九百二十一條 隨意ノ附託ハ附託ヲ爲ス者ト附託ヲ受クル者ト雙方ノ承諾ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第一千九百二十二條 隨意ノ附託ハ物件ノ所有者之ヲ爲シ又ハ其者ノ

明許或ハ默許ヲ以テ他人之ヲ爲ス時ノ外法ニ適シタルモノナリト

セヌ

第一千九百二十三條 隨意ノ附託ハ書面ヲ以テ之ヲ證ス可シ○百五十

「フランシ」以上ノ價ニ付テハ證人ヲ以テ附託ノ證ヲ立ルヲ得ス

第一千九百二十四條 百五十「フランシ」以上ノ物件ノ附託ニ付キ其證書

ノアラサル時ハ附託ヲ受ケシ者ナリトノ言掛ヲ受ケタル者其附託

ヲ受ケタルヤ否ノ事又ハ其附託ヲ受ケタル物件ノ種類又ハ其物件

ヲ既ニ還シタル事等ノ諸事ニ付キ誓ヲ以テ其證ヲ立ルヲ得可シ

第一千九百二十五條 隨意ノ附託ハ契約ヲ爲シ得可キ者ノ間ニノミ之

ヲ爲スヲ得可シ

然レ契約ヲ爲シ得可キ者契約ヲ爲シ得可カラサル者ノ爲シタル附

託ヲ承諾シタル時ハ其附託ヲ受ケシ者通常ノ義務ヲ負フ可クシテ

其附託ヲ爲シタル者ノ後見人又ハ其者ノ財産支配人ヨリ訴訟ヲ受

クルヲアル可シ

第一千九百二十六條 契約ヲ爲シ得可キ者ヨリ契約ヲ爲シ得可カラカ

ル者ニ附託ヲ爲シタル時ハ其附託シタル物件其附託ヲ受ケタル者

ノ手元ニ現存スル時間ニ非サレハ其物件ヲ取戻ス可キノ訴訟ヲ爲

スヲ得ス又其附託シタル物件其附託ヲ受ケシ者ノ利益トナリシ

高ニ至ル迄ノ外其價高ヲ取戻ス可キノ訴訟ヲ爲スヲ得ス

○第三款 附託ヲ受クル者ノ義務

第一千九百二十七條 附託ヲ受ケタル者ハ其附託ヲ受ケタル物件ヲ管

守スルニ付キ自己ノ所有スル物件ヲ管守スルニ等シク注意ス可シ

第一千九百二十八條

第一 附託ヲ受ケル者自己ノ方ヨリ其附託ヲ受ケ可キヲ述ハタル時

第二 附託ヲ受ケル者其物件ヲ管守スルニ付キ謝金ヲ得可キノ契約ヲ爲シタル時

第三 附託ヲ受ケル者ノ利益ノ爲メ其附託ヲ爲シタル時

第四 附託ヲ受ケル者如何ナル過失アリト雖モ皆之ヲ己レニ擔當ス可キヲ特ニ契約シタル時

此等ノ場合ニ於テハ前條ノ規則ヲ別段嚴密ニ通シ用フ可シ

第千九百二十九條 物件ノ附託ヲ受ケタル者ハ如何ナル場合タルニ問ハス抗拒ス可カラサル力アル意外ノ事ニ因リ其物件ヲ毀損滅盡セシメタル責ニ任スルニ及ハス但シ其附託ヲ受ケタル物件ヲ還ス可キノ求メヲ受ケ猶之ヲ還サ、ル時ハ格別ナリトス

第千九百三十條 附託ヲ受ケタル者ハ附託ヲ爲シタル者ノ明許又ハ默許ナクシテ其附託ヲ受ケタル物件ヲ使用ス可カラス

第千九百三十一條 附託ヲ受ケシ物件鎖閉シタル箱匱中ニ入りタル時又ハ封印ヲ爲シタル包皮中ニ入りタル時ハ其附託ヲ受ケタル者其物件ノ何物タルヲ知り得ント爲ス可カラス

第千九百三十二條 附託ヲ受ケタル者ハ其附託ヲ受ケシ物件ヲ必ス返還ス可シ

故ニ貨幣ノ附託ヲ受ケタル者ハ其貨幣ノ價ニ低昂アルヲ問ハス其附託ヲ受ケタルト同一ノ貨幣ヲ還ス可シ

第千九百三十三條 附託ヲ受ケタル者ハ其附託ヲ受ケシ物件ヲ其還ス可キ時ノ景狀ノ儘之ヲ還スヲ得可シ○其者ノ過失ニ非スシテ其物件ノ卑惡ニ至リシ候ハ附託ヲ爲シタル者其損失ヲ己ニ擔當ス

可シ

第一千九百三十四條 附託ヲ受ケタル者抗拒ス可カラサル力ニ因リ其附託ヲ受ケシ物件ヲ失ヒ其物件ニ代ヘテ金高又ハ其他ノ物件ヲ入ヨリ受取リタル時ハ其附託ヲ爲シタル者ニ其金高又ハ其他ノ物件ヲ還ス可シ

第一千九百三十五條 附託ヲ受ケタル者ノ遺物相續人其附託ノ事ヲ知ラズ正實ノ意ヲ以テ其附託ヲ受ケシ物件ヲ賣拂フタル時ハ其得タル代金ヲ還ス可シ又其相續人未タ其代金ヲ受取ラサル時ハ買主ニ對シ訴訟ヲ爲ス可キノ權ヲ附託ヲ爲シタル者ニ讓ル可シ

第一千九百三十六條 附託ヲ受ケシ物件ヨリ利益ヲ生シ附託ヲ受ケタル者其利益ヲ己ノニ得タル時ハ之ヲ附託ヲ爲シタル者ニ還ス可シ
○附託ヲ受ケタル者ハ附託ヲ受ケシ金高ノ息銀ヲ拂フニ及ハス但

シ其金高ヲ還ス可キノ求メヲ受ケ猶之ヲ還サ、ル時ハ其求メヲ受ケシ日ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ

第一千九百三十七條 附託ヲ受ケタル者ハ其物件ヲ附託シタル者又ハ其眞ノ所有者又ハ其物件ヲ受取ル爲メ附託者ノ別段指シ定メタル者ニ之ヲ還ス可シ

第一千九百三十八條 附託ヲ受ケタル者ハ附託ヲ爲シタル者其物件ノ所有者タルノ證ヲ必ス得ント要ムルヲ得ス 若シ必ス其證ヲ得ン

ト欲セハ物件ノ附託ヲ承引スル前ニ然ル其物件贖物ニシテ其附託ヲ受ケタル者別ニ其眞ノ所有者ヲ見出シタル時ハ其附託ヲ受ケタル者眞ノ所有者ニ其物件ノ附託ヲ受ケタル旨ヲ告知シ且相當ノ定期内ニ其物件ヲ引取ル可キヲ求ム可シ○其告知ヲ得タル者其定期内ニ其物件ノ引渡ヲ求ムルヲナキ

時ハ附託ヲ受ケタル者當テ其附託ヲ爲シタル者ニ其物件ヲ還シテ義務ノ釋放ヲ受ク可シ

第一千九百三十九條 附託ヲ爲シタル者ノ死去又ハ准死ノ時ハ其附託

セシ物件ヲ其遺物相續人ニ還ス可シ

其相續人二人以上ナル時ハ其得可キ部分ヲ其各人ニ還ス可シ

又附託セシ物件ヲ分ツ可カラサル時ハ其相續人等互ニ協議シタル

上其物件ヲ受取ル可キ者ヲ定ム可シ

第一千九百四十條 當テ物件ヲ附託セシ者ノ身上ノ變シタル時譬へハ

附託ヲ爲セシ時未ダ婚姻セサル婦其後ニ至リ婚姻ヲ結ヒタルニ因

リ其夫ノ權ニ從フ可キ者トナリタル時又ハ附託ヲ爲シタル者後ニ

治産ノ禁ヲ受ケタル時及ヒ其他此類ノ如キ場合ニ於テハ其附託ヲ

受ケシ者此等ノ者ノ財産ヲ支配シ且其權利ヲ扱フ者 夫又ハ後見人等ヲ云フ

其附託セシ物件ヲ還ス可シ

第一千九百四十一條 又後見人又ハ夫及ヒ其他人ニ代テ財産ヲ支配ス

ル者其後見人又ハ夫又ハ支配人タルノ名義ヲ以テ人ニ物件ヲ附託

シタルニ於テハ此等ノ者其支配ヲ爲ス可キ權ノ終リシ時其附託ヲ

受ケタル者其物件ヲ其所有者 以前ノ幼者婚姻セシ婦治産ニ還ス可

シ

第一千九百四十二條 附託ノ契約書ニ其附託セシ物件ヲ還ス可キ地ヲ

定メタル時ハ附託ヲ受ケタル者之ヲ還サントスル時其地ニ移送ス

可シ但シ其移送ヲ爲スニ付キ貸銀ヲ出シタル時ハ附託ヲ爲シタル

者之ヲ償フ可シ

第一千九百四十三條 又其契約ニ其物件ヲ還ス可キ地ヲ定メサル時ハ

當テ附託ヲ爲シタル地ニテ之ヲ還ス可シ

第一千九百四十四條 附託ノ契約書ニ其附託セシ物件ヲ還スニ付キ定
メタル猶豫ノ期限アル時ト雖モ其附託ヲ爲シタル者ヨリ其物件ヲ
取戻サント求ムル時ハ其附託ヲ受ケタル者直チニ之ヲ還ス可シ但
シ附託ヲ爲シタル者ノ債主其附託ヲ受ケタル者ニ其還方ヲ差留ル
書面ヲ送リタル時ハ格別ナリトス

第一千九百四十五條 附託ヲ受ケタル者ニ不正ノ所爲アリテ其物件ヲ

還サ、ル時ハ其者自己ノ財産ヲ抛棄シテ禁錮ヲ免ル、ノ權ナシ第

二百六十五條及ヒ訴訟
法第八百九十八條見合

第一千九百四十六條 附託ヲ受ケタル者自カラ其附託ヲ受ケシ物件ノ

所有者タルヲ見出シテ其證ヲ立ル時ハ其附託ノ義務消散ス可シ

○第四款 附託ヲ爲ス者ノ義務

第一千九百四十七條 附託ヲ爲シタル者ハ其附託ヲ受ケタル者其物件

ヲ保全スルニ付キ出シタル費用ヲ償ヒ且其附託ニ因リ附託ヲ受ケ
タル者ノ爲メ生シタル損失ヲ償フ可シ

第一千九百四十八條 附託ヲ受ケタル者其附託ニ付キ附託ヲ爲シタル
者ヨリ得可キ償額ノ全部ヲ受取ルニ至ル迄ハ其附託ヲ受ケシ物件
ヲ己レノ方ニ留メ置クヲ得可シ

○第五款 已ムヲ得サル附託

第一千九百四十九條 已ムヲ得サル附託トハ火災崩潰掠奪破船及ヒ其
他預知ス可カラサル意外ノ事ニ因リ已ムヲ得スシテ人ニ物ヲ附託
スルヲ云フ

第一千九百五十條 已ムヲ得サル附託ニ付テハ縱令百五十フランノ以
上ノ價ニ管シタル時ト雖モ證人ヲ以テ證ヲ立ルヲ得可シ

第一千九百五十一條 其他已ムヲ得サル附託ニ付テハ前數款ノ規則ニ

循フ可シ

第千九百五十二條 旅舎ノ主人ハ其家ニ宿スル旅客ノ攜ヘ來リシ物件ニ付キ其附託ヲ受ケタル者ナリトシテ其物件ヲ管守ス可キ責ニ任ス可シ但シ此類ノ附託ハ已ムヲ得サルノ附託ナリト看做ス可シ

第千九百五十三條 旅舎ノ主人ハ其家ニ於テ使用スル者又ハ僕婢又ハ其他其家ニ出入スル者旅客ノ物件ヲ竊取シ又ハ其物件ニ損害ヲ加ヘタル時自カラ其責ニ任ス可シ

第千九百五十四條 旅舎ノ主人兵器ヲ攜ヘタル賊ノ爲メ強迫ヲ受ケ又ハ其他抗拒ス可カラサル力ノ爲メ旅客ノ物件ヲ奪ハレシ時ハ其責ニ任スルヲナカル可シ

○第三章 雙方相争フ物ヲ人ニ附託スル事

○第一款 雙方相争フ物ヲ人ニ附託スル事ノ種類

第千九百五十五條 雙方相争フ物ヲ人ニ附託スル事ハ契約ヲ以テ爲スモノアリ又ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ爲スモノアリ

○第二款 雙方相争フ物ヲ互ニ契約シテ人ニ附託スル事

第千九百五十六條 雙方相争フ物ヲ互ニ契約シテ人ニ附託スル事トハ一人原書ヨ一人ト記又ハ數人互ニ相争フ物ヲ他人ニ附託シ其附託ヲ受ケタル者其争ノ裁判アリシ時其物ヲ得可キノ言渡ヲ得タル者ニ之ヲ還ス可キノ契約ヲ云フ

第千九百五十七條 此類ノ附託ニ付テハ其附託ヲ受クル者其償ヲ受クルヲ得可シ

第千九百五十八條 此附託ニ付キ其附託ヲ受クル者償ヲ得サル時ハ後條ニ記スル所ノ諸件ヲ除クノ外總テ通常ノ附託ノ規則ニ循フ可シ

○四八

第一千九百五十九條 此類ノ附託ハ動産ノミニ限ルヲナク不動産ニ付
テモ亦之ヲ爲スヲ得可シ

第一千九百六十條 此類ノ附託ヲ受ケタル者ハ其争ニ管シタル各人ノ
承諾ヲ得タル時又ハ裁判所ヨリ至當ナリト言渡シタル原由アル時
ノ外其争ノ裁判アル前ニ其義務ノ釋放ヲ得可カラズ 附託ヲ受ケシ
物件ヲ還ス可
カラサル
ヲ云フ

○第三款 雙方相争フ物ヲ裁判所ノ言渡ヲ以テ人ニ附託ス
ル事

第一千九百六十一條 裁判所ヨリ左ノ物件ヲ人ニ附託ス可キヲ言渡
スヲ得可シ

- 第一 負債者其義務ヲ行ハサルニ因リ債主ノ差押ヘタル動産
- 第二 二人以上ノ者互ニ所有ノ權又ハ占有ノ權ヲ相争フ不動産

又ハ動産

第三 負債者其義務ノ釋放ヲ得ンカ爲メ債主ニ渡サント提供ス
ル物件 サシタス

第一千九百六十二條 負債者其義務ヲ行ハサルニ因リ裁判所ノ言渡ヲ
以テ其財産ヲ差押ヘ其物件ヲ他人ニ附託シタル時ハ其物件ヲ差押
ヘタル債主ト其附託ヲ受クル者トノ間ニ互ニ義務ヲ生ス可シ
其附託ヲ受クル者ハ其附託ヲ受ケタル物件ヲ保全スルニ付キ懇切
ニ注意ス可シ
其附託ヲ受クル者ハ債主其物件ヲ賣拂ハントスル時其受取書ヲ得
テ之ヲ引渡シ又債主負債者ノ財産差押ヲ免ルシタル時ハ負債者ニ
之ヲ引渡ス可シ

又其債主ノ義務ハ其附託ヲ受クル者ニ法律上ニ定メタル謝金ヲ與

フ可キヲナリトス

第一千九百六十三條 此類ノ附託ハ訴訟ニ管シタル數人ノ互ニ協議シテ定メタル者又ハ裁判役ノ特ニ定メタル者ニ之ヲ爲ス可シ
此二箇中何ノ場合ニ於テモ其附託ヲ受ケタル者ハ雙方相争フ物ノ契約上ノ附託ヲ受ケタル者ニ等シキ義務ヲ負フ可シ

○第十二卷 偶生ノ事ニ管スル契約千八百四年三月十日決定同月二十日布告

第一千九百六十四條 偶生ノ事ニ管スル契約トハ其契約ニ管シタル各人又ハ其中ノ一人又ハ數人ノ利益或ハ損失ヲ未定ノ事ニ管セシムル互相ノ契約ヲ云フ 第一千百四條見合

此類ノ契約ハ

海上請合及ヒ火災請合ノ契約 商法第三百三十二條以下ニ詳ナリ

船舶又ハ積荷ヲ引當トシテ金高ヲ借入ル、契約 商法第三百十

カナ

遊戯及ヒ賭博

畢生間ノ年金 第一千九百九條見合

前ノ二項ニ記スル所ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

○第一章 遊戯及ヒ賭博

第一千九百六十五條 遊戯又ハ賭博ノ債ヲ拂フニ付テハ法律上ニテ訴訟ヲ爲スヲ許サス

第一千九百六十六條 兵器ノ取扱ヲ練熟セシムル爲メノ遊戯競馬闘走競車打毬及ヒ其他身體ヲ輕捷壯健ナラシム可キ遊戯ハ前條ニ記ス

ル規則外ノモノトス

然レ裁判所ニテ其遊戯ニ賭ケタル金高過多ナリト思量スル時ハ其
拂方ヲ要ムルノ訴訟ヲ允許セサルヲ得可シ

第千九百六十七條 何レノ場合ニ於テモ遊戯又ハ賭博ニ負ケタル者
ハ自己ノ意ヲ以テ拂フタル金高ヲ取戻スヲ得ス但シ勝ヲ得タル
者ニ詐偽詭計アル時ハ格別ナリトス

○第二章 畢生間ノ年金ノ契約

○第一款 畢生間ノ年金ノ契約ヲ法ニ適シタルモノト爲ス
ニ必要ナル條件

第千九百六十八條 畢生間ノ年金ハ金高又ハ價ヲ算計スルヲ得可
キ動産又ハ不動産ヲ得テ其價ノ爲メ之ヲ與フルヲ得可シ但シ此
種類ノ年金ヲ名ケテ充償ノ年金ト云フ

第千九百六十九條 又生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ニ因リ償ニ非ス
シテ畢生間ノ年金ヲ與フルヲ得可シ但シ此種類ノ年金ヲ名ケテ
不充償ノ年金ト云フ○此類ノ年金ニ付テハ法律上ニ定メタル法式
ヲ以テ其證書ヲ記ス可シ 第九百三十一條以下見合

第千九百七十條 前條ノ場合ニ於テ其年金ノ高贈遺ト爲スヲ得可キ
財産ノ定分ニ過キタル時ハ之ヲ減ス可シ 第九百十七條見合也 又贈遺ヲ受ク
ルヲ能ハサル者ノ爲メ其年金ヲ贈與シタル時ハ其贈遺ノ効ナカル
可シ

第千九百七十一條 畢生間ノ年金ハ元資ヲ出シタル者ノ畢生間之ヲ
拂ヒ又ハ元資ヲ出シタル以外ノ者ノ畢生間之ヲ拂フヲ得可シ

第千九百七十二條 畢生間ノ年金ハ一人又ハ數人ノ畢生間之ヲ拂フ
ヲ得可シ

第一千九百七十三條 甲ヨリ元資ヲ出シタルト雖モ乙ニ年金ヲ拂フコトヲ得可シ

此場合ニ於テハ其年金ニ贈遺ノ景狀アリト雖モ其證書ニ付キ贈遺ノ證書ノ爲メ必要ナル法式ヲ用フルニ及ハス但シ其年金ノ高ヲ減スル場合又ハ年金ノ契約ノ効ナキ場合ハ第一千九百七十條ニ記スル所ニ等シトス

第一千九百七十四條 甲ノ畢生間乙ヨリ丙ニ年金ヲ與フ可キノ契約ヲ結ヒシ時甲既ニ死去シタルニ於テハ其契約ノ効ナカル可シ

第一千九百七十五條 又乙ト丙ト年金ノ契約ヲ結ヒタル時甲既ニ病ニ罹リ其契約ノ時ヨリ二十日内ニ死シタル時ハ又前條ニ等シトス

第一千九百七十六條 畢生間ノ年金ノ高ハ契約ヲ爲ス雙方ノ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得可シ

○第二款 畢生間ノ年金ノ契約ヲ爲ス雙方ノ間ニ其契約ヨリ生スル條件

第一千九百七十七條 元資ヲ出シテ畢生間ノ年金ヲ得可キ者ハ之ヲ拂フ可キ者ヨリ其契約ノ如ク執行フニ付テノ保證人ヲ立テサル時其契約ヲ取消サント訴フルコトヲ得可シ

第一千九百七十八條 定期毎ニ拂フ可キ年金ノ高ヲ拂フコトヲ怠リシノミニテハ其年金ヲ得可キ者ヨリ元金ノ償戻ヲ求メ又ハ動産或ハ不動産ノ取戻ヲ求ムルコトヲ得ス唯其年金ヲ拂フ可キ者ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ賣拂ヒ其賣拂ニ因リ得タル代金中ヨリ年金ノ高ニ至ル迄ノ金高ヲ己レニ得可キノ裁判言渡ヲ得又ハ年金ヲ拂フ可キ者ナシテ其旨ヲ承諾セシムルコトヲ得可シ

第一千九百七十九條 年金ヲ拂フ可キ者ハ其元資ヲ還サント申述ヘ且

其既ニ拂フタル年金ヲ取戻スコトナキ旨ヲ申述フルト雖モ年金ヲ拂フ可キノ義務ヲ免カル、コトヲ得ス但シ其者ハ年金ヲ得可キ一人又ハ數人ノ命數ノ如何ニ長キヲ問ハス且之ヲ拂フコト自己ノ爲メ如何ニ困難ナルヲ問ハス其一人又ハ數人ノ畢生閉必ス其年金ヲ拂フ可シ

第千九百八十條 畢生閉ノ年金ハ之ヲ得可キ者ノ生存スル日數ノ割合ヲ以テ之ヲ拂フ可シ

然レ其年金ヲ前拂ニ爲ス可キノ契約アル時ハ定期ニ至リ拂フ可キ高ヲ其拂方ヲ爲ス可キ日ヨリ以來一方ノ所得ト爲ス可シ

第千九百八十一條 不充償ノ年金ヲ除クノ外總テ年金ヲ得可キ者其債主ノ爲メ其年金ノ拂方差留ヲ受クルコトナカル可キ旨ヲ預メ定メ置クコトヲ得ス

第千九百八十二條 畢生閉ノ年金ハ之ヲ得可キ者ノ准死ニ因リ消盡スルコトナク其生存スル時閉ハ之ヲ拂フ可シ

第千九百八十三條 畢生閉ノ年金ヲ得ントスル甲者ハ之ヲ拂フ可キ乙者ニ對シ自己ノ生存スル證ヲ立テサルヲ得ス又丙者ノ畢生閉乙者ヨリ甲者ニ年金ヲ拂フ可キ契約アル時ハ甲者丙者ノ生存スル證ヲ立スシテ其年金ヲ得可カラズ

○第十三卷 名代ノ證書千八百四年三月十日決定同月廿日布告

○第一章 名代ノ證書ノ本義及ヒ法式

八四九 第千九百八十四條 名代ノ證書トハ一人ヨリ他人ニ己レノ名義ヲ以テ事ヲ爲ス可キノ權ヲ授クル證書ヲ云フ

其契約ハ名代人ノ承諾アル上ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

第一千九百八十五條 名代人ヲ任スルコトハ公正ノ證書又ハ私ノ證書ヲ

以テ之ヲ爲スコトヲ得又ハ書狀ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得或ハ口上ヲ以

テ亦之ヲ爲スコトヲ得可シ然レ口上ニテ名代人ヲ任シタル時證人ヲ

以テ證ヲ立ルニ付テハ此篇第三卷ノ契約ノ規則ニ循フ可シ

名代ノ任ヲ受ケシ者之ヲ承諾シタルコトヲ別段述ヘスト雖モ自カラ

其名代ノ事務ヲ執行フタル時ハ黙許ヲ以テ承諾シタルト看做ス可

シ

第一千九百八十六條 名代ヲ任スルニ付テハ謝金ヲ出スニ及ハズ但シ

之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第一千九百八十七條 名代ヲ任スルコトハ本人ノ特ニ定メタル一箇ノ事

務又ハ數箇ノ事務ニ管シタルコトアリ又ハ總テ本人ノ諸般ノ事務ニ

管シタルコトアリ

第一千九百八十八條 泛博ノ意味ニ記シタル名代ノ證書ハ本人ノ財産

ヲ支配シ得可キノミノ證トス可シ

本人ノ財産ヲ賣拂ヒ又ハ書入質ト爲シ及ヒ其他財産所有ノ權ニ管

シタル事務ヲ本人ニ代リ爲ス可キ時ハ特ニ其旨ヲ記ス可シ

第一千九百八十九條 名代人ハ其名代ノ證書ニ記シタルコト以外ノ事

ヲ爲ス可カラス故ニ本人ニ代テ和解ヲ爲スノ權 此篇第十五ノミナリ

得タルニ於テハ裁斷人ヲ撰ニ其裁斷ニ任カスノ權 訴訟法第一千ニ包

含スルコトナシ

第一千九百九十條 婦及ヒ後見ヲ免レタル幼者ヲ名代人ニ撰ニ用フル

コトヲ得可シ但シ本人其名代人タル幼者ニ對シテハ幼者ノ義務ニ管

シタル一般ノ規則 第四百八十一ニ循ヒ訴訟ヲ爲ス可ク又夫ノ承諾

ナラシテ名代人トナリタル婦ニ對シテハ此篇第五卷 婚姻ノ契約ノ
十六條ニ記シタル規則ニ循ヒ其訴訟ヲ爲ス可シ
見合セ

○第二章 名代人ノ義務

第一千九百九十一條 名代人ハ其任ヲ受ケタル時閉名代ノ事務ヲ執行
フ可シ若シ之ヲ行ハサルコ因リ本人ノ爲メ損失ヲ生シタル時ハ之
ヲ償フ可シ

本人死去ノ時名代人既ニ爲シ始メタル事アリテ名代人之ヲ停止ス
ル時ハ後ニ其事ヲ爲スノ阻害トナル可キ恐アルニ於テハ名代人其
事ヲ成就ス可シ

第一千九百九十二條 名代人ハ己レノ爲ス所ノ詐偽ノ責ニ任ス可キノ
ミニ非ス己レノ過失ノ責ニモ亦任ス可シ
謝金ヲ受ケサル名代人己レノ過失ニ任スルノ責ハ謝金ヲ受クル名

代人ヨリ更ニ輕シトス

第一千九百九十三條 名代人ハ總テ己レノ行フタル所ヲ本人ニ算計シ
且其本人ノ爲メ受取リタル諸件ヲ本人ニ渡ス可シ但シ本人ノ得可
キ權アラサル物件ヲ名代人ノ受取リタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第一千九百九十四條 名代人己レニ代テ事ヲ爲ス可キ者ヲ任スルノ權
ヲ本人ヨリ受ケタル時又ハ本人ヨリ其權ヲ受クルト雖モ本人其者
ヲ撰ムコトナクシテ名代人ノ撰ミタル者極メテ其職務ニ堪ヘス又ハ
家資分散ヲ爲シタル時ハ名代人其己レニ代テ事ヲ爲シタル者ノ爲
メ本人ノ受ケタル損失ヲ擔當ス可シ

又同上ノ場合ニ於テハ本人ヨリ名代人其己レニ代テ事ヲ爲サシム
ル爲メ選任シタル者ニ對シ直チニ其償ヲ得ント求ムルコト得可シ

第一千九百九十五條 一通ノ證書ヲ以テ名代人数人ヲ任シタル時ト雖

モ其數人ハ互ニ連帶スルコトナシトス但シ其證書ニ連帶ノ旨ヲ記シタル時ハ格別ナリトス

第一千九百九十六條 名代人本人ノ金高ヲ自己ノ用ニ供シタル時ハ其時ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ又本人ニ渡ス可キ金高アリテ之ヲ渡ス可キノ求メテ受ケ猶之ヲ渡サ、ル時ハ其時ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ

第一千九百九十七條 名代人己ント契約ヲ結ハント爲ス者ニ自己ノ任ヲ受ケタル權利ノ定期ヲ明カニ告知セシ上其者名代人ノ權利外ノ事ニ付キ契約ヲ結ヒタル時ハ後ニ名代人其契約ノ如ク行フコトヲ得スト雖モ其者名代人ヲシテ其責ニ任セシムルコトヲ得ス但シ名代人其責ニ任ス可キコトヲ別段定メ置タル時ハ格別ナリトス

○第三章 本人ノ義務

第一千九百九十八條 本人ハ其名代人ニ授ケタル權利ニ因リ名代人ノ他人ト契約シタル義務ヲ自カラ執行フ可シ

名代人其本人ヨリ受ケタル權利外ニ於テ爲シタル事ニ付テハ本人之ヲ明許シ又ハ默許シタル時ノ外其事ヲ擔當スルニ及ハス

第一千九百九十九條 名代人本人ヨリ任ヲ受ケタル事務ヲ行フニ付キ出シタル所ノ拂高及費用ハ本人ヨリ之ヲ名代人ニ償フ可ク又本人ヨリ名代人ニ謝金ヲ與フ可キノ約束アル時ハ之ヲ與フ可シ

名代人ニ過失アラサル時ハ縱令名代人ノ任ヲ受ケシ事務ノ成就セサル時ト雖モ前ニ記シタル拂高ト費用トヲ本人ヨリ名代人ニ償ハサルヲ得ス又本人ハ其名代人ノ出シタル拂高及ヒ費用ノ更ニ少ナキヲ得可キ旨ヲ口實ト爲シ其償還ノ高ヲ減スルコトヲ得ス

第二千條 又名代人其任セラレタル事務ヲ行フニ付キ其過失ニ非ス

シテ損失ヲ受ケタル時ハ本人ヨリ之ヲ償フ可シ

第二千一條 名代人本人ヨリ任ヲ受ケタル事務ヲ行フニ付キ爲シタル拂高ノ息銀ハ其拂方ヲ爲シタルノ證アル日ヨリ以來本人之ヲ償フ可シ

第二千二條 一箇ノ事務ニ付キ本人數人ニテ名代人一人ヲ任シタル時ハ其本人數人ニテ其名代人ニ對シ連帶シテ義務ヲ負フ可シ

○第四章 名代ノ任ノ終ル方法

第二千三條 名代ノ任ハ左ノ諸件ニ因リ終ル可シ

名代人ヲ退クル事

名代人自カラ其任ヲ退ク事

本人又ハ名代人ノ死去准死治産ノ禁家資分散

第二千四條 本人ハ己レノ意ニ隨ヒ其名代人ヲ退クルヲ得可シ但

シ私ノ證書ヲ以テ其名代人ヲ任シ之ヲ名代人ニ渡シ置キタル時ハ其證書ヲ還サシメ又公正ノ證書ヲ以テ名代人ヲ任シ其證書ノ正本ヲ名代人ニ渡シ置キタル時ハ其正本ヲ還サシメ又其正本ヲ本人ノ方ニ保チ置キタル時ハ其副本ヲ還サシムルヲ得可シ

第二千五條 本人ヨリ名代人ニ其任ヲ退クル旨ヲ告知シタルト雖モ他人其旨ヲ知ラスシテ名代人ト契約ヲ結ヒタル時ハ本人其契約ノ執行ヲ擔當ス可シ但シ本人ハ此事ニ付キ名代人ニ對シテ訴訟ヲ爲スヲ得可シ

第二千六條 從來ノ名代人ニ委任セシ事務ニ付キ更ニ他ノ名代人ヲ任シタル時ハ從來ノ名代人ニ其旨ヲ告知シタル日ヨリ從來ノ名代人ヲ退ケタルト看做ス可シ

第二千七條 名代人ハ其任ヲ退カント欲スルヲ本人ニ告知シテ其

任ヲ退シ、ヲ得可シ然レ名代人其任ヲ退クニ因リ本人ノ爲メニ損
失ヲ生スル時ハ名代人其損失ヲ償フ可シ但シ名代人其名代ノ任ヲ
繼續シテ行フニ於テハ本人ノ受クル損失ヨリモ更ニ夥多ノ損失ヲ
己レニ受シ可キ場合ハ格別ナリトス

第二千八條 若シ名代人本人ノ死去又ハ其他自己ノ任ノ終ル可キ原
由ヲ知ラスシテ他人ト契約ヲ爲シタル時ハ其契約ノ効アリトス

第二千九條 前條ノ場合ニ於テ他人正實ノ意ヲ以テ其名代人ト結ヒ
タル契約ハ本人ノ方ニテ之ヲ執行フ可シ

第二千十條 名代人ノ死去シタル時ハ其遺物相續人ヨリ其由ヲ本人
ニ告知シ其相續人本人ヨリ其答詞ヲ得ルニ至ル迄ハ本人ノ爲メ必
要ナル諸事ヲ執行フ可シ

○第十四卷 保證(千八百四年二月十四日決定同月二十四日布告)

○第一章 保證ノ本義及ヒ其定限

第二千十一條 總テ保證人ハ本人其義務ヲ行ハサル時義務ヲ得可キ
者ニ對シテ其義務ヲ盡クス可シ

第二千十二條 契約ノ義務ノ効ナキ時ハ亦其保證ノ効ナカル可シ
然レ本人ノ幼者タル事等ノ如ク總テ本人ノ一身ニ管シタル理由ニ
因リ其契約ノ義務ヲ取消シ得可キ時ト雖モ其保證ノ効アリトス

第二千十三條 保證人ノ擔當ス可キ義務ノ高ハ主タル義務ノ高ニ過
ク可カラズ又保證人ハ本人ヨリ更ニ重劇ナル義務ヲ契約ス可カラ
ズ

保證ハ主タル義務ノ一部ノミニ付キ之ヲ爲スヲ得可ク又保證人

ハ本人ヨリ更ニ輕キ義務ヲ契約スルヲ得可シ
主タル義務ノ高ニ過キタル保證人ノ契約又ハ保證人本人ヨリ更ニ
重劇ナル義務ヲ擔當ス可キ契約ハ全ク其効ナキモノトス可カラズ
之ヲ其主タル義務ト同一ニ爲ス可シ

第二千十四條 別段本人ヨリノ願ナクシテ其保證人トナルヲ得又
ハ本人ノ知ルヲナクシテ其保證人トナルヲ得可シ
又如何ナル人ト雖モ主タル義務ノ保證人トナル可キノミニ非ス亦
保證人ノ保證人トナルヲ得可シ

第二千十五條 保證ノ事ハ思料ヲ以テ爲ス可カラズ必ス之ヲ契約書
ニ記ス可シ但シ其保證ノ義務ハ其契約書ニ記シタル定限ニ過ク可
カラス

第二千十六條 保證ニ付キ別段定限ヲ立テサル時ハ主タル義務ニ附

帶シタル諸件及ヒ義務ヲ得可キ者先ツ其義務ヲ行フ可キ本人ニ對
シ爲シタル訴訟ノ費用並ニ其訴訟ヲ爲セシ由ヲ保證人ニ告知シタ
ル後ノ訴訟ノ費用ニ至ル迄皆保證人ノ擔當ス可キ所ナリトス

第二千十七條 保證人ノ義務ハ其遺物相續人ニ之ヲ傳フ可シ但シ保
證人其義務ヲ行ハサルニ因リ禁錮ヲ受ク可キ場合ト雖モ其相續人
ハ禁錮ヲ受クルヲナカル可シ

第二千十八條 保證人ヲ立ツ可キ本人ハ契約ヲ結ヒ得可キノ權利ヲ
有シ且其義務ノ保證ヲ爲スニ十分ナル財産ヲ所有スル者ヲ保證人
ト爲ス可シ但シ保證人トナル可キ者ノ住所ハ其保證ノ契ヲ約爲ス
地ノ控訴院ノ管轄内ニアルヲ必要トス

一六八 第二千十九條 商業ノ事務ニ管シタル時又ハ義務ノ高極メテ少ナキ
時ノ外保證人其義務ヲ行ヒ得可キ能力ハ其所有スル不動産ヲ以テ

之ヲ計ル可シ

又保證人ノ不動産所有ノ權ニ付キ訴訟アル時又ハ不動産遠地ニ在テ義務ヲ得可キ者ヨリ之ヲ得ント求ムルニ差支アル時ハ其保證人ノ義務ヲ行ヒ得可キ能力ヲ計ルニ付キ此等ノ不動産ヲ算入ス可カラズ

第二千二十條 若シ義務ヲ得可キ者自己ノ意ニ因リ又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ義務ヲ行フ可キ者ノ立テタル保證人ヲ承諾シ後ニ其保證人已レノ義務ヲ行フ能ハサルニ至リシ時ハ義務ヲ行フ可キ者更ニ他ノ保證人ヲ立ツ可シ
然レ義務ヲ得可キ者ト義務ヲ行フ可キ者トノ契約ニ因リ義務ヲ得可キ者義務ノ保證人ヲ特ニ撰ミタル時其保證人後ニ其保證ノ義務ヲ行フ能ハサルニ至ルコトアルニ於テハ前項ノ例外ナリトス

○第二章 保證ノ効

○第一款 義務ヲ得可キ者ト保證人トノ間ニ生スル保證ノ効

第二千二十一條 保證人ハ義務ヲ得可キ者ニ其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テシム可キコトヲ述ヘ其本人猶其義務ヲ行ハサル時ノ外自カラ義務ヲ行フニ及ハス然レ保證人別段其權利ヲ拋棄シタル時又ハ義務ヲ行フ可キ本人ト連帶シテ義務ヲ行フ可キコトヲ契約シタル時ハ格別ナリトス但シ其義務ヲ行フ可キ本人ト保證人ト連帶シテ義務ヲ行フ可キコトヲ契約シタル時ハ連帶シタル義務ニ付キ定メタル規則ニ循ヒ其契約ノ効ヲ生ス可シ

第二百條 見合セ

第二千二十二條 義務ヲ得可キ者ヨリ保證人ニ對シ義務ヲ得ント求

メ其保證人其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テシム可キヲ述ヘタル時ノ外義務ヲ得可キ者必スシモ其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充テ用ントスルニ及ハス

第二千二十三條 保證人義務ヲ得可キ者ニ其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テ用フ可キヲ求ムルニハ其義務ヲ得可キ者ニ其本人ノ財産ヲ指示シ且其財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充テシムル手續ヲ爲スニ十分ナル費用ノ金高ヲ義務ヲ得可キ者ニ預メ渡シ置シ可シ

保證人ハ本人ノ義務ヲ盡シス可キ地ノ控訴院ノ管轄外ニアル其財産ヲ指示ス可カラヌ又其控訴院ノ管轄内ニアル本人ノ財産ト雖ヒ他人ヨリ之ヲ得ルノ權アルヲ訴出シタル財産又ハ書入質ト爲シ

タル財産ヲ指示ス可カラヌ

第二千二十四條 保證人前條ノ規則ニ循ヒ其指示スヲ得可キ本人ノ財産ヲ指示シ且財産ヲ以テ義務ヲ得ルニ充テシムル手續ヲ爲スニ足ル可キ費用ノ金高ヲ義務ヲ得可キ者ニ渡シタル時其義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充ツ可キ手續ヲ爲スニ怠タリ其本人終ニ其義務ヲ行フ不能ハサルニ至ル事アルニ於テハ保證人義務ヲ得可キ者ニ指示シタル本人ノ財産ノ高ニ至ル迄其保證ノ義務ヲ免カル可シ

第二千二十五條 一箇ノ義務ニ付キ其義務ヲ行フ可キ本人ノ爲ノ保證人數人アル時ハ其各保證人其義務ノ總高ヲ擔當ス可シ

第二千二十六條 然レ其各保證人ハ義務ヲ得可キ者ノ其義務ヲ各自ニ分派ス可キ求メテ爲スヲ得可シ但シ保證人其義務ヲ分テ行フ

可キヲ求ムルノ權利ヲ拋棄シタル時ハ格別ナリトス
 保證人中ノ一人裁判所ヨリ其義務ヲ分チ行フ可キノ言渡ヲ得タル
 時ニ當リ其保證人中ニ其義務ヲ行フ能ハサル者アルニ於テハ其
 義務ヲ分チ行フ可キノ言渡ヲ得タル保證人他ノ保證人ト共ニ其義
 務ヲ行フ能ハサル者ノ部分ヲ擔當ス可シ然レ既ニ其義務ノ分派
 ナ爲シタル後ハ其保證人中ニ其義務ヲ行フ能ハサルニ至リシ者
 アリト雖モ他ノ保證人其者ノ部分ヲ擔當スルニ及ハス
 第二千二十七條 義務ヲ得可キ者自己ノ意ヲ以テ其得可キ義務ヲ分
 ツト承諾シタル時ハ縱令其者其承諾ヲ爲ス前ニ其義務ヲ行フ
 能ハサルニ至リシ保證人アル時ト雖モ其義務ヲ分チタルヲ取消
 ス可カラス

○第二款 本人ト保證人トノ間ニ生スル保證ノ効

第二千二十八條 義務ヲ行フ可キ本人其保證人アルヲ知ルト知ラ
 サルトト問ハス保證人其本人ノ爲メ義務ヲ行フタル時ハ其本人ニ
 對シテ訴ヲ爲スノ權アリ
 其訴訟ハ母銀及ヒ息銀ト費用トノ償還ヲ得ンカ爲メ之ヲ爲ス可シ
 然レ其保證人ハ義務ヲ得可キ者ヨリ訴訟ヲ受ケタル旨ヲ其本人ニ
 告知スルヲホシシテ出シタル費用ノ償還ヲ其本人ヨリ得ント訴フ
 可カラス

第二千二十九條 義務ヲ行フ可キ本人ノ爲メ義務ヲ行フタル保證人
 ハ義務ヲ得可キ者ヨリ其本人ニ對シテ行フ可キ權利ニ代ル可シ
 第二千三十條 一箇ノ義務ニ付キ連帶シテ之ヲ行フ可キ本人數人ア

リテ其保證人一人ナル時保證人其義務ヲ行フタルニ於テハ其義務ヲ行フ可キ各本人ニ對シ其既ニ行フタル義務ノ總高ノ償還ヲ得ント訴フルヲ得可シ

第二千三十一條 保證人義務ヲ行フ可キ本人ニ告知セズシテ其本人ノ爲メ義務ヲ行ヒ其本人後ニ重複シテ其義務ヲ行フタル時ハ其保證人ヨリ本人ニ對シテ償還ノ訴訟ヲ爲スヲ得ス唯其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ノ訴訟ヲ爲スヲ得可シ
又保證人義務ヲ得可キ者ヨリ訴訟ヲ受クルヲナク且義務ヲ行フ可キ本人ニ告知スルヲナクシテ其義務ヲ行フタル時ニ當リ其本人己ノノ義務ノ既ニ消散シタル旨ヲ證シ得可キ事アルニ於テハ其保證人本人ニ對シ償還ヲ求ムルノ訴訟ヲ爲ス可カラズ唯義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ノ訴訟ヲ爲スヲ得可シ

第二千三十二條 保證人ハ其本人ノ爲メ義務ヲ行ハサル前ト雖モ左ノ場合ニ於テハ償還又ハ釋放ヲ得可キ爲メ本人ニ對シテ訴訟ヲ爲スヲ得可シ

- 第一 保證人義務ヲ得可キ者ヨリ義務ヲ行フ可キノ訴ヲ受ケタル時
- 第二 義務ヲ行フ可キ本人家資分散ヲ爲シ又ハ産業ノ衰敗シタル時
- 第三 義務ヲ行フ可キ本人定期ノ時間ニ其保證人ニ保證ノ義務ヲ釋放ス可キノ契約ヲ爲シ其期限ニ至リシ時
- 第四 義務ノ契約ヲ爲シタル定期ノ終ルニ因リ其義務ヲ行フ可キノ至リシ時
- 第五 義務ヲ行フ可キ期限ヲ契約セサル時ハ其義務ノ生シタル

ヨリ十年ニ至リシ時但シ後見ノ職務ノ如ク定マリシ期限内ニ其義務ノ消散スルコトヲ得可キ本義アル時ハ格別ナリトス

〇第三款 保證人數人ノ間ニ生スル保證ノ効

第二千三十三條 一箇ノ義務ニ付キ之ヲ行フ可キ本人一人ニシテ其保證人數人アル時ハ其本人ノ爲メニ義務ヲ行フタル保證人他ノ保證人ノ各自擔當ス可キ部分ニ付キ償還ヲ得ントスル訴訟ヲ爲スコトヲ得可シ然レ其訴訟ハ前條ニ記シタル場合中ノ一ニ於テ其義務ヲ行フタル時ノ外之ヲ爲ス可カラズ

〇第三章 保證ノ義務消散スル事

第二千三十四條 保證ノ義務ハ其他ノ義務ト同一ノ原由ニ因リ消散ス可シ

第二千三十五條 義務ヲ行フ可キ本人其保證人ノ遺物相續人トナリ

又ハ保證人其本人ノ遺物相續人トナリテ其雙方ノ身分混同スル時ト雖モ義務ヲ得可キ者ハ保證人ヲ更ニ保證スル者ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フコトナカル可シ

第二千三十六條 義務ヲ行フ可キ本人其義務ノ本義ニ因リ之ヲ行フ

コトヲ拒ム可キノ權アル時ハ其保證人モ亦其權ヲ以テ義務ヲ得可キ者ノ求メテ拒ムコトヲ得可シ

然レ義務ヲ行フ可キ本人ノ一身ノミニ其抵拒ノ權アル時ハ其保證人其權ヲ以テ義務ヲ得可キ者ノ求メテ拒ム可カラズ

第二千三十七條 義務ヲ得可キ者ノ處置ニ因リ保證人其者ノ權書ノ質ノ權債主ノ特權ニ代ルコトヲ得サルニ至リシ時ハ保證人其義務ノ

釋放ヲ受シ可シ

第二千三十八條 義務ヲ得可キ者其義務ヲ得ルニ充ル爲メ義務ヲ行

フ可キ者ノ不動産又ハ動産ヲ自己ノ意ヲ以テ受取リシ時ハ其者後
ニ正當ノ所有者ヨリ訴訟ヲ受ケテ其動産又ハ不動産ヲ奪ハル、
アリト雖モ保證人ハ其義務ノ釋放ヲ得可シ

第二千三十九條 義務ヲ得可キ者ヨリ義務ヲ行フ可キ本人ニ其義務
ヲ行フ可キ期限ノ猶豫ヲ許シタルノミヨテハ保證人其義務ノ釋放
ヲ得可カラス但シ其保證人ハ本人ヲシテ其義務ヲ行ハシム可キ爲
メノ訴ヲ爲スヲ得可シ

○第四章 法律上ノ保證及ヒ裁判言渡上ノ保證

第二千四十條 法律上又ハ裁判言渡ニ因リ保證人ヲ立ツ可キアル
時ハ其保證人トナル者第二千十八條及ヒ第二千十九條ニ記シタル
條件ノ具備シタルヲ必要トス

又裁判言渡ニ因リ保證人ヲ立テタル時其保證人已レノ義務ヲ行ハ

サルニ於テハ之ヲ禁錮ス可シ

第二千四十一條 保證人ヲ立テント欲シ之ヲ得サル者ハ其保證人ニ
代ヘテ至當ノ動産ヲ質ト爲スヲ得可シ

第二千四十二條 裁判言渡ニ因リ保證人ヲ立テタル時ハ其保證人自
カラ其義務ヲ行フ前ニ先ツ義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義
務ヲ得ルニ充テシム可キヲ義務ヲ得可キ者ニ求ムルヲ得ス

第二千四十三條 裁判言渡ニ因リ立テタル保證人ヲ更ニ保證スル者
ハ自カラ義務ヲ行フ前ニ先ツ義務ヲ行フ可キ本人及ヒ其保證人ノ
財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充テシム可キヲ義務ヲ得可キ者ニ求
ムルヲ得ス

○第十五卷 和解(千八百四年三月二十日決定同月三十日布告)

第二千四十四條 和解トハ雙方ノ間ニ既ニ生シタル爭ヲ了シ又ハ生
セントスル爭ヲ預メ防シ契約ヲ云フ

此契約ハ必ス之ヲ書面ニ記ス可シ

第二千四十五條 和解ヲ爲サントスルニハ其和解ニ管シタル物件ヲ
己ノ隨意ニ取扱フノ權ヲ有スルヲ必要トス

後見人ハ第四百六十七條ノ規則ニ循フニ非サレハ幼者又ハ治産ノ
禁ヲ受ケタル者ノ爲メニ和解ヲ爲スヲ得ス又後見人ハ第四百七
十二條ノ規則ニ循ハサレハ後見ノ算計ニ付キ幼者ノ丁年ニ至リシ
者ト和解ヲ爲スヲ得ス
邑及ヒ公舎ノ支配人ハ其邑及ヒ公舎ニ管シタル事ニ付キ別段皇帝
ヨリノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ和解ヲ爲スヲ得ス

第二千四十六條 罪犯ヨリ生シタル損害ノ償ヲ求ムル事ニ付テハ和
解ヲ爲スヲ得可シ

此事ニ付キ和解ヲ爲スト雖モ檢察官員ヨリ其犯人ノ罪ヲ訴フルノ
妨トナルヲナカル可シ 治罪法第一條見合

第二千四十七條 和解ノ契約ヲ爲シタル雙方ノ中其契約ノ如ク行ハ
サル者アル時ハ其者ヲシテ其償ヲ出サシム可キノ契約ヲ和解ノ契
約ニ附加スルヲ得可シ

第二千四十八條 和解ノ契約ハ其目的ト爲ス所ノ事ニ限ル可シ故ニ
和解ノ契約ヲ以テ人ヨリ物ヲ得可キノ權及ヒ人ニ對シ訴訟ヲ爲ス
可キノ權ヲ拋棄シタル時ハ其和解ヲ爲スノ原由タル爭ニ管シタル
事ノミニ付キ此等ノ權ヲ拋棄シタルト爲ス可シ

第二千四十九條 和解ノ契約ハ其雙方ノ者ノ詳悉又ハ泛博ニ其意ヲ

表シタルト契約書ニ記シタル所ヨリ推シテ了知シ得可キトモ問ハ
ス其契約ニ包含シタル所ノ争ノミヲ了ス可シ

第二千五十條 自己ノ有スル所ノ權ニ付キ和解ヲ爲シタル者後ニ同
一ノ權ヲ他人ヨリ得タル時ハ和解ノ契約ノ爲メ後ニ得タル權ヲ執
行フノ妨トナルコトナカル可シ

第二千五十一條 同一ノ事務ニ管シタル數人中ノ一人ヲ和解爲シタ
ルト雖モ其他ノ者ハ其和解ノ契約ヲ遵守スルコト及ハス又其和解ノ
契約アルコトヲ申述ヘテ其義務ヲ免カントスルコトヲ得ス

第二千五十二條 和解ノ契約ハ之ヲ結ヒタル者ノ間ニ於テハ控訴ス
可カラサル裁判言渡ト同一ノ力アリトス

和解ノ契約ハ權利ノ錯誤又ハ損害アルヲ以テ之ヲ取消スルコトヲ得ス
第二千五十三條 然レ人ヲ錯誤シタル時又ハ争ノ主意ヲ錯誤シタル

時ハ其和解ノ契約ヲ取消スルコトヲ得可シ

又詐偽又ハ暴行アル時モ亦其契約ヲ取消スルコトヲ得可シ

第二千五十四條 効ナキ證書ノ如ク執行フコト付キ和解ノ契約ヲ爲シ

タル時ハ後ニ其契約ヲ取消サント訴フルコトヲ得可シ但シ雙方ノ者
其證書ノ効ノ有無ニ付キ別段和解ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第二千五十五條 證書ニ付キ和解ヲ爲シタル後ニ其證書ヲ贋造タル
コト分明ナルニ至リシ時ハ其和解ノ効ナカル可シ

第二千五十六條 既ニ訴訟ノ確定ノ裁判アリテ之ヲ控訴スルコト能ハ
サルニ至リシ後雙方ノ者又ハ一方ノ者此事ヲ知ラヌシテ其訴訟ノ
事ニ付キ和解ノ契約ヲ爲シタル時ハ其契約ノ効ナカル可シ

第七七八
雙方又ハ一方ノ者ノ知ラサル確定ノ裁判言渡シアリト雖モ其裁判
言渡ヲ控訴スルコトヲ得可キニ於テハ其和解ノ契約ノ効アリトス

第二千五十七條 何事ニ限ラズ雙方ノ者相與ニ爲スコアル可キ諸事
 ニ付キ和解ノ契約ヲ爲シタル時ハ其契約ヲ爲シタル時ニ當リ知ル
 コナキ證書ヲ後ニ見出シタルト雖モ其和解ノ契約ヲ取消スノ原由
 ト爲ス可カラズ但シ一方ノ者ノ所爲ニ因リ故カラニ其證書ヲ匿シ
 置キタル時ハ格別ナリトス
 然レ一箇ノ事ニ付キ和解ノ契約ヲ爲シタル後新タニ證書ヲ見出シ
 其證書ニ因リ一方ノ者其和解ノ目的タル事ニ管ス可キ權ナキコト分
 明トナリシ時ハ其和解ノ契約ヲ取消ス可シ
 第二千五十八條 和解ノ契約ニ算計ノ錯誤アル時ハ之ヲ改正ス可シ

○第十六卷 禁錮 民法上ノ事ニ付(千八百四年二月十三日決定同
 テノ禁錮ヲ云フ)

月二十三日布告千八百六十七年七月二十二日廢ス)

第二千五十九條 「ステリチナー」ノ答アル時ハ民法上ニ管スル事ニ付
 キ禁錮ヲ受ク可シ

左ノ場合ニ於テハ「ステリチナー」ノ答アリトス

己レノ所有ニ非サルコトヲ知リタル不動産ヲ賣拂ヒ又ハ書入質
 ト爲シタル時

書入質ト爲タル不動産ヲ書入質ト爲サ、ルモノナリト述タル
 時又ハ其不動産ヲ書入質ト爲タル高ク實ヨリ少ナク述タル時

第二千六十條 又左ノ場合ニ於テハ禁錮ヲ受ク可シ

- 第一 己ムコト得サル附託ヲ受ケ其物ヲ還サ、ル時
- 第二 不動産正當ノ所有者他人ノ暴行ニ因リ之ヲ奪ハレタルニ
 付キ之ヲ取戻サント裁判所ニ訴出シ其暴行ヲ爲シタル者裁判

所ヨリ之ヲ正當ノ所有者ニ還ス可キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ還サ
ル時又ハ暴行ヲ以テ不動産ヲ所有ト爲シタル時間ニ其得
ル所ノ利益ヲ其所有者ニ還ス可キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ還サ
ル時又ハ其所有者ノ受ケタル損失ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ケ猶
其償ヲ爲サ、ル時

第三 金高ノ附託ヲ受ク可キノ職務アル者其附託ヲ受ケタル金
高ヲ還ス可クシテ猶之ヲ還サ、ル時

第四 雙方相争フ物ノ附託ヲ受フ可キ者「コミセイ」古ノ官名ニ
モ應ス及ヒ其他物件ヲ管守ス可キ者其附託ヲ受ケタル物件ヲ
渡ス可クシテ猶之ヲ渡サ、ル時

第五 裁判所ヨリノ言渡ニ因リ立テタル保證人及ヒ禁銅ヲ受ク
可キ者ノ保證人其保證ノ義務ヲ行ハサル時但シ禁銅ヲ受ク可

キ者ノ保證人亦自カラ禁銅ヲ受ク可キヲ契約ヲ以テ承諾シ
タル時ニ限ル可シ

第六 官吏其附託ヲ受ケタル證書ノ正本ヲ出ス可キノ言渡ヲ受
ケ猶之ヲ出サ、ル時

第七 證書人代書師使吏其職務ニ付キ原告又ハ被告ヨリ附託ヲ
受ケシ證書ヲ還ス可キノ之ヲ還サ、ル時又ハ此等ノ者原告又
ハ被告ノ爲メ受取シ金高ヲ渡ス可キノ之ヲ渡サ、ル時

第二千六十一條 正當ノ所有者ノ不動産ヲ占有セシ者既ニ控訴ス可
カラサル確定ノ裁判言渡ヲ受ケ其不動産ヲ正當ノ所有者ニ渡ス可
キノ猶之ヲ渡サ、ル時ハ其言渡書ヲ其者又ハ其住所ニ送達シタル
ヨリ十五日ノ後更ニ第二次ノ言渡ヲ爲シテ之ヲ禁銅ス可シ
又其不動産ト之ヲ占有セシ者ノ住所トノ間ニ五ミリヤメートル以

上ノ距離アル時ハ五「ミリヤメートル」毎ニ其十五日ノ期限ニ一日ノ猶豫ヲ増ス可シ

第二千六十二條 土地ヲ賃借スル者其借受ケノ證書ニ其借賃ヲ拂ハサルニ於テハ禁錮ヲ受ク可キヲ特ニ約シタル時ノ外土地ノ借賃ヲ拂ハサルコトノ爲メ禁錮ヲ言渡ス可カラス○然レ土地ヲ賃借スル者又ハ土地ノ入額ヲ其所有者ト分ツ可キ約束ニテ之ヲ賃借スル者管テ附託ヲ受ケシ獸類種子農業ノ器具ヲ還サ、ル時ハ其者ヲ禁錮スルコトヲ得可シ但シ其者自己ノ過失ニ非ラスシテ此等ノ物件ヲ失フタルノ證ヲ立ル時ハ格別ナリトス

第二千六十三條 前數條ニ定メタル場合ト後日別段ノ法律ヲ以テ特ニ定ム可キ場合トノ外ハ裁判役禁錮ヲ言渡ス可カラス又證書人及ヒ裁判所ノ書記官ハ禁錮ノ事ヲ契約スル證書ヲ記ス可カラス又各

佛蘭西人ハ縱令外國ニ於テ禁錮ノ事ヲ載セタル證書ヲ記シタルト雖モ其證書ヲ承諾ス可カラス若シ此規則ニ背ク者ハ其言渡書又ハ證書ヲ取消シテ其諸般ノ費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ケ且之カ爲メ損害ヲ受クル者ニ其償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第二千六十四條 前數條ニ記シタル場合ト雖モ幼者ニ對シテ禁錮ヲ言渡ス可カラス

第二千六十五條 三百「フランク」以下ノ金高ニ付テハ禁錮ヲ言渡ス可カラス

第二千六十六條 七十歳以上ノ者及ヒ婦女ニ付テハ「ステリチナー」ノ答アル時ノ外禁錮ヲ言渡ス可カラス

七十歳以上ノ者ノ免許ヲ受ケントスルニハ其齡ヲ生年ヨリ算ヘ第七十ノ年次ニ掛リシコトヲ以テ足ソリトス

婚姻ヲ結ビタル婦ハ其夫ト財産ヲ分テ又ハ自由ニ支配スルヲ得
可キ自己ノ財産ヲ有シ其自己ノ財産ニ付キ人ニ對シ義務ヲ負フタ
ル時ノ外結縁ノ時間「ステリヲナ」ノ答ニ付キ禁錮ヲ言渡ス可ラス
夫ト財産ヲ共通シ其夫ト連帶シテ義務ヲ負フタル婦ハ其義務ノ契
約ニ付キ「ステリヲナ」ノ答アル者ト看做ス可カラス

第二千六十七條 法律上ニテ人ヲ禁錮スルヲ得可キ場合ト雖モ裁
判所ノ言渡アルニ非サレハ之ヲ禁錮ス可カラス

第二千六十八條 假リニ執行フ可キ禁錮ノ言渡ヲ控訴スルト雖モ其
假リノ言渡ヲ得タル者保證人ヲ立テ其言渡ノ如ク執行ハントスル
時ハ其控訴ノ爲メ禁錮ヲ停止ス可カラズ

第二千六十九條 禁錮ノ言渡ノ如ク執行フト雖モ禁錮ヲ受ケシ者ノ
財産ヲ抵償トシテ差押フルコトノ差支トナル可カラズ又其差押ヲ停

止ス可カラズ

第二千七十條 此卷ニ記スル所ノ禁錮ノ法律ト商業ノ事ニ付キ禁錮
ヲ爲スノ法律輕罪犯ヲ罰スルニ付テノ法律官金ヲ支配スルニ付テ
ノ法律ト相觸ル、コトナカル可シ

○第十七卷 質物ノ事千八百四年三月十六日決定同月二十六日
布告

第二千七十一條 質トハ負債者其債ヲ償フ可キノ保證トシテ其債主
ニ物件ヲ渡ス契約ヲ云フ

第二千七十二條 動産ノ質ヲ名ケテ「ガ」シト云フ
不動産ノ質ヲ名ケテ「ア」シト云フ

○第一章 動産ノ質

第二千七十三條 動産ノ質ヲ得タル債主ハ他ノ債主ヨリ先ニ其質トシテ得タル動産ヲ以テ貸高ノ償ヲ得可キ特權ヲ有ス可シ

第二千七十四條 債主其特權ヲ得ントスルニハ質物ノ種類及ヒ性質ト貸與ヘタル金高トヲ記シタル公正ノ證書又ハ私ノ證書又ハ質物ノ性質及ヒ度量ノ書付ノ添フタル公正ノ證書又ハ私ノ證書ヲ法律ニ循ヒ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ必要トス

然レ百五十「フランク」以下ノ價アル質物ニ付テハ證書ヲ記シ且之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ必要トセス

第二千七十五條 甲ヨリ乙ニ金高ヲ貸シタル證書ヲ甲ノ債主甲ニ貸シタル金高ノ質物トシテ受取リ其質物ヲ以テ他ノ債主ヨリ先ニ其貸高ノ償ヲ受ク可キ特權ヲ得ントスルニハ公正ノ證書又ハ私ノ證

書ヲ記シテ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記シ且其質トシテ受取リシ旨ヲ乙ニ告知スルヲ必要トス

第二千七十六條 何レノ場合ニ於テモ債主質物ヲ受取リ置キ又ハ債主ト債債者ト雙方ニテ擇ミタル者其質物ヲ受取リ置キタルニ非サレハ債主其質物ニ付キ特權ヲ得可カラズ

第二千七十七條 甲ノ負債ノ保證ノ爲メ乙ヨリ自己ノ動産ヲ質物トシテ甲ノ債主ニ與フルヲ得可シ

第二千七十八條 債主ハ負債者其債ヲ拂ハサルト雖モ直ニ其質物ヲ自己ノ隨意ニ爲スヲ得ス但シ債主ハ評價人ノ評價ニ從ヒ其貸金ノ高ニ充ル迄其質物ヲ償トシテ己ノ所有ト爲シ又ハ之ヲ糶賣ニテ賣拂フ可キ言渡ヲ得ント裁判所ニ訴出スヲ得可シ
前項ニ記シタル法式ヲ行ハスシテ債主其質物ヲ自己ノ所有ト爲シ

又ハ隨意ニ取扱フ可キノ契約ハ其効ナカル可シ

第二千七十九條 負債者其債ヲ拂ハサルニ因リ債主ニ質トシテ渡シ

タル物件所有ノ權ヲ失フニ至ル迄ハ其物件ノ所有者ニシテ債主ハ

唯其特權ヲ保有スル爲メ其質物ノ附託ヲ受ケシ者ナリトス

第二千八十條 債主ハ此篇第三卷 契約及ヒ總テ契約ニ定メタル規則

ニ循ヒ己レノ過失ニ因リ質物ヲ滅盡破壊シタルノ責ニ任ス可シ

又負債者ハ債主其質物ヲ保全スルニ付キ爲シタル所ノ必要ニシテ

且資益アル費用ヲ債主ニ算計ス可シ

第二千八十一條 甲ノ乙ニ貸シタル金高ノ證書ヲ自己ノ負債ノ質ト

シテ丙ニ與ヘ其證書ニ記シタル金高ニ付キ息銀ヲ生スル時ハ丙其

息銀ヲ以テ己レノ得可キ息銀ノ償ニ充テ用フ可シ

若シ又甲ヨリ乙ニ貸シタル金高ニ付キ息銀ヲ生スルト雖モ丙ヨリ

甲ニ貸シタル金高ニ付キ息銀ヲ生スルコトナキ時ハ丙其質物トシテ

得タル甲ノ證書ニ因リ得ル所ノ息銀ヲ以テ己レノ得可キ母銀ノ償

ニ充テ用フ可シ

第二千八十二條 負債者ハ債主ノ其質物ヲ破壊シタル時ノ外其負債

ノ母銀及ヒ息銀並ニ諸費用ノ總高ヲ拂ヒシ後ニ非サレハ其質物ヲ

取戻ス可キノ訴ヲ爲ス可カラス

負債者其債ノ質トシテ債主ニ物件ヲ與ヘタル後其債主ニ對シ更ニ

再ヒ債ヲ負フコトアリテ未タ舊債ヲ償ハサル内ニ新債ヲ償フ可キ期

限ニ至リシ時ハ債主其二箇ノ負債ノ拂還ヲ得ル前ニ質物ヲ還與ス

ルニ及ハス

但シ新債ノ償ノ爲メ舊債ニ付テノ質物ヲ用フ可キ契約アレタル時

ト雖モ亦同一ナリトス

第二千八十三條 負債者ノ遺物相續人等ノ間ニ其負債ヲ分ツコトヲ得可シ又債主ノ遺物相續人等ノ間ニ其貸高ヲ分ツコトヲ得可キ時ト雖モ質物ハ之ヲ分ツコトヲ得ス 第一千二百十七條見合セ

故ニ負債者ノ遺物相續人中ノ一人其負債中ニテ己レノ擔當ス可キ部分ヲ拂フタルト雖モ其負債ノ總高ヲ拂ハサル内ハ其質物ノ中ニテ己レノ得可キ部分ヲ取戻サント訴フ可カラズ

又債主ノ遺物相續人中ノ一人其貸高中ニテ己レノ得可キ部分ヲ受取リタルト雖モ其質物ヲ還與シテ未タ拂方ヲ得サル他ノ相續人ノ損害ヲ爲ス可カラズ

第二千八十四條 前數條ノ規則ハ商業ノ事務又ハ官許アル典舖ニ通シ用フ可ラス但シ此等ノ事ニ付テハ別段設ケタル法則ニ循フ可シ

〇第二章 不動産ノ質

第二千八十五條 不動産ノ質ハ必ス書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

債主ハ不動産ノ質ヲ得タルニ因リ其不動産ヨリ生スル所ノ入額ヲ收メ其貸高ニ付キ息銀ヲ得可キ權アル時ハ毎歲其入額ヲ先ツ息銀ノ償ニ充テ用ヒ次ニ母銀ノ償ニ充テ用フルコトヲ得可シ

第二千八十六條 別段ノ契約アラサル時ハ債主其質トシテ得タル不動産ニ付キ出ス可キ税銀及ヒ毎歲ノ費用ヲ拂フ可シ

又其債主ハ其不動産ノ爲メ必要ニシテ且資益アル補理及ヒ修繕ヲ爲ス可シ若シ之ヲ爲サルニ因リ負債者ノ爲メ損害ヲ生シタル時ハ之ヲ償フ可シ但シ債主ノ此等ノ事ヲ爲ス費用ハ其不動産ノ入額中ヨリ取用フ可シ

第二千八十七條 負債者ハ其負債ノ總高ヲ拂ヒシ後ニ非サレハ其質ト爲シタル不動産ノ入額ヲ得可キノ權ヲ取戻スコトヲ得ズ

債主ハ前條ニ記シタル義務ヲ行フコトヲ欲セサル時 稅銀費用等ヲ負
債者ヲシテ強テ其不動産ヲ取戻サシムルコトヲ得可シ但シ此事ヲ爲
ス可キ權ヲ特ニ拋棄シタル時ハ格別ナリトス

第二千八十八條 債主ハ預定シタル期限ニ至リ貸高ノ拂還ヲ得サル
ノミニテ直チニ其不動産ノ所有者トナルコトヲ得ス 縱合之ニ反シタ
ル契約アリト雖モ其効ナカル可シ

然レ債主ハ負債者ノ不動産所有ノ權ヲ奪フ可キコトヲ裁判所ニ訴フ
ルヲ得可シ

第二千八十九條 債主ト負債者トノ雙方ニテ其不動産ヨリ生スル所
ノ入額ト貸高ノ息銀トヲ全ク相殺シ又ハ其一部分ヲ相殺ス可キコ
トヲ契約シタル時ハ其契約ヲ總テ法律上ニテ別段禁セサル他ノ契約
ノ如ク執行フコトヲ得可シ

第二千九十條 第二千七十七條及ヒ第二千八十三條ニ記シタル動産
ノ質ニ付テノ規則ハ不動産ノ質ニモ亦通シテ用フ可シ

第二千九十一條 此章ニ記スル所ノ規則ヲ以テ質ト爲シタル不動産
ニ付キ他人ノ有スル權利ノ書入質又ハ債主ヲ害スルコトナカル可シ

不動産ヲ質トシテ得タル債主其不動産ニ付キ亦債主ノ特權又ハ書
入質ノ權ヲ有スル時ハ他ノ債主ニ等シク相當ノ順序ヲ以テ此等ノ
權ヲ行フ可シ

○第十八卷 債主ノ特權一ノ債主他ノ債主ニ先チテ及ヒ書入質
ノ權 債主貸高ノ引當トシテ不
動産ヲ得可キ特權ヲ云フ(千八百四年三月十九日決定同

月二十九日布告)

○第一章 總規則

第二千九十二條 義務ヲ負フタル者ハ現今所有シ又ハ後ニ所有ト爲

スコアル可キ總テノ動産及ヒ不動産ヲ以テ其義務ヲ盡クス可シ

第二千九十三條 義務ヲ得可キ數人ハ義務ヲ行フ可キ者ノ財産ヲ相

與ニ引當ト爲スモノニシテ通常其財産ノ價高ヲ義務ヲ得可キ數人

ニ各其義務ノ高ノ割合ヲ以テ平等ニ分派ス可シ然レモ義務ヲ得可キ

者ノ中一人他人ヨリ先キニ其義務ヲ得可キ正當ナル原由アル時ハ

格別ナリトス

第二千九十四條 義務ヲ得可キ一人他人ヨリ先ニ義務ヲ得可キ正當

ノ原由ハ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ニアリトス

○第二章 債主ノ特權

第二千九十五條 債主ノ特權トハ義務ヲ得可キ一人其義務ノ種類ニ

因リ他ノ義務ヲ得可キ者ノミニ非ス書入質ノ權ヲ有スル者ヨリモ

先ニ其義務ヲ得可キノ權ヲ云フ

第二千九十六條 特權ヲ有スル債主數人アル時ハ其特權ノ種類ニ因

リ其義務ヲ得可キ順序ヲ定ム可シ

第二千九十七條 特權ヲ有スル債主數人其義務ヲ得可キ順序ノ相等

シキ時ハ其得可キ義務ノ高ノ割合ヲ以テ平等ニ其義務ヲ分テ之ヲ

得可シ

第二千九十八條 官ノ會計局ノ特權及ヒ其權ニ因リ義務ヲ得可キ順

序ハ此等ノ事ニ管シタル別段ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス但シ官ノ會

計局ハ既ニ他人ノ得タル權利ノ阻害トナル可キ特權ヲ得可カラズ

第二千九十九條 債主ノ特權ハ義務ヲ行フ可キ者ノ動産又ハ不動産

ニ付之ヲ行フコトヲ得可シ

○第一款 動産ニ付テノ債主ノ特權

第二千百條 債主ノ特權ハ總テノ動産ニ付キ行フモノアリ又ハ別段定マリシ動産ニ付キ行フモノアリ

○第二節 總テノ動産ニ付テノ債主ノ特權

第二千百一條 總テノ動産ニ付テノ債主ノ特權ヲ得可キ諸件ハ左ニ記列スル所ノモノニシテ且左ノ順序ニ從ヒ其權ヲ行フ可シ

第一 裁判所ノ費用

第二 喪式ノ費用

第三 死去スル時ノ病ノ費用

但シ其費用ノ償ヲ得可キ者數人アル時ハ其得可キ義務ノ高ノ割合ヲ以テ平等ニ其權ヲ行フ可シ

第四 雇入ラレシ者ノ既ニ經過シタル一年間ノ雇賃及ヒ現在ノ

一年間ノ雇賃ノ中既ニ受取リ期限ニ至リシ部分

第五 義務ヲ行フ可キ者及ヒ其家族ニ給シタル飲食料

但シ麩包舖及ヒ屠者等ノ如キ零賣ヲ爲ス者ハ前六月間給シタル物ノ爲メ其特權ヲ行ヒ又私塾コソリノ授業師及ヒ卸賣ヲ爲ス商人ハ前一年間給シタル物ノ爲メ其特權ヲ行フ可シ

○第二節 別段定マリシ動産ニ付テノ債主ノ特權

第二千百二條 別段定マリシ動産ニ付テノ債主ノ特權ハ左ノ如シ

第一 土地又ハ家屋ノ貸借ノ證書公正ノ書ナル時又ハ私書ト雖

モ日附ノ分明ナル時ハ其土地又ハ家屋ノ貸主其貸賃中ニテ既ニ受取ル可キ期限ニ至リシ部分並ニ未タ受取リ期限ニ至ラサル部分ノ償ヲ得可キ爲メ其土地又ハ家屋ノ本年ノ收納ト借主ノ其家屋又ハ土地ニ具備シタル諸物件ノ價高並ニ其土地ノ耕

作ニ用フル諸物件ノ價高トニ付キ特權ヲ行フ可シ但シ此場合ニ於テ借主ノ債主ハ其土地又ハ家屋ノ貸借期限ノ終ニ至ル迄借主ニ代リ其土地又ハ家屋ヲ己レニ借受ケテ更ニ之ヲ他人ニ貸渡シ其貸賃ヲ以テ己レノ貸金ノ償ニ充テ用フルヲ得可シ然レ其土地又ハ家屋ノ貸主ニ猶償ヒ殘シタル高アル時ハ其土地又ハ家屋ヲ借主ニ代テ己レニ借受ケタル債主ヨリ之ヲ償フ可シ

若シ又土地又ハ家屋ノ貸借ノ公正ノ證書アラサル時又ハ私書ニシテ其日附ノ分明ナラサル時ハ其貸主本年ノ終ヨリ更ニ一周年間ノ貸賃ノ償ヲ得可キ爲メ前項ニ記シタル特權ヲ行フヲ得可シ

又貸主借主ヲシテ家屋ノ小補理ヲ爲サシメ又ハ總テ契約ノ如

シ執行ハシムル爲メ亦同上ノ特權ヲ行フ可シ然レ種子ノ費用ノ償又ハ本年ノ收納費用ノ償ヲ土地ノ借主ヨリ得可キ者ハ其土地ノ貸主ヨリ先ニ收納物ノ價高ヲ以テ其償ヲ得可キ特權ヲ行フヲ得可シ又其土地ノ借主ニ農業ノ器具ヲ貸賃シタル者ハ其土地ノ貸主ヨリ先ニ其器具ノ價高ヲ以テ其貸賃ノ償ヲ得ルノ特權ヲ行フ可シ

土地又ハ家屋ノ貸主ハ借主ノ其家屋又ハ土地ニ具備シタル動産ヲ己レノ承諾ナシシテ他所ニ搬運シタル時其動産ヲ差押ニルヲ得可シ但シ其貸主ハ借主ノ土地ニ具ヘタル動産ニ付テハ四十日ノ期限内又家屋ニ具ヘタル動産ニ付テハ十五日ノ期限内ニ其動産ヲ償トシテ得ント訴ヘタルニ於テハ其動産ニ付キ其特權ヲ有ス可シ 訴訟法第八百二十六條以下見合

第二 債主其貸高ノ爲メ質物ヲ得タル時ハ其質物ニ付キ其特權
 有ス可シ

第三 他人ノ品物ヲ保全スル爲メ費用ヲ出シタル者ハ其品物ニ
 付キ其特權有ス可シ

第四 動産ヲ買ヒ入レタル時其價ヲ拂フ可キ期限ヲ定メタルト
 否トキ問ハス其買主未タ其價ヲ拂ハスシテ猶其動産有スル
 時ハ賣主其賣リタル動産ニ付キ其特權有ス可シ

動産ヲ賣拂ヒ其價ヲ拂フ可キ期限ヲ定メサル時其價ヲ得サル
 賣主其動産ヲ引渡シタルヨリ八日内ニ之ヲ取戻サント訴出シ
 且其動産ノ模様引渡シノ時ト異ナルコトナキニ於テハ其動産ヲ
 買主ノ有スル時間何時ニ限ラズ之ヲ取戻サント訴フルノ權ヲ
 有シ且買主ヨリ更ニ之ヲ他人ニ賣拂フコト拒ムヲ得可シ

賣主ノ特權ヲ行フ順序ハ家屋及ヒ土地ノ貸主ノ特權ノ次ニ在
 リトス但シ其貸主其家屋又ハ土地ニ備ハリタル動産ハ其借主
 ノ所有ニ非カルコト知リタルノ證アル時ハ格別ナリトス

此規則ヲ以テ商人ノ賣リタル物品取戻ノ訴ニ付テノ商法ノ規
 則ヲ改ムルコトナカル可シ 商法第五百七十四條以下見合

第五 旅舎ノ主人旅客ヨリ算計ヲ得ルニ付テハ其旅客ノ旅舎ニ
 搬運シタル荷物ニ付キ債主ノ特權有ス可シ

第六 荷物ノ運送ヲ爲ス者其運送ノ費用及ヒ之ニ附帶シタル費
 用ノ償ヲ得ルニ付テハ其運送シタル荷物ニ付キ債主ノ特權ヲ
 有ス可シ

第七 官吏其職務ヲ行フニ付キ不正ノ所爲アルニ因リ官府又ハ
 士民其官吏ヨリ償ヲ得ルニ付テハ其官吏其職ニ任スルニ付キ

出シタル保證高ノ母銀ト息銀トニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ

○第二款 不動産ニ付テノ特權

第二百百三條 不動産ニ付テノ債主ノ特權ヲ有スル者ハ左ノ如シ

第一 不動産ヲ賣リタル者ハ其價ヲ得ル爲メ其賣リタル不動産ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ

不動産ノ所有者數人ヨリ數箇ノ不動産ヲ買入レタル者其價ノ全部又ハ一部ヲ拂ハサル時ハ最初ノ賣主第二次ノ賣主ヨリ先ニ償ヲ得第二次ノ賣主第三次ノ賣主ヨリ先ニ償ヲ得其他皆之ニ倣フ可シ

第二 不動産ヲ買入ル、爲メノ金高ヲ買主ニ貸與ヘシ者其貸渡ノ證書ニ其金高ハ不動産買入ノ用ニ供スル爲メ貸與ヘシモノタルトテ公正ニ證シ且賣主ノ受取書ニ其買主ノ拂フタル金高

ハ其貸主ノ貸與ヘタル金高ナルトテ公正ニ證シタル時ハ其貸主其不動産ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ

第三 遺物相續人等ハ財産ノ平等ナル分派ヲ得可キ保證ヲ得ル爲メ及ヒ其中ノ一人其得可キ部分ヨリ更ニ除分ヲ得タル時ハ其餘分ヲ還カシムル保證ヲ得ル爲メ遺物ノ不動産ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ

第四 建築者請負人坊丁其他家屋ヲ建造シ溝渠ヲ穿開シ及ヒ此等ノ物ヲ修理シ又ハ其他ノ造築ヲ爲スタメ使用ヲ受ケタル工丁其建造修理等ヲ爲ス地ノ初告裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其地ノ模様ヲ證スル調書ヲ預メ記セシメ且其建造修理等ノ完成シタルヨリ六月内ニ裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ再ヒ其建造修理シタル物ノ調書ヲ記セシムル手續ヲ爲シタル

時ハ其償ヲ得ル爲メ其不動産ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ然
レ其特權ヲ行フ可キ價高ハ再度ノ調書ニ記シタル價高ニ過ク
可カラスシテ通常ハ造築修理等ヲ爲シタルニ因リ其造築物ヲ
其所有者ニ引渡ス時其地價ノ以前ヨリ更ニ増シタル高ノミニ
限ル可シ

第五 又工丁ノ雇賃ヲ拂フ可キ爲メ其金高ヲ貸與ヘタル者モ亦
前項ニ等シキ特權ヲ有ス可シ

但シ其權ヲ得ルニ付テハ其金高ノ貸借ノ證書ニ其金高ハ工丁
ノ雇賃ニ供ス可キヲ公正ニ證シ且工丁ノ受取書ニ其金高ヲ
以テ其雇賃ヲ得タルヲ公正ニ證ス可キヲ此條ノ第二ニ記ス
ル所ニ等シトス

○第三款 不動産ト不動産トニ及ホス可キ債主ノ特權

第二千四百條 不動産ト不動産トニ及ホス可キ債主ノ特權ハ第二千百

一條ニ記シタル所ノモノトス

第二千五百條 前條ニ記シタル特權ヲ有スル者其得可キ動産ナキニ

因リ不動産ノ價高ヲ以テ其償ヲ得ント爲シ不動産ノミニ付キ特權

ヲ有シタル者ト權ト相觸ル、トアル時ハ此等ノ者左ノ順序ヲ以テ

其償ヲ得可シ

第一 第二千一百一條ニ記シタル裁判所ノ費用及ヒ其他ノ諸件ニ

付キ權ヲ有スル者

第二 第二千百三條ニ記シタル諸件ニ付キ特權ヲ有スル者

○第四款 債主ノ特權ヲ保ツ可キ方法

第二千六百條 義務ヲ得可キ者數人ノ間ニ於テハ不動産ニ付テノ債

主ノ特權ヲ書入質管轉者ノ簿冊ニ法則ニ循ヒ記入シ之ヲ公ケニ爲

シタル日ヨリ後ニ非サレハ其効ヲ生スルコトナカル可シ但シ後條ニ記スル所ハ格別ナリトス

第二千百七條 第二千百一條ニ記シタル諸件ニ付テハ前條ニ記シタル簿冊ニ記入スルノ法式ヲ行フニ及ハス

第二千百八條 不動産ノ買主其不動産所有ノ權ヲ得タル證書ヲ書入質管轄者ノ別段ノ簿冊ニ登記セシメ其價高ノ全部又ハ一部ヲ未ク

渡サ、ルノ證アル時ハ其賣主債主ノ特權ヲ保ツ可シ但シ此事ニ付

キ買主其賣買ノ證書ヲ其別段ノ簿冊ニ登記セシメタル時ハ賣主ノ

爲メ及ヒ買主ニ金高ヲ貸與ヘテ賣主ノ權ニ代リシ者ノ爲メ其特權

ヲ通常ノ書入質ノ簿冊ニ記入シタルト同一ノ効アリトス然レ書入

質管轄者ハ不動産賣買ノ契約ニ因リ生シタル債主ノ特權ヲ賣主ノ

爲メ及ヒ買主ニ金高ヲ貸與ヘタル者ノ爲メ自己ノ職務ヲ以テ必ス

其通常ノ書入質ノ簿冊ニ記入ス可ク若シ其管轄者其記入ヲ爲サスシテ他人ノ爲メ損害ヲ生スルコトアル時ハ之ヲ償フ可シ

又賣主及ヒ買主ニ金高ヲ貸與ヘタル者ハ買主其賣買ノ證書ヲ別段

簿冊ニ登記セシメサルニ於テハ其特權ノ記入ヲ得ンカ爲メ自カラ

其賣買ノ證書ヲ別段ノ簿冊ニ登記ス可キコトヲ書入質管轄者ニ求ム

ルコトヲ得可シ

第二千百九條 遺物相續人等ハ遺物財產平等ノ分派ヲ得可キ保證ヲ

得ル爲メ及ヒ其中ノ一人其得可キ部分ヨリ更ニ餘分ヲ得タル時ハ

其餘分ヲ還サシムルノ保證ヲ得ル爲メ又ハ遺物ノ不動産ヲ糶賣ニ

爲シタル其價ヲ得ル爲メ其遺物分派ノ時又ハ糶賣ノ時 遺物相續人

買入シタル場合 ヨリ六十日內ニ其特權ヲ書入質管轄者ノ簿冊ニ

記入セシメタルニ於テハ其分派シタル遺物ノ財產又ハ糶賣ト爲シ

ナル遺物ノ財産ノ價ニ付キ其特權ヲ保ツ可シ但シ其六十日ノ期限
内ニハ其分派シタル財産又ハ糶賣ト爲シタル財産ヲ書入質ト爲シ
テ其特權アル遺物相續人ノ損害ヲ爲ス可カラズ

第二千百十條 建築者請負人坊丁及ヒ其他家屋ヲ建造シ溝渠ヲ穿開
シ及ヒ此等ノ物ノ修理ヲ爲シ又ハ其他ノ造築ヲ爲ス爲メ使用ヲ受
ケタル工丁又ハ此等ノ者ニ雇賃トシテ與フ可キ金高ヲ貸與ヘ其金
高ノ用法ヲ證スルコトヲ得タル者ハ其建造修理ヲ爲ス前ノ其地ノ模
樣ヲ證シタル調書ト其建造修理ヲ完成シタル後其造營物ヲ其所有
者ニ引渡シタル時ノ調書トヲ書入質管轄者ノ簿冊ニ記入セシメタ
ルニ因リ最初ノ調書ヲ記入シタル日ヨリ其特權ヲ得可シ

第二千百十一條 第八百七十八條ニ循ヒ死者ノ財産ヲ其相續人ノ財
産ト分別スルコトヲ求ムル死者ノ債主及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者

ハ其遺物相續ノ始マリニ時ヨリ六月内ニ其死者ノ各不動産ニ付キ
其特權アルコトヲ書入質管轄者ノ簿冊ニ記入セシメタルニ因リ其相
續人ノ債主又ハ死者ノ代權人ノ債主ニ對シ其不動産ニ付テノ特權
ヲ保ツ可シ

其六月ノ期限内ニハ死者ノ遺物相續人又ハ其代權人前項ニ記シタ
ル不動産ヲ書入質ト爲シテ死者ノ債主及ヒ遺囑贈遺ヲ受ク可キ者
ノ損害ヲ爲ス可カラズ

第二千百十二條 前數條ニ記シタル債主ノ特權ヲ讓リ受ケタル者ハ
之ヲ讓リタル者ニ代リテ其者ト同一ノ權ヲ行フ可シ

第二千百十三條 前數條ニ記シタル如ク書入質管轄者ノ簿冊ニ記入
シテ債主ノ特權ヲ保ツ可キ者其法式ニ背キタル時ト雖モ書入質ノ
權ヲ保ツノ差支トナルコトナカル可シ然レ後 第二千百三十四ニ記ス

ル所ノ如ク其書入質ノ權ヲ其管轄者ノ簿冊ニ記入シタル時ヨリ後
ニ非サレハ他人ニ對シテ書入質ノ權ヲ得可カラズ

〇第三章 書入質ノ權

第二千百十四條 書入質ノ權トハ義務ヲ行フ爲メノ保證ト爲シタル
不動産ニ付テノ物權ヲ云フ

其權ハ分ツ可カラサルモノニシテ其各不動産及ヒ不動産ノ各部ニ
付キ之ヲ行フ可シ

其權ハ其不動産如何ナル者ノ所有トナルヲ問ハズ之ヲ行フコト得
可シ

第二千百十五條 書入質ノ權ハ法律ヲ以テ定メタル場合ト法式トニ
非サレハ之ヲ得可カラズ

第二千百十六條 書入質ノ權ハ法律上ニテ得ルモノアリ又ハ裁判所

ノ言渡ニ因リ得ルモノアリ又ハ契約ニ因リ得ルモノアリ

第二千百十七條 法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權トハ法律ニ因リ生
スル所ノ書入質ノ權ヲ云フ

裁判所ノ言渡ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權トハ裁判所ノ言渡又ハ裁
判所ニテ記スル證書ニ因リ生スル所ノ書入質ノ權ヲ云フ

契約ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權トハ契約ヨリ生シ契約書及ヒ證書
ノ法式ニ管スル書入質ノ權ヲ云フ

第二千百十八條

第一 賣買ヲ爲スコトヲ得可キ不動産及ヒ其不動産ニ附帶シテ不
動產ト看做ス可キ物

第二 同上ノ不動産ノ入額ヲ所得ト爲スノ權及ヒ其入額ヲ所得
ト爲スノ權ノ繼續スル時間其不動産ニ附帶シテ不動産ト看做

夫可キ物ノ入額ヲ所得ト爲スノ權

此等ノ物ハ書入質ト爲スヲ得可シ

第二百十九條 動産ハ書入質ト爲ス可カラス

第二百二十條 此法律ヲ以テ船舶ニ付テノ海上貿易ノ規則ヲ改ム

ルヲナシ商法第百九十條以下見合

○第一款 法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權

第二百二十一條 法律上ニテ書入質ノ權ヲ生ス可キ權利ハ左ノ如

第一 婚姻シタル婦其夫ノ財産ニ付テノ權利

第二 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者其後見人ノ財産ニ付テノ權利

利

第三 官府、邑、公舍其租稅官吏及ヒ會計官吏ノ財産ニ付テノ權利

第二百二十二條 法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權ヲ有スル者ハ義務ヲ行フ可キ者ノ現在有スル總テノ不動産及ヒ後日其者ノ得ルコ

アル可キ總テノ不動産ニ付キ其權ヲ行フヲ得可シ但シ後條第二百四十條以下ニ記スル所ハ格別ナリトス

○第二款 裁判所ノ言渡ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權

第二百二十三條 裁判所ノ言渡ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權ハ原告

被告雙方ノ面前ニ於テ裁判ヲ言渡シタルト其一方ノ者ノ抗辯シタル時裁判ヲ言渡シタルト其又其裁判確定ノモノタルト假リノモノタルト其問ハス其裁判言渡ニ因リ之ヲ得可シ○又其權ハ義務ヲ記シタル私ノ證書ノ姓名ノ手署ヲ其義務ヲ行フ可キ者裁判所ニテ自認シタルニ因リ又ハ其姓名ノ手署ヲ驗眞シタルニ因リ之ヲ得可シ

此書入質ノ權ハ義務ヲ行フ可キ者ノ現在所有スル總テノ不動産及
ヒ後日其者ノ得ルコトアル可キ總テノ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得
可シ但シ後ニ記スル所ハ格別ナリトス 第二千二百二十九條 第二千
第二千二百六 第三十四條 第二千四百四十八條
十一條見合
判斷人 訴訟法第千ノ決定アリト雖モ裁判所ヨリ其決定ノ如ク執行
フ可キノ言渡ヲ得クル上ニ非サレハ其決定ニ因リ書入質ノ權ヲ得
可カラズ

又外國ノ裁判所ニテ書入質ノ權ヲ得可キ言渡ヲ爲シタルト雖モ佛
蘭西ノ裁判所ニ於テ其言渡ノ如ク執行フ可キコトヲ言渡シタル上ニ
非サレハ其書入質ノ權ヲ得可カラズ但シ憲法又ハ外國トノ條約書
ニ之ニ反シタル規則アル時ハ格別ナリトス

○第三款 契約ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權

第二千二百二十四條 契約ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權ハ自己ノ隨意ニ

テ其不動産ヲ賣拂フコトヲ得可キ權アル者ニ非サレハ之ヲ其義務ヲ
得可キ者ニ授クルコトヲ承諾ス可カラズ

第二千二百二十五條 不動産確定ノ所有ノ權ナシ唯未必ノ偶生ノ事ニ
管スル所有ノ權又ハ後ニ解除スルコトアル可キ所有ノ權又ハ後ニ廢
棄セラル可キ所有ノ權ヲ有スル者ハ其不動産ヲ書入質ト爲スニ付
キ必ス後ニ其書入質ヲ解除スルヲ得可キ契約又ハ後ニ廢棄スルヲ
得可キ契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第二千二百二十六條 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者又ハ失踪者ノ財産
ヲ假リニ有スル者ハ法律上ニテ定メタル原由ト法式トニ循ヒ又ハ
裁判所ノ言渡ヲ得タル上ニ非サレハ其不動産ヲ書入質ト爲ス可カ
ラズ

六一九 第二百二十七條 契約上ノ書入質ノ權ハ證書人二員ノ面前又ハ證書人一員ト證人二員トノ面前ニ於テ記シタル公正ノ證書ニ因テ之ヲ得可シ

第二百二十八條 外國ニ於テ爲シタル契約ニ因リ佛蘭西ニ在ル不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ得可カラズ但シ憲法又ハ外國トノ條約書ニ之ニ反シタル規則アル時ハ格別ナリトス

第二百二十九條 義務ヲ約シタル公正ノ證書又ハ其後ニ記シタル公正ノ證書ニ義務ヲ行フ可キ者ノ書入質ト爲スヲ承諾シタル其現在所有ノ各不動産ノ種類ト其所在ノ地トヲ別段記シタルニ非ハレハ契約上ノ書入質ノ効ナシトス○義務ヲ行フ可キ者ハ其現在所有スル各不動産ヲ其契約書ニ記列シテ書入質ト爲スヲ得可シ後日所有トナスコアル可キ不動産ハ書入質ト爲スヲ得ス

第二百三十條 然レ義務ヲ行フ可キ者ノ自由ニ爲スヲ得可キ現在所有ノ不動産ヲ以テ其義務ノ執行保證ナスルニ足ラサル時ハ其不足ナル旨ヲ證書ニ記シ後日不動産ヲ得ル毎ニ之ヲ書入質ト爲ス可キノ契約ヲ爲スヲ得可シ

第二百三十一條 又義務ヲ行フ可キ者ノ書入質ト爲シタル現在所有ノ不動産ノ滅盡破壊シタルニ因リ其義務ノ執行ヲ保證スルニ足ラサルニ至リシ時ハ其義務ヲ得可キ者ヨリ即時ニ其義務ヲ得ント訴ヘ又ハ書入質ノ不動産ノ増加ヲ得ント求ムルコ自由ナリトス

七一九 第二百三十二條 契約上ノ書入質ノ權ハ之ヲ生セシメシ原由タル義務ノ高キ其證書ニ因リ分明ニ知り得可キ時ニ非サレハ其効ナカル可シ若シ其義務未必ノ條件ニ管シタル時又ハ其義務ノ高ノ分明ニ定マラサル時ハ義務ヲ得可キ者特ニ其義務ノ高ハ幾許ナル可キ

ヤチ見積リ其高ニ至ル迄ノ外後條以下ヲ云フニ記シタル書入質ノ記入ヲ求ム可カラス但シ義務ヲ行フ可キ者ハ其義務ヲ得可キ者ノ見積リタル高ヲ減セシム可キ道理アル時之ヲ減セシムルノ權アリ

第二千百三十三條 書入質ノ權ハ其質ト爲シタル不動産ヲ良好ニ爲シタル諸件ニモ及ホス可シ

○第四款 書入質ノ權ノ順序

第二千百三十四條 義務ヲ得可キ數人ノ間ニ於テハ書入質ノ權ヲ法律上ニテ得タルト裁判所ノ言渡ニ因リ得タルト契約ニ因リ得タルト之間ハ其義務ヲ得可キ者法式ニ循ヒ書入質管轄者ノ簿冊ニ其權ノ記入ヲ得タル日ヨリ其順序ヲ立ツ可シ但シ後條ニ記スル所ハ格別ナリトス

第二千百三十五條 左ノ諸件ニ付テハ書入質ノ權ヲ其管轄者ノ簿冊

ニ記入スルニ及ハスシテ之ヲ得可シ

第一 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ其後見人ノ支配ノ事ニ付キ其後見ノ職ヲ承諾シタル日ヨリ其後見人ノ不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ得可シ

第二 婚姻シタル婦ハ其嫁資ノ財産及ヒ婚姻契約ノ簡條ニ付キ婚姻ヲ行フタル日ヨリ其夫ノ不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ得可シ

夫婦結縁ノ時間婦ノ人ヨリ遺物トシテ得タル嫁資ノ金高又ハ贈遺トシテ得タル嫁資ノ金高ニ付テハ其遺物相續ヲ始メタル日又ハ贈遺ヲ承諾シタル日ヨリ其夫ノ不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ得可シ又婦其夫ト共ニ負フタル義務ノ償ヲ得ル爲メ又ハ夫其婦ノ財産ヲ

賣拂フタル時婦其夫ヲシテ其代金ヲ自己ノ資益トナル可キ方法ニ
用ヒシムル爲メニハ婦其夫ト共ニ義務ヲ負フタル日又ハ夫其婦ノ
財産ヲ賣拂フタル日ヨリ其夫ノ不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ得可シ
何レノ場合ニ於テモ此條ノ規則ヲ以テ此卷ヲ布告セシ前ニ書入質
ノ權ヲ得タル者ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ

第二千百三十六條 夫又ハ後見人ハ己レノ不動産ヲ其婦又ハ幼者ノ
爲メ書入質ト爲シタルコトヲ公ケニ爲ヌタメ現在所有ノ不動産ト後
日得ルコトアル可キ不動産トニ付キ書入質ノ權ヲ書入質管轄者ノ簿
冊ニ記入スルヲ遲延ナク求ムルコトヲ必要トス

若シ夫又ハ後見人前項ニ記セシ記入ヲ求ムルコトヲ怠リ己レノ不動
産ハ婦又ハ幼者ノ爲メ書入質ト爲セシモノタル旨ヲ述フルコトナク
他人ニ其不動産ニ付テノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ與フルコトヲ

承諾シ又ハ他人ノ此等ノ權ヲ得ルニ付キ故障ヲ述ヘサル時ハステ

リナナリ第二千五十九條ニ詳カナリノ咎アリト看做シテ禁錮セラル可シ

第二千百三十七條 後見人ノ監察者ハ後見人ノ支配ノ事ニ付キ其後
見人ノ不動産ヲ幼者ノ爲メ書入質ト爲シタル旨ノ記入ヲ其後見人
ヨリ遲延ナク求メ出ツ可キコトニ注意シ若シ後見人其求メヲ爲サ、
ルニ於テハ其監察者自カラ其記入ヲ求ム可シ但シ此等ノ事ハ後見
人ノ監察者ノ必ス自カラ任ヌ可キ所ニシテ若シ之ヲ怠リシ時ハ幼
者ニ對シ其損失ヲ償フ可シ

第二千百三十八條 夫後見人後見人ノ監察者前數條ニ記シタル如ク
書入質ノ記入ヲ求ムルコトヲ怠リシ時ハ夫及ヒ後見人ノ住所ノ初告
裁判所ノ檢事又ハ不動産所在ノ地ノ初告裁判所ノ檢事ヨリ其記入
ヲ求ム可シ

第一千三百三十九條 又夫或ハ婦ノ親族及ヒ幼者ノ親族又ハ親族ノア
ラサル時ハ其朋友ヨリ其記入ヲ求ムルヲ得可シ又婦或ハ幼者自
カラ之ヲ求ムルヲ得可シ

第一千四百十條 丁年ノ夫婦其婚姻ノ契約書ニ別段定メタル夫ノ不
動産ノミニ付キ書入質ノ記入ヲ求ム可キヲ約定シタル時ハ其他
ノ夫ノ不動産ハ婦ノ嫁資ヲ還スニ付キ又ハ婦ノ財産取戻ニ付キ又
ハ婚姻ノ契約ノ如ク執行フニ付キ書入質ト爲シタルモノト爲ス可
カラ然ル夫ノ財産ノ全部ヲ書入質ト爲サ、ルヲハ之ヲ契約ス可
カラス

第一千四百十一條 又幼者ノ親族會議ニテ別段定メタル後見人ノ不
動産ノミニ付キ書入質ノ記入ヲ求ム可キヲ決議シタル時ハ其他
ノ不動産前條ニ記スル所ニ等シトス

第一千四百十二條 前二條ノ場合ニ於テハ夫、後見人、後見人ノ監察者
其別段定メタル不動産ノミニ付キ書入質ノ記入ヲ求ム可シ

第一千四百十三條 後見人ヲ任スル證書ニ後見人ノ不動産ノ一部ノ
ミヲ書入質ト爲ス可キヲ別段記シタルヲナキ時其不動産ノ全部
ニ付テノ書入質ニテハ後見人ノ支配ノ事ヲ保證スルニ過分ナルヲ
分明ナルニ於テハ其後見人幼者ノ爲メ保證ヲ爲スニ十分ナル不動
産ノ一部ノミニ其書入質ヲ減ス可キノ訴ヲ爲スヲ得可シ但シ後
見人此訴ヲ爲スニハ預シメ親族會議ノ承諾ヲ得タル上ニテ後見人
ノ監察者ヲ裁判所ニ呼出ス可シ

第一千四百十四條 又夫ハ婦ノ承諾ヲ得且婦ノ最近ノ親族四人ノ會
議ノ承諾ヲ得タル上ニテ其婦ノ嫁資ヲ還スニ付キ又ハ婦ノ財産取
戻ニ付キ又ハ婚姻ノ契約ノ如ク執行フニ付キ書入質ト爲シタル其

不動産ノ全部ヲ婦ノ權ヲ保全スルニ足ル可キ一部ニ減ス可キノ訴
ヲ爲スヲ得可シ

第二千四百四十五條 前二條ニ循ヒ夫及ヒ後見人ノ爲シタル訴ノ裁判
言渡ハ檢事ノ申立ヲ聽キタル上其立會ニテ之ヲ爲ス可シ
裁判所ニ於テ書入質ヲ不動産ノ一部ノニニ減ス可キノ言渡ヲ爲シ
タル時ハ其他ノ部分ニ付テノ記入ヲ塗抹ス可シ

○第四章 債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ記入スル方法

第二千四百四十六條 債主ノ特權又ハ書入質ノ權ハ此等ノ權ニ罹リタ
ル不動産所在ノ地ノ書入質管轄役所ノ簿冊ニ記入ス可シ○商人家
資分散ヲ爲ス前ニ記シタル證書ノ効ナカル可キ期限内商法第四百
下見ニ其記入ヲ爲シタル時ハ其記入ノ効ナカル可シ
又死者ヨリ義務ヲ得可キ者ノ中一人其遺物相續ヲ爲シ始メタル後

ニ全上ノ權ノ記入ヲ求メ且其遺物相續人其相續シタル財産ノ價額
ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ以テ其遺物相續ヲ爲シタル
時ハ亦前項ニ等シク記入ノ効ナシトス

第二千四百四十七條 同日ニ書入質ノ權ノ記入ヲ得タル數人ハ書入質
ノ管轄者其日ノ朝ニ記入シタルト夕ニ記入シタルトノ差別ヲ爲シ
タルニ管セス其書入質ノ權ヲ同一ノ順序ヲ以テ平等ニ行フ可シ

第二千四百四十八條 義務ヲ得可キ者債主ノ特權又ハ書入質ノ權ノ記
入ヲ得ントスルニハ此等ノ權ヲ生セシメタル裁判言渡書又ハ證書
類ノ正本又ハ公正ノ副本ヲ自身又ハ名代人ヲ以テ書入質ノ管轄者
ニ出ス可シ

又記入ヲ得ントスル者ハ同上ノ書類ニ添テ印紙ニ記シタル箇條書
二通ヲ出シ又ハ其箇條書一通ノニ出シ其一ヲ裁判言渡書又ハ證書

類ノ副本ニ附記スルヲ得可シ但シ其箇條書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 義務ヲ得可キ者ノ姓名住所職業及ヒ書入質役所ノ管轄内ノ地ニ別段住所ヲ擇ミタル事

第二 義務ヲ行フ可キ者ノ姓名住所職業又ハ書入質ノ管轄者ヲシテ義務ヲ行フ可キ者ヲ明カニ知ラシムルニ足ル可キ詳細ノ記載

第三 裁判裁言渡書又ハ義務ノ證書ノ日附及ヒ本義

第四 其書類中ニ記シタル義務ノ母銀ノ高又年金及ヒ未必ノ條件ニ管シタル未定ノ義務ヲ評價ス可キノ言渡アリテ其義務ヲ得可キ者之ヲ評價シタル時ハ其評價シタル義務ノ母銀ノ高並ニ此等ノ義務ノ母銀ニ附帶シタル高及ヒ義務ヲ得可キ期日

第五 義務ヲ得可キ者債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ得ントスル

不動産ノ種類及ヒ其所在ノ地

但シ最終一項ノ記載ハ法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權又ハ裁判言渡ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權ニ付テハ必要ナリトセス但シ別段ノ契約アラサル時ハ此等ノ書入質ノ權ニ付キ一箇ノ記入ヲ爲シタルノミニテ其書入質役所ノ管轄内ニ在ル總テノ不動産ニ其權ヲ及ホス可シ

第二千四百九條 死者ノ不動産ニ付キ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ノ記入ヲ得ントスルニハ前條ノ第二ニ記シタル如ク死者ヲ明カニ知リ得可キ詳細ノ記載ヲ爲スヲ必要トス

第二千五百十條 書入質ノ管轄者ハ箇條書ニ記シタル諸件ヲ其簿冊ニ記入シ義務ノ證書ノ正本又ハ其副本ト箇條書一通トヲ其記入ヲ求メタル者ニ還ス可シ但シ其管轄者ハ其還與スル箇條書ノ末ニ記

入ヲ爲シタルノ證ヲ附記ス可シ

第二千五百一十一條 息銀ヲ生スル母銀ニ付キ書入質ノ權ノ記入ヲ得タル義務ヲ得可キ者ハ本年ト其後二年トノ時間共息銀ニ付キ母銀ト同一ノ順序ノ書入質ノ權ヲ得可シ但シ最初ノ記入ニ因リ書入質ノ權ヲ得タル息銀ヨリ後ノ息銀ニ付キ別段其記入ヲ求ムル時ハ其記入ノ日ヨリ其息銀ニ付キ書入質ノ權ヲ得可シ

第二千五百五十二條 記入ヲ求メタル者及ヒ其代權人又ハ公正ノ證書ニ因リ其權ヲ讓リ受ケタル者ハ書入質役所ノ簿冊ニ記シタル是迄ノ住所ヲ易ユルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其役所ノ管轄内ニテ更ニ他ノ住所ヲ擇ミ之ヲ届出ツ可シ

第二千五百五十三條 官府邑公舍其會計官吏ノ不動産ニ付キ法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權又ハ幼者或ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者或ハ婚姻

シタル婦其後見人又ハ其夫ノ不動産ニ付キ法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權ハ左ノ諸件ノミヲ記シタル簡條書ニ通テ出シテ書入質役所ノ簿冊ニ記入スルヲ求ムルヲ得可シ

第一 義務ヲ得可キ者ノ姓名職業現在ノ住所及ヒ其者書入質役所ノ管轄内ニテ別段自カラ擇ミタル住所又ハ他人ヨリ其者ノ爲メ擇ミタル住所

第二 義務ヲ行フ可キ者ノ姓名職業住所又ハ其者ヲ明カニ知り得可キ詳細ノ記載

第三 義務ヲ得可キ者ノ保有セントスル權利ノ種類及ヒ義務ノ高ノ定マリタル時ハ其高

但シ未必ノ偶生ノ條件ニ管シタル義務又ハ高ノ定マラサル義務ニ付テハ別段其高ヲ評價シテ定ムルニ及ハス

○三九

第二百五十四條 書入質ノ權又ハ債主ノ特權ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル時ハ其日ヨリ十年ノ時間此等ノ權ヲ保有スルヲ得可シ若シ十年内ニ再ヒ其記入ヲ得サル時ハ其効終ル可シ

第二百五十五條 書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ記入ノ費用ハ別段ノ契約アルニ非サレハ義務ヲ行フ可キ者之ヲ擔當シ其義務ヲ得可キ者假リコ之ヲ前拂ニ爲シ置ル可シ但シ法律上ニテ得ル所ノ書入質ノ權ヲ記入スルニ付テハ其管轄者義務ヲ行フ可キ者ヲシテ其記入ノ費用ヲ出サシムルヲ求ムルヲ得可シ○又不動産ノ賣主其賣買ノ證書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記スルヲ求メタル時ハ買主其登記ノ費用ヲ擔當ス可シ

第二百五十六條 書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ記入ノ事ニ付キ義務ヲ得可キ者ニ對シ爲ス可キ訴訟ハ其者ニ呼出狀ヲ送達シ又ハ簿

冊ニ記シタル其最終ノ住所別段擇ミタルニ之ヲ送達シタル上管轄ノ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ但シ其義務ヲ得可キ者又ハ其者ノ別段擇ミタル住所ノ家主死去シタル時ト雖モ亦同一ナリトス

○第五章 書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ記入ヲ塗抹スル事及ヒ滅殺スル事

第二百五十七條 書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ記入ヲ塗抹スル事ハ之ニ管係アリテ且其塗抹ヲ爲スヲ承諾シ得可キノ權アル者ノ承諾ヲ以テ之ヲ塗抹シ又ハ終審ノ裁判言渡ニ因リ或ハ控訴ス可カラサル裁判言渡ニ因リ之ヲ塗抹ス可シ

第二百五十八條 何ノ場合ニ於テモ書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ記入ノ塗抹ヲ願出ル者ハ一方ノ者之ヲ承諾シタル旨ヲ記シタル公正ノ證書ノ副本又ハ裁判言渡書ノ副本ヲ書入質管轄ノ官署ニ出

一三九

ス可シ

二九九

第二百五十九條 雙方ノ者ノ中一方ノ承諾ナクシテ書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ塗抹ヲ得ント爲スニハ其記入ヲ爲シタル地ヲ管轄スル裁判所ニ願出ス可シ然レ記入ノ地ヲ管轄セサル裁判所ニテ未必ノ條件ニ管スル裁判言渡ヲ受ケ又ハ金高ノ未定ナル裁判言渡ヲ受ケ其言渡ノ保證トシテ記入ヲ爲シ置キ後ニ其裁判所ニテ其言渡ノ如ク執行フコト又ハ金高ヲ定ムルコトニ付キ債主ト負債者ト訴訟ヲ爲シタル時ハ其記入ノ塗抹ヲモ亦其裁判所ニ訴出ス可ク若シ其記入ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ其塗抹ヲ訴出スト雖モ其裁判所ヨリ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ其塗抹ヲ願出ス可キ旨ヲ言渡ス可シ然レ義務ヲ得可キ者ト之ヲ行フ可キ者ト若シ塗抹ノ事ニ付キ争ノ生スルコトアラハ別段定メタル裁判所ニ訴出ス可キコトヲ契約シタル時ハ其

契約ノ如ク執行フコトヲ得可シ

第二百六十條

法律ニ循ハス又ハ證書ニ據ラスシテ書入質ノ權又

ハ債主ノ特權ノ記入ヲ爲シタル時又ハ證書アリト雖モ法ニ適セサル證書又ハ既ニ効ヲ失ヒシ證書又ハ既ニ算計ヲ爲シタル證書ニ據テ其記入ヲ爲シタル時又ハ法律ニ適シタル方法ヲ以テ書入質ノ權又ハ債主ノ特權ヲ既ニ滌除シタル時ハ裁判所ヨリ其記入ノ塗抹ヲ言渡ス可シ

第二百六十一條

義務ヲ行フ可キ者ノ現在所有スル不動産ト後日

所有ト爲スコトアル可キ不動産トニ付キ法律上又ハ裁判言渡ニ因リ書入質ノ記入ヲ得タル時其不動産ノ全部ニテハ義務ノ保證ヲ爲スニ必要ト爲スヨリ更ニ過分ナルニ於テハ其義務ヲ行フ可キ者其書入質ノ記入ヲ減殺シ又ハ至當ノ部分ニ過マタル一部ノ記入ヲ塗抹

三三九

セント訴フルヲ得可シ但シ此事ニ付テハ第二千五百五十九條ニ記シタル裁判所管轄ノ規則ニ循フ可シ

此條ノ規則ハ契約ニ因リ得ル所ノ書入質ノ權ニ通シ用フ可カラズ
第二千六百十二條 前條ニ記シタル義務ヲ行フ可キ者ノ不動産全部ノ中ノ一箇又ハ數箇ノミソ價高ニテ義務ノ母銀ト之ニ附帶シタルトノ總高ニ過ルヲ三分一以上ナル時ハ其不動産全部ニ付テノ記入ヲ過分ナリトス

第二千六百十三條 又未必ノ事ニ管シタル義務又ハ高ノ未定ナル義務アリテ其義務ノ保證トシテ不動産ヲ書入質ト爲スニ付キ別段ノ契約ナキ時義務ヲ得可キ者其義務ノ高ヲ評價シ其高ニ從テ書入質ノ記入ヲ爲シタルニ於テハ其記入ヲ過分ナリトシテ減スルヲ得可シ

第二千六百十四條 前條ノ場合ニ於テハ裁判役其時ノ模様ト事實ノ思料トニ從ヒ義務ヲ得可キ者ノ權ト義務ヲ行フ可キ者ノ權トヲ斟酌シテ其書入質ノ記入ノ過分ナルヲ裁判ス可シ但シ當テ未必ナリシ事ノ現ニ生シタルニ因リ義務ノ高ノ増シタル時ハ更ニ其增高ニ付テノ書入質ノ記入ヲ爲スヲ得可シ

第二千六百十五條 不動産ノ價ヲ義務ノ高並ニ之ニ三分ノ一ヲ加ヘタル高ト比較セントスルニハ左ノ方法ヲ用フ可シ○損耗ス可カテサル不動産ニ付テハ其不動産所在ノ地ニ於テ地稅目錄ニ記スル其稅銀ノ高ト不動産歳入ノ高トノ鈞合ニ從ヒ其價ヲ地稅目錄ニ因リ詳知シ得可キ其歳入高ノ十五倍ト定メ又損耗ス可キ不動産ニ付テハ其價ヲ歳入ノ高ノ十倍ト定ム可シ○然レ裁判役ハ其不動産ノ真正ナル貸借ノ證書又ハ近年記シタル評價ノ調書又ハ其他此類ノ證

書ニ記スル所ヲ以テ其不動産ノ價ヲ定ムル見合ト爲シ其見合ト爲シタル所ヨリ得タル價高ノ中數ヲ取り其不動産ノ歳入ヲ秤ルコトヲ得可シ

○第六章 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者ニ付キ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ノ効

第二千百六十六條 義務ヲ得可キ者不動産ニ付テノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル時ハ其不動産何レノ人ノ所有トナルヲ問ハス其得可キ義務ノ順序又ハ書入質ノ權ヲ記入シタル順序ニ從テ義務ノ償ヲ得可シ

第二千百六十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者其不動産ニ付テノ義務ヲ滌除スル爲メ後條以下ヲ云フ 第二千百八十一條ニ記スル所ノ法式ヲ行ハサル時ハ其義務ヲ得可キ者ノ書入質役所ノ簿冊ニ

記入シタル書入質ノ權又ハ債主ノ特權ニ因リ其新ナル所有者其不動産ニ付テノ義務ヲ盡シ己レニ擔當ス可シ但シ其新ナル所有者ハ元來義務ヲ行フ可キ者ノ得可キ猶豫ノ期限ヲ受クルコトヲ得可シ

第二千百六十八條 前條ノ場合ニ於テ義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者ハ其義務ノ高ノ幾許ナルヲ問ハス既ニ拂ヒ期限ニ至リシ其母銀ト息銀トヲ償フ可シ若シ然ラザレハ其不動産ヲ全ク拋棄ス可シ

第二千百六十九條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者前條ニ記シタル二箇ノ處置中ノ一箇ヲ爲サ、ル時ハ書入質ノ權アル義務ヲ得可キ者元來義務ヲ行フ可キ者ニ要決ノ書ヲ送りタルヨリ三十日ノ後ニ至リ且其不動産ヲ所有ト爲シタル者ニ其不動産ニ付テノ義務ヲ行ハサレハ其不動産ヲ拋棄ス可キコトヲ要メタル上ニ

ヲ其義務ヲ得可キ者其不動産ヲ差押へ賣拂フ可キノ權アリ

第二千七百十條 然レ義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者其義務ヲ別段一身ニ擔當スルコトナキ時元來義務ヲ行フ可キ者其義務ニ付キ書入質ト爲シタル他ノ不動産ヲ更ニ所有スルニ於テハ新ニ不動産ヲ所有ト爲シタル者己レノ得タル不動産ノ賣拂ヲ拒ミ此篇第十四卷保證ニ記スル法式ニ循ヒ更ニ他ノ不動産ヲ以テ先ツ其義務ノ償ニ充テシム可キノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ但シ其訴ヲ爲ス時間ハ其所有ト爲シタル不動産ノ賣拂ヲ延大可シ

第二千七百十一條 然レ義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ニ付キ債主ノ特權ヲ有シタル時又ハ別段契約ヲ爲シテ書入質ノ權ヲ有シタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ得タル者前條ニ記スル如ク其義務ヲ得可キ者ニ對シテ其賣拂ヲ拒ム可カラズ

第二千七百七十二條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者其義務ヲ行フコトナキ時其者自己ノ財産ヲ隨意ニ爲スコトヲ得可キ權アルニ於テハ其不動産ヲ拋棄シテ其義務ヲ免ル、コトヲ得可シ

第二千七百七十三條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者ハ自カラ其義務アリト認メ又ハ裁判所ヨリ其義務ヲ行フ可キノ言渡ヲ受ケシ後ト雖モ其不動産ヲ拋棄シテ其義務ヲ免ル、コトヲ得可シ但シ其者其不動産ヲ拋棄スト雖モ之ヲ糶賣ヲ爲スニ至ル迄ハ其義務ノ高ト其義務ニ付テノ費用ノ高トヲ拂ヒ其不動産ヲ取戻スノ妨トナルコトナカル可シ

九三九 第二千七百七十四條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者之ヲ拋棄スルコトハ其不動産所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ書記局ニ

届ケ其裁判所ヨリ其抛棄ヲ爲シタル證書ヲ與フ可シ
其不動産ニ管係アル者ノ中最初ニ手續ヲ爲ス者ノ求メニ從ヒ其抛
棄シタル不動産ノ管財人ヲ任ス可シ但シ其不動産ニ管係アル者ハ
此篇第十九卷 義務ヲ得ル順序ノ規則ニ從ヒ其管財人ニ對シテ其不
動産ノ賣拂ヲ求ム可シ

第二千七百七十五條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者
自己ノ過失又ハ所爲ニ因リ其不動産ヲ卑惡ニ至ラシメ書入質ノ權
又ハ債主ノ特權アル義務ヲ得可キ者ノ損害ヲ生シタル時ハ其義務
ヲ得可キ者ヨリ其不動産ヲ所有ト爲シタル者ニ對シ其損害ノ償ヲ
得ント訴フルヲ得可シ又其不動産ヲ所有ト爲シタル者其不動産
ヲ良好ニ爲シタル時ハ之レニ因リ其不動産ノ價ノ増加シタル高ニ
至ル迄其良好ニ爲シタル費用ノ高ヲ取戻スヲ得可シ

第二千七百七十六條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者

ハ其不動産ニ付キ書入質ノ權アル者ヨリ其義務ノ償又ハ其不動産
ノ抛棄ヲ要ムルノ書ヲ受取リタル後ニ非サレハ其不動産ヨリ得ル
所ノ入額ヲ其權アル者ニ渡スニ及ハス若シ又其書入質ノ權アル者
其不動産ヲ所有ト爲シタル者ニ對シ一度訴訟ヲ爲シタルヨリ三年
ノ時間其訴訟ヲ止メ爲サル時ハ其不動産ヲ所有ト爲シタル者更
ニ其要メノ書ヲ受取リタル日ヨリ後ニ非サレハ其入額ヲ渡スニ及
ハス

第二千七百七十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者

之ヲ所有ト爲ス前ニ其不動産ニ付キ土地ノ義務ヲ得可キノ權ヲ有
シ又ハ其他ノ權ヲ有セシ時ハ後ニ其不動産ヲ抛棄シ又ハ糶賣ト爲
シタル上ニテ是等ノ權ヲ復ス可シ

其不動産ヲ所有ト爲シタル者ノ一身ヨリ義務ヲ得可キ者ハ元來義務ヲ行フ可キ者ヨリ其義務ヲ得可キ者ニ次キ其拋棄シ又ハ變賣ト爲シタル不動産ニ付キ各其順序ニ從テ書入質ノ權ヲ行フ可シ
第二千七百七十八條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者書入質ノ義務ヲ行ヒ又ハ其不動産ヲ拋棄シ又ハ其不動産所有ノ權ヲ奪ハレタル時ハ元來義務ヲ行フ可キ者ニ對シ其償ヲ得ルノ訴ヲ爲スノ權アリ

第二千七百七十九條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者其價高ヲ拂ヒ其不動産ニ付テノ義務ヲ滌除セント欲フル時ハ此卷ノ第八章ニ記シタル法式ニ循フ可シ

○第七章 債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ノ消散スル事

第二千八百十條 債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ハ左ノ諸件ニ因リ消散

ス可シ

第一 主タル義務ノ消散スル事

第二 義務ヲ得可キ者書入質ノ權ヲ拋棄スル事

第三 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産所有ノ權ヲ得タル者其不動産

ニ付テノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ滌除スル爲メ定メタル

法式ヲ行フタル事

第四 期滿得免

義務ヲ行フ可キ者己レノ所有スル不動産ニ付キ書入質ノ權又

ハ債主ノ特權ノ期滿得免ヲ得可キ期限ハ此等ノ權ヲ生セシメ

タル主タル權利ニ付テノ期滿得免ノ期限ト同一ナリトス 第二

百六十二條見合

義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト爲シタル者其不動産ニ付

テノ書入質ノ權又ハ債主ノ特權ノ期滿得免ヲ得可キ期限ハ總
テ不動産ノ占有者其不動産ニ付キ所有ノ權ヲ得可キ期滿得免
ノ期限ト同一ナリトス又期滿得免ノ權ヲ得ルニ付キ證書アル
場合ニ於テハ其證書ヲ書入質管轄者ノ簿冊ニ登記シタル日ヨ
リ以來其期滿得免ノ權ヲ得ルコト付テノ期日ヲ算フ可シ 第二千
十五條
見合

義務ヲ得可キ者其書入質ノ權又ハ債主ノ特權ヲ書入質役所ノ
簿冊ニ記入シタルト雖モ義務ヲ行フ可キ者又ハ其者ヨリ不動
産所有ノ權ヲ得タル者ノ爲メ法律上ニテ定メタル期滿得免ニ
付キ既ニ經過シタル時間除棄可カラス

○第八章 債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ滌除スル方法

第二千八百一十一條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産所有ノ權ヲ得タル者

其不動産ニ付テノ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ヲ滌除セント欲スル
時ハ先ツ不動産所有ノ權ヲ移ス契約書ノ全文ヲ其不動産所在ノ地
ノ書入質管轄者ノ簿冊ニ登記セシムル手續ヲ爲ス可シ

其登記ハ特ニ設テタル簿冊ニ之ヲ爲シ且其管轄者ヨリ其登記ヲ求
メタル者ニ其登記ヲ爲シタル證書ヲ渡ス可シ

第二千八百一十二條 不動産所有ノ權ヲ移ス契約書ヲ書入質管轄者ノ
簿冊ニ登記シタルノミニテハ其不動産ニ付テノ債主ノ特權及ヒ書
入質ノ權ヲ滌除スルコトヲ得ス

賣主ハ買主ニ其不動産所有ノ權及ヒ其不動産ニ管シタル其他ノ權
ヲ移シタルノミニテ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ハ滌除スルコトナシ
其儘之ヲ移シタルモノトス

第二千八百一十三條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産所有ノ權ヲ得タル者

此卷ノ第六章ニ記シタル訴訟ノ効チ免レシト欲スル時ハ其訴訟ヲ受クル前又ハ最初其要メチ受ケシ時第二千百六十九條見合ヨリ三十日内ニ書入質役所ノ簿冊ノ記入ニ付キ義務ヲ得可キ者ノ別段擇ミタル住所ニ左ノ書類ヲ送達ス可シ

- 第一 不動産所有ノ權ヲ移ス證書ノ日附及ヒ其模様賣主又ハ贈遺者ノ姓名及ヒ其人ヲ知り得可キ詳明ナル記載買受ケ又ハ贈遺トシテ得タル不動産ノ種類及ヒ所在ノ地又一團ヲ爲シタル不動産ニ付テハ其不動産ノ名目及ヒ其所在ノ郡名不動産ノ價高及ヒ其賣買ニ付テノ費用高又不動産ヲ贈遺ト爲シタル時ハ其評價ノ高第二千百九十二條見合ヲ記シタル其賣買又ハ贈遺ノ證書ノ摘報書
- 第二 不動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シ

タル其登記ノ摘報書

第三 三列ニ區分シタル表但シ其第一列ニハ書入質ト爲シタル日附及ヒ之ヲ其役所ノ簿冊ニ記入シタル日附第二列ニハ義務ヲ得可キ者ノ姓名第三列ニハ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル義務ノ高ヲ記ス可シ

第二千百八十四條 不動産ノ買主又ハ其贈遺ヲ受クル者ハ既ニ拂ヒ期限ニ至リシト否トヲ問ハス其不動産ノ價高ニ至ル迄ハ總テ書入質ノ負債及ヒ費用ヲ直サニ拂ハント爲スヲ記シタル書面ヲ前條ニ記シタル書類ニ添ヘテ送ル可シ

第二千百八十五條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ得タル者定期ノ時問ニ前條ニ記シタル書類ヲ義務ヲ得可キ者ニ送達シタル時ハ其義務ヲ得可キ者ノ中ニテ書入質役所ノ簿冊ニ書入質ノ權又ハ債主ノ

特權ノ記入ヲ得タル者其不動産ヲ糶賣ニ爲スノ要メヲ爲スヲ得可シ但シ其要メヲ爲スニハ左ノ諸件ヲ必要トス

第一 其要メヲ爲ス書面ハ不動産ヲ得タル者ヨリ第二千百八十
三條ニ記セシ書類ノ送達ヲ得タル時ヨリ四十日内ニ之ヲ其者
ニ送ル可シ但シ其要メヲ爲ス者ノ別段擇ミタル住所ト現在ノ
住所トノ間五ミリアメートルノ距離毎ニ其四十日ノ期限ニ二
日ヲ増ス可シ

第二 其要メヲ爲ス書面ニハ不動産賣買ノ契約書ニ記シタル價
又ハ不動産ヲ得タル者ノ述フル所ノ價ヨリ更ニ十分一ヲ増ス
可キヲ保證スル旨ヲ記ス可シ

第三 第一項ニ記スル期限内ニ其不動産ノ以前ノ所有者元來義
務ヲ行
フ可キ者ニモ亦同一ノ書面ヲ送ル可シ

第四 其要メヲ爲ス書面ノ正本及ヒ副本ニハ其要メヲ爲ス者又
ハ證書ヲ以テ任シタル其名代人己ノ姓名ヲ手署ス可シ但シ
名代人ヲ任シタル時ハ其名代人其任ヲ受ケタル證書ノ副本ヲ
出ス可シ

第五 其要メヲ爲ス者ハ價高ト費用トノ總高ニ充ル迄ノ保證ヲ
立ント述フ可シ

此等ノ諸件ヲ爲サ、ル時ハ其要メノ効ナカル可シ

第二千百八十六條 義務ヲ得可キ者前條ニ記シタル定期内ニ法式ニ
從ヒ糶賣ヲ爲スヲ要メサル時ハ不動産ノ價ヲ其賣買ノ契約書ニ
記シタル價又ハ之ヲ得タル者ノ述ヘタル價ニ定ム可シ但シ其不動
産ヲ得タル者ハ義務ヲ得可キ數人中ニテ其價高ヲ受取ルヲ得可
キ順序アル者ニ其價高ヲ拂ヒ又ハ之ヲ官署ニ附託スルニ因リ書入

○五九

質ノ權又ハ債主ノ特權ノ濫用ヲ得可シ

第二千八百八十七條 其不動産ヲ糶賣ニ爲サントスル時ハ義務ヲ得可キ數人中ニテ其糶賣ノ要メヲ爲シタル者又ハ其不動産所有ノ權ヲ得タル者ノ求メニ從ヒ義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フニ付テノ法式 訴訟法第八百三十六條以下見合チ以テ之ヲ糶賣ニ爲ス可シ

其手續ヲ爲ス者ハ賣買ノ契約書ニ記シタル價又ハ其不動産ヲ得タル者ノ述ヘタル價ト其十分一ヲ増シタル價トヲ貼附書ニ記ス可シ
第二千八百八十八條 糶賣ニテ不動産ヲ買入ル、者ハ其買入ノ價高ノ外其賣買ノ契約ノ費用高書入質管轄者ノ簿冊ニ登記ヲ得タル費用高 第二千八百八十一條見合 糶賣ヲ爲スニ付テノ費用高ヲ以前其不動産ヲ買入レタル者又ハ贈遺トシテ之ヲ得タル者

ニ價ヲ可シ

第二千八百八十九條 以前不動産ヲ買入レタル者又ハ贈遺トシテ之ヲ得タル者糶賣ノ時自カラ再ヒ之ヲ買入レタル時ハ其買入レテ許ルル言渡書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記セシムルニ及ハス

第二千八百九十條 義務ヲ得可キ者ノ中糶賣ヲ爲スニテ要メタル者後ニ其糶賣ヲ爲スニテ自カラ止メント爲シ其保證シタル金高ヲ拂フタルト雖モ其不動産ニ付ニ書入質ノ權ヲ有スル數人明許アルニ非カレハ其糶賣ヲ止ム可カラス

第二千八百九十一條 以前不動産ヲ買入レタル者其糶賣ノ時自カラ再ヒ之ヲ買入レタル時ハ以前ノ賣買ノ契約書ニ記シタル價ニ増シタル其價高並ニ其增高ヲ拂フタル時ヨリ以來ノ其息銀ヲ以前ノ賣主ヨリ償ハシムルノ權アリ

一五九